

阿蘇町文化財調査委員会第4集

UCHI NO MAKI JYOU ATO
内 牧 城 跡

一町道内牧中央線改良工事に伴う埋蔵文化財調査一

1998.3

熊本県阿蘇町教育委員会

阿蘇町文化財調査報告書第4集

UCHI NO MAKI JYOU ATO
内 牧 城 跡

—町道内牧中央線改良工事に伴う埋蔵文化財調査—

1996. 3

熊本県阿蘇町教育委員会

序 文

阿蘇谷には数多く遺跡が点在しております。ここ阿蘇町にも近年の発掘調査により空白であった阿蘇の歴史が明らかに成りつつあります。

本書は阿蘇町道内牧中央線改良工事に伴い、平成6年度に実施した周知の埋蔵文化財包蔵地である内牧城跡及び下層の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査の結果、戦国時代及び平安時代の遺構・遺物を検出し、特に遺物に関しては阿蘇地方の在地生産体制を検討する上で、貴重な資料を得ることができました。

この報告書が文化財保護の推進並びに学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査及び報告書作成に際しましては、県文化課をはじめ多くの皆様にご指導、ご協力を賜りましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

阿蘇町教育長 森 今朝一

例　言

1. 本書は、町道内牧中央線改良工事に伴い、事前に実施した埋蔵文化財発掘調査である。
2. 発掘調査は平成6年11月2日～平成7年2月3日にかけて実施した、熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧中町267の3～267の7に所在する内牧城跡及びその下層の調査報告書である。
3. 現地調査は熊本県教育委員会文化課の指導のもとに緒方が担当し、調査事務は町教育委員会が行った。
4. 出土遺物の整理は、町教育委員会にて水洗い・接合を行い、熊本県文化財収蔵庫にて石膏入れ・拓本を行った。
5. 発掘現場での実測は（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を緒方が行った。写真撮影は緒方が行った。
6. 遺物の実測は、主として（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を緒方が行った。
7. 遺構及び遺物の製図は（有）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
8. 遺物写真撮影及び写真焼き付けは徳永琢馬氏（ジャッドスタジオ）に依頼した。一部、山田大輔氏に依頼した。遺構写真焼き付けはグリーンカラー現像所に依頼した。
9. 基準点測量については、（有）埋蔵文化財サポートシステムの協力を得た。
10. 土色及び土器の色彩については「新版標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財团法人日本色彩研究所色票監修に拠る。
11. 本書の編集・執筆は熊本県教育委員会文化課の指導のもと緒方が担当した。また、報告書作成においては県文化課を始め、多くの諸先生方に種々貴重な御指導・御助言を頂いた。
12. 出土遺物、その他図面・写真類など関係資料は阿蘇町教育委員会が保管している。

[本 文 目 次]

序文

例言

第Ⅰ章 調査の概要

| | |
|------------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査関係者・調査組織 | 1 |
| 第3節 調査の経過（調査日誌抄） | 2 |
| 第4節 調査の方法 | 4 |
| 第5節 遺跡の層序 | 4 |

第Ⅱ章 遺跡の概要

| | |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 8 |
| 第2節 歴史的環境 | 8 |

第Ⅲ章 調査の成果

| | |
|-------------------|----|
| 第1節 整地層について | 13 |
| 第2節 戦国時代の遺構・遺物 | |
| 1. 溝跡 | 17 |
| 2. 掘立柱建物跡 | 19 |
| 3. 土壙 | 24 |
| 4. その他の遺構 | 33 |
| 5. V層出土の遺物 | 44 |
| 第3節 奈良・平安時代の遺構・遺物 | |
| 1. 積穴住居跡 | 51 |
| 2. 掘立柱建物跡 | 58 |
| 3. 土壙 | 63 |
| 4. 溝跡 | 65 |
| 5. 包含層の遺物 | 69 |
| 第4節 その他の時代の遺物 | 74 |
| 第5節 撤乱層からの遺物 | 83 |
| 第Ⅳ章 総括 | 86 |
| 主要参考文献一覧 | 89 |
| 写真図版 | 91 |

[挿 図 目 次]

| | | |
|------|----------------------|----|
| 第1図 | 調査遺跡位置図 | 5 |
| 第2図 | 内牧城跡V層面遺構配置及びグリッド図 | 6 |
| 第3図 | 内牧城跡Ⅹ層遺構配置及びグリッド図 | 7 |
| 第4図 | 阿蘇町著名遺跡図 | 11 |
| 第5図 | 整地層平面範囲図 | 13 |
| 第6図 | 整地層出土遺物実測図（1）上層一括 | 14 |
| 第7図 | 整地層出土遺物実測図（2）上層・中層一括 | 15 |
| 第8図 | 整地層出土遺物実測図（3）下層一括 | 16 |
| 第9図 | 1号溝跡実測図 | 17 |
| 第10図 | 1号溝跡内出土遺物実測図 | 18 |
| 第11図 | 溝状遺構実測図 | 18 |
| 第12図 | 1号掘立柱建物跡実測図 | 20 |
| 第13図 | 2号掘立柱建物跡実測図 | 21 |
| 第14図 | 1・2号堀立柱建物跡柱穴内出土遺物実測図 | 21 |
| 第15図 | 3号掘立柱建物跡実測図 | 22 |
| 第16図 | 4号掘立柱建物跡実測図 | 23 |
| 第17図 | 5・10号掘立柱建物跡実測図 | 25 |
| 第18図 | 1～3、8・9号土壤実測図 | 27 |
| 第19図 | 1・8・9号土壤内出土遺物実測図 | 28 |
| 第20図 | 10～13・15・18・21号土壤実測図 | 30 |
| 第21図 | 15号土壤内出土遺物実測図 | 31 |
| 第22図 | 18・21号土壤内出土遺物実測図 | 32 |
| 第23図 | 17号土壤実測図 | 32 |
| 第24図 | 17号土壤内出土遺物実測図 | 33 |
| 第25図 | 不明焼土遺構実測図（全体） | 34 |
| 第26図 | 22・23・25・26号土壤実測図 | 35 |
| 第27図 | 24号土壤実測図 | 36 |
| 第28図 | 23号土壤内出土遺物実測図 | 36 |
| 第29図 | 不明焼土遺構内出土遺物実測図（1） | 37 |
| 第30図 | 不明焼土遺構内出土遺物実測図（2） | 38 |
| 第31図 | 不明土壤実測図 | 40 |
| 第32図 | 不明土壤内出土遺物実測図（1） | 41 |
| 第33図 | 不明土壤内出土遺物実測図（2） | 42 |
| 第34図 | 不明土壤内出土遺物実測図（3） | 43 |
| 第35図 | V層出土の遺物実測図（1） | 44 |
| 第36図 | V層出土の遺物実測図（2） | 45 |
| 第37図 | 1・4号竪穴住居跡内出土遺物実測図 | 52 |
| 第38図 | 1号竪穴住居跡内出土遺物実測図 | 53 |

| | | |
|------|-------------------|----|
| 第39図 | 4号竪穴住居跡内土壌出土遺物実測図 | 53 |
| 第40図 | 4号竪穴住居跡内出土遺物実測図 | 53 |
| 第41図 | 2号竪穴住居跡実測図 | 54 |
| 第42図 | 3号竪穴住居跡実測図 | 55 |
| 第43図 | 3号竪穴住居跡出土遺物実測図 | 55 |
| 第44図 | 5号竪穴住居跡実測図 | 56 |
| 第45図 | 6・7号竪穴住居跡実測図 | 57 |
| 第46図 | 6号竪穴住居跡内出土遺物実測図 | 58 |
| 第47図 | 8号竪穴住居跡実測図 | 59 |
| 第48図 | 6号掘立柱建物跡実測図 | 60 |
| 第49図 | 7号掘立柱建物跡実測図 | 60 |
| 第50図 | 8号掘立柱建物跡実測図 | 61 |
| 第51図 | 9号掘立柱建物跡実測図 | 62 |
| 第52図 | 4~7・30号土壌実測図 | 64 |
| 第53図 | 4号土壌上面出土遺物実測図 | 65 |
| 第54図 | 2号溝跡平面土層断面図 | 66 |
| 第55図 | 2号溝跡内出土遺物実測図(1) | 67 |
| 第56図 | 2号溝跡内出土遺物実測図(2) | 68 |
| 第57図 | 廻層出土の遺物実測図(1) | 69 |
| 第58図 | 廻層出土の遺物実測図(2) | 70 |
| 第59図 | 廻層出土の遺物実測図(3) | 71 |
| 第60図 | 廻層出土の遺物実測図(4) | 72 |
| 第61図 | 廻層出土の遺物実測図(5) | 73 |
| 第62図 | その他の遺物実測図(1) | 74 |
| 第63図 | その他の遺物実測図(2) | 75 |
| 第64図 | 擾乱層からの遺物実測図(1) | 83 |
| 第65図 | 擾乱層からの遺物実測図(2) | 84 |
| 第66図 | 擾乱層からの遺物実測図(3) | 85 |

[表 目 次]

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 第1表 | 阿蘇町著名遺跡地名表 | 12 |
| 第2表 | V層面出土遺物観察表(1) | 46 |
| 第3表 | V層面出土遺物観察表(2) | 47 |
| 第4表 | V層面出土遺物観察表(3) | 48 |
| 第5表 | V層面出土遺物観察表(4) | 49 |
| 第6表 | V層面出土遺物観察表(鉄器1) | 50 |
| 第7表 | IX層面出土遺物観察表(5) | 76 |
| 第8表 | VII層及びIX層面出土遺物観察表(6) | 77 |
| 第9表 | VII層出土遺物観察表(7) | 78 |

| | | |
|------|-------------------|----|
| 第10表 | V層出土遺物觀察表（8） | 79 |
| 第11表 | V層及び擾乱層出土遺物觀察表（9） | 80 |
| 第12表 | 擾乱層出土遺物觀察表（10） | 81 |
| 第13表 | IX層面出土遺物觀察表（鉄器2） | 82 |
| 第14表 | IX層面出土遺物觀察表（石器） | 82 |
| 第15表 | V層出土土師器（杯）計測表 | 88 |

[図版目次]

- 図版1 旧調査区V層面全景、整地層断面及びV層構造検出状況。
1号溝跡・5・10号掘立柱建物跡
- 図版2 旧調査区掘立柱建物跡群、1号掘立柱建物跡、2号掘立柱建物跡・2号土壙
1号土壙、17号土壙（北・西から）
- 図版3 不明土壙土層断面、不明土壙（西・北から）
- 図版4 不明焼土遺構内24号土壙土層断面、不明焼土遺構内24号土壙石臼出土状況
不明焼土遺構内土壙群
- 図版5 不明焼土遺構及び24号土壙土層断面、不明焼土遺構全体、作業風景
- 図版6 旧調査区V層（包含層）遺物出土状況、V層（包含層）須恵器出土状況。
旧調査区IX層面全景
- 図版7 旧調査区IX層面全景、仮設道路部（調査区拡張部）IX層面全景（北東・南西から）
1・4号竪穴住居跡、1号竪穴住居跡内カマド土層断面
- 図版8 4号竪穴住居跡内土壙上面遺物出土状況
- 図版9 2号竪穴住居跡、3号竪穴住居跡（南・西から）
- 図版10 6・7号竪穴住居跡、6・7号竪穴住居跡及び7号掘立柱建物跡、8号竪穴住居跡
- 図版11 4号土壙上面須恵器出土状況（西・南から）、4号土壙検出状況
- 図版12 4号土壙、6号土壙検出状況、6号土壙
- 図版13 旧調査区2号溝跡、作業風景、仮設道路部（調査区拡張部）2号溝跡土層断面
- 図版14 仮設道路部（調査区拡張部）2号溝跡近景（南東・東から）、作業風景
- 図版15 V層面瓦質土器（縫り鉢他） 図版17 V層面土師器（坏類）、陶磁器
- 図版16 V層面土師器（坏類） 国版19 V層面瓦質土器（縫り鉢他）
- 図版17 V層面土師器（坏類） 国版21 整地層下層出土瓦質土器
- 図版18 不明土壙出土陶磁器、須恵器（蓋）
- 図版19 V層（包含層）出土須恵器、土師器
- 図版20 V層（包含層）出土土師器
- 図版21 V層（包含層）出土須恵器、土師器
- 図版22 V層（包含層）出土土師器、須恵器
- 図版23 4号竪穴住居跡内土壙上面出土遺物
- 図版24 4号土壙上面出土遺物（須恵器）
- 図版25 V層（包含層）出土須恵器、土師器
- 図版26 V層（包含層）出土土師器、須恵器
- 図版27 4号竪穴住居跡内土壙上面出土遺物
- 図版28 4号土壙上面出土遺物（須恵器）
- 図版29 V層（包含層）出土土師器、須恵器
- 図版30 V層（包含層）出土須恵器、石器、不明焼土遺構内24号土壙出土石臼
- 図版31 V層面出土鉄器
- 図版32 摾乱層からの遺物

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

『阿蘇町道内牧中央線景観計画・設計報告書』が町より出されたのは、平成4年度のことである。これまでの内牧は、城下町・宿場町・温泉地として発展してきたが、広域交通（大分～熊本～宮崎～長崎県）のターミナルポイントの地にありながらも、町並の発展過程から幹線道路は外周部にあって、内牧中心部とのアクセス性がないため、公共交通の大型バスと市街地内交通との混亂が年々高まって来ている。内牧中央線は内牧市街地の中央部を貫通することで、町民の生活に密接に結び付いた生活道路としての市街地内交通環境の改善と、阿蘇の自然と文化に誇る広域幹線道路とのネットワーク化を果たす広域観光道路として、重要な役割を担っている。

この内牧中央線道路改良工事に伴い、町は平成4年12月に、県文化課へ現地調査を依頼した。計画路線が周知の埋蔵文化財包蔵地である「内牧城跡」及び豊後街道に付随する「内牧御茶屋跡」を縦断する形で計画されているので、確認調査が必要と判断された。直ちに町教育委員会は県文化課に確認調査を依頼し、県文化課が確認調査を行った。調査は、町立図書館移転に伴う解体等があったため、平成5年10月、12月、平成6年3月の三次となった。その結果、過去の開発により搅乱されている部分もあるが、整地層及び柱穴、陶器・鉄製釘等、また土師器片が下層より検出され、発掘調査が必要となった。この確認調査の結果をもとに同年11月～12月の2カ月間の予定で、対象区域である約433m²について事前調査を行うこととなった。しかし、調査を進めて行くなかで、調査対象区西側の仮舗装されている部分にも遺構の展開が推測され、急速、調査区の拡張を計画し、県文化課との協議の末、仮舗装部分約257m²を拡張した（調査总面积約690m²）。

一方、道路改良工事及び上下水道排水管付設替工事は、平成6年度に繰り越しているが、補助事業の制約上、工期は同年9月までを限度とされていたが、再延長した。

第2節 調査の組織

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 調査主体 | 阿蘇町教育委員会 | | |
| 調査責任者 | 阿蘇町教育長 | 森 今朝一 | |
| 事務局 | 阿蘇町教育委員会事務局長 〃 事務局次長 〃 社会教育係長（平成7年度） 〃 参事（平成6年度） 〃 参事（庶務担当） | 江入 鐘雄 井 刚昭 種子野謙二 家入 幸一 石本 勝代 | |
| 調査担当者 | 〃 学芸員（平成7年度） | 緒方 徹 | |
| 調査協力者 | 松本 健郎、高木 正文、高谷 和生、木崎 康弘、西住欣一郎、古城 史雄 濱田 彰久、美濃口雅朗、網田 龍生、白井 勝子、戸田 清恵、古嶋 章 山田 大輔、清田雄一郎、渡辺 麻野、町建設課、町文化財保護委員 (有)埋蔵文化財サポートシステム | | |

| | |
|--------|--|
| 発掘作業員 | 渡辺スイ子、工藤 フキ、山部アイ子、山部 シナ、山部ケサミ、高宮そい子 岩下タミ子、岩下 ラク、村上 美子、岩下シマエ、高宮 サヨ、甲斐 ヨキ 山本カズコ、和田勢伊子、甲斐 邦子、橋本 尚子、岩永タマエ、家入ミヤ子 市原いつみ、後藤ちえ子、河原ウメ子 |
| 整理作業員 | 成瀬 和彦、小西 文博、佐藤 盛樹、甲斐龍太郎、竹原 由香、赤尾真由美 (以上町) |
| | 後藤 直美、淵上 慶子、吉田 律子、山元 友子、村山 紀子、上田 律子 上村 孝子、水本寿美子、今福 英子、荒牧 陽子、河崎 節子、山野 孝子 山内 洋子、尾方マサミ、米倉 五月、吉永恵美子、早野 弘子、大塚 磯子 塩田喜美子、宇野 琴子、増田 久子、境 美恵子、江島 圓子、吉本 清子 宮本 幸子、橋本由美子、徳永みどり、重永 照代、山下千栄子、山切 律子 (以上県文化財収蔵庫) |
| 現地踏査担当 | 熊本県教育委員会 文化課 調査2係長(主幹) 松本 健郎 |
| 確認調査担当 | 熊本県教育委員会 文化課 文化財保護主事 西住欣一郎 (敬称略) |

第3節 調査の経過（調査日誌抄）

- 平成6年11月3日 表土剥ぎ第1日目。調査区北側は擾乱が酷く調査から除外する。
 県文化課より西住氏来跡、表土剥ぎに立ち合って頂く。
- 4日 表土剥ぎ第2日目。調査区南側に整地層を検出、他の遺構も見え始める。
 整地面から調査を始めると同時に擾乱掘りをする。メッシュ杭を5Mで設定する。
- 9日 整地面より鉄製釘、陶磁器等が出土する。
- 11日 写真機材が届いておらず、E・FグリッドのV層面遺構検出から行うことにする。
 IV層を埋土とした柱穴を確認する。遺構の埋土が擾乱土と類似しており、遺構検出に苦労する。
- 15日 小雨が降り続き、この頃から寒さが厳しくなる。
- 17日 天気が優れない中、整地層の写真撮影をする。この一週間、天気がグズついた。
 掘立柱建物を検出。
- 25日 H～Jグリッド遺構検出・遺構掘り。不明溝状遺構検出。
- 30日 整地層の実測を終え、掘り下げる。久しぶりに天気が晴れとなり、暑いくらいの日和であった。作業が予定通りに進まず、能率を上げるために作業員を8名から12名にする。11月は雨が多く作業性が悪かった。
- 平成6年12月1日 2号掘立柱建物の柱穴を擾乱下部より検出。整地層部分V層遺構検出。
- 5日 阿蘇山初雪。遺構検出面（V層）が砂層のため風化が著しく、写真撮影・遺構実測を急ぐ。毎日のように小雨が降り、思うように作業が進まない。
 整地層下層から、磨製石斧・不明銅製品出土。

- 平成6年12月6日 A～Dグリッド、遺構掘り。朝は霜が酷く、霜を取り除くのに一苦労だ。
- 7日 町文化財保護委員現地説明会を開く。現時点での、調査の成果を説明。
- 8日 遺構の実測が残り、埋文サポートシステムと夕方遅くまでかかり、V層面の調査を終了する。不明焼土遺構の写真撮影のみ残った。
- 10日 V層以下Ⅶ層面まで重機にて取り除く。この時点で遺物の集中具合が、はっきりと分かる。Ⅶ層面の調査を開始する。現調査区西側の仮設道路部分は、下部まで擾乱、が及んでいると考えられていたが、意外に残りが良いことが分かり、調査区拡張を計画する。
- 12日 Ⅶ層（包含層）振り下げ。遺物は単位性をもって出土し、下部に遺構が存在することを確信する。
- 14日 調査区拡張部にメッシュ杭設定。作業員を17名に増員する。
- 16日 調査進行状況を視察するため、県文化課より濱田氏来跡。当初の調査予定期限は12月までとなっていたので、町より建設課・教育委員会・文化財保護委員会を交えて今後の調査期限、調査区拡張について協議を行った。
- 20日 Ⅶ層遺物取り上げ及び遺構検出。須恵器の長頸壺、横瓶出土。遺構は思ったより見えにくく、Ⅸ層を3cm程振り下げて遺構確定を行った。
- 22日 県文化課より西住氏来跡。しばらく調査の援助して頂くことになった。遺構を振り始める。豊穴住居跡のカマドの残りは悪いようである。
- 27日 年内の作業が本日で終わりのため、遺構実測を急ぐ。当の調査員は明日から農村公園予定地の試掘である。
- 平成7年1月6日 現場作業の仕事始めから早朝より吹雪に見回れる。波瀾の年明けである。
県道路建設課来跡。今後の調査予定期限の協議を開く。
午後より作業が開始出来たが、ビニールシートに水が溜まりポンプにて汲み出しながらの作業となった。
- 9日 拡張部分表土剥ぎ第1日目。V層面まで重機にて振り下げる。工事業者と期限等の打ち合わせを開く。
- 10日 拡張部分表土剥ぎ第2日目。擾乱されている部分が多いが、予想以上にV層面が残っていた。
- 13日 拡張部分V層遺構検出、遺構掘り下げ。不明焼土遺構も続きを検出。
- 14日 旧調査区にて、12日から行っていたⅧ層面遺構実測を終え、工事が開始される。
- 17日 拡張部分は南側からグリッド毎に、V層遺構掘り→写真撮影→実測→重機にてⅦ層まで除去という方法をとった。随時にⅦ層面になったグリッドから包含層掘り下げを行った。
- 25日 Ⅸ層遺構掘り下げ開始。調査区北側の不明段落ちに頭を抱える。
- 31日 作業員さんが現場作業中に転倒し骨折、公務災害扱いとなる。
- 平成7年2月2日 朝、積雪を見て驚いたが、期限が迫っており実測に精をだす。
- 3日 全体写真を撮り、調査用具等のかたづけを済ませ、調査終了。

第4節 調査の方法

本調査に先立ち、県文化課が平成5年10月28日、同年5年12月7日、平成6年3月17日に予定路線内の確認調査を行った。合計9本のトレンチを設定して行われ、その結果、遺構の存在及び遺物の出土が確認された。本調査ではこの結果をもとに調査区の設定を行った。

本調査は、平成6年11月から平成7年2月まで実施した。グリッドの設定は、縦長の調査区を縦断する形で4級基準点を用いて5×5mのメッシュを組んだ。調査区の南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で示した。調査区の拡張を計算に入れていなかったので、東方向のアラビア数字はマイナスで示すことにした。グリッド配置とグリッド名は各遺構配置図に示した（第2～3図）。

本調査では、最初に重機により表土を取り除いた。調査区北側から表土剥ぎを始めたが、北側は擾乱が激しく一部調査区から除外した。表土剥ぎ時に、遺構が見えてはいたが、擾乱と見分けが付かず、基本層序を確認するまでは、遺構検出に苦労した。

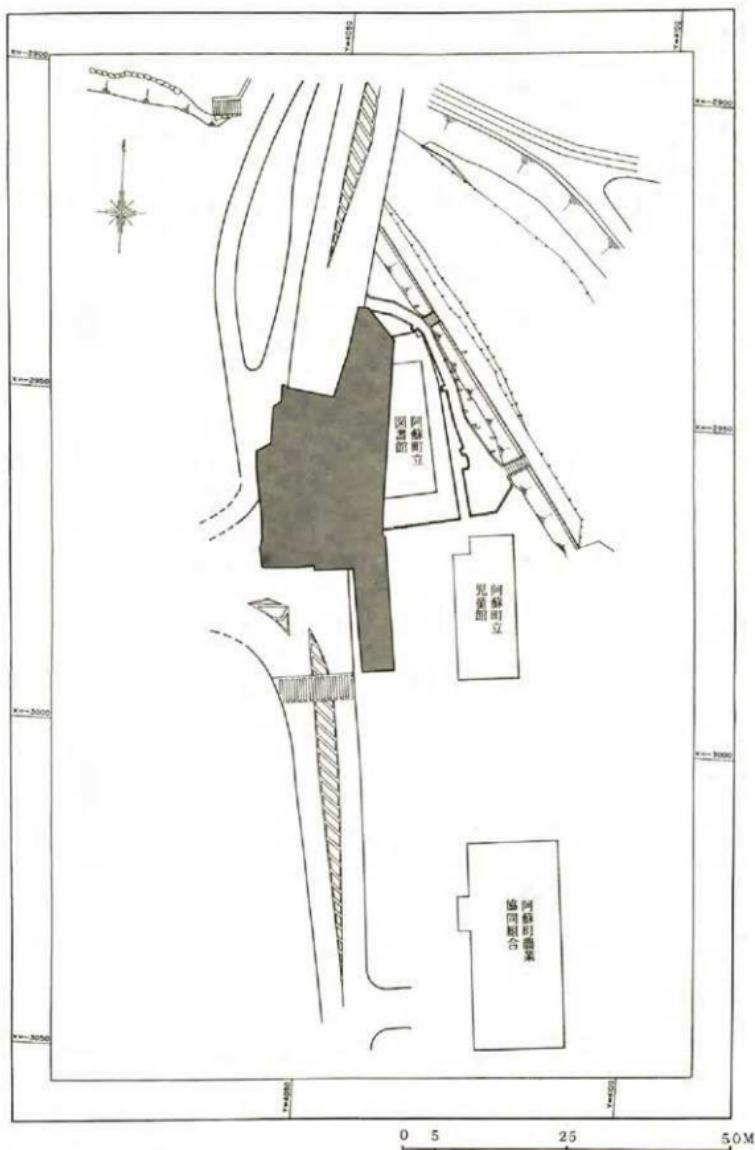
戦国期の調査を終了し、平安期包含層までは遺物が含まれていないことを確認し（VII層の遺物はグリッド一括にて取り上げた）、重機にて掘り下げた。

調査区拡張部分に関しては、北側から遺構を検出し、遺構掘り下げをし、次のグリッドに移って前記を行い、その間に写真、実測とグリッド毎に終了させ、終了と同時に重機にて下層まで掘り下げた。遺構の実測はグリッドのメッシュに沿って20分の1の縮尺で実測を行い、一部を主軸に沿って、任意のポイントを設定し10分の1の縮尺で実測を行った。

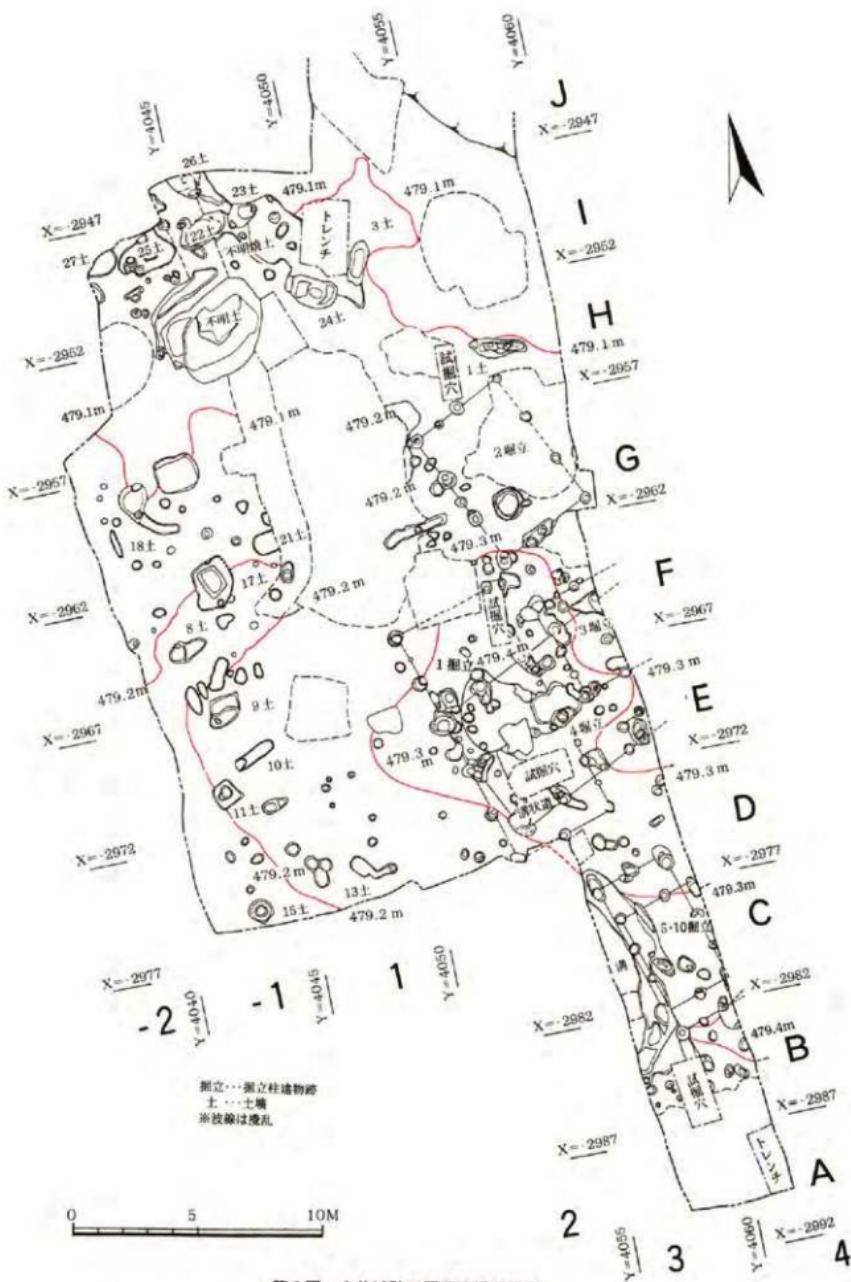
第5節 遺跡の層序

遺跡の基本的な層序は次のとおりである。

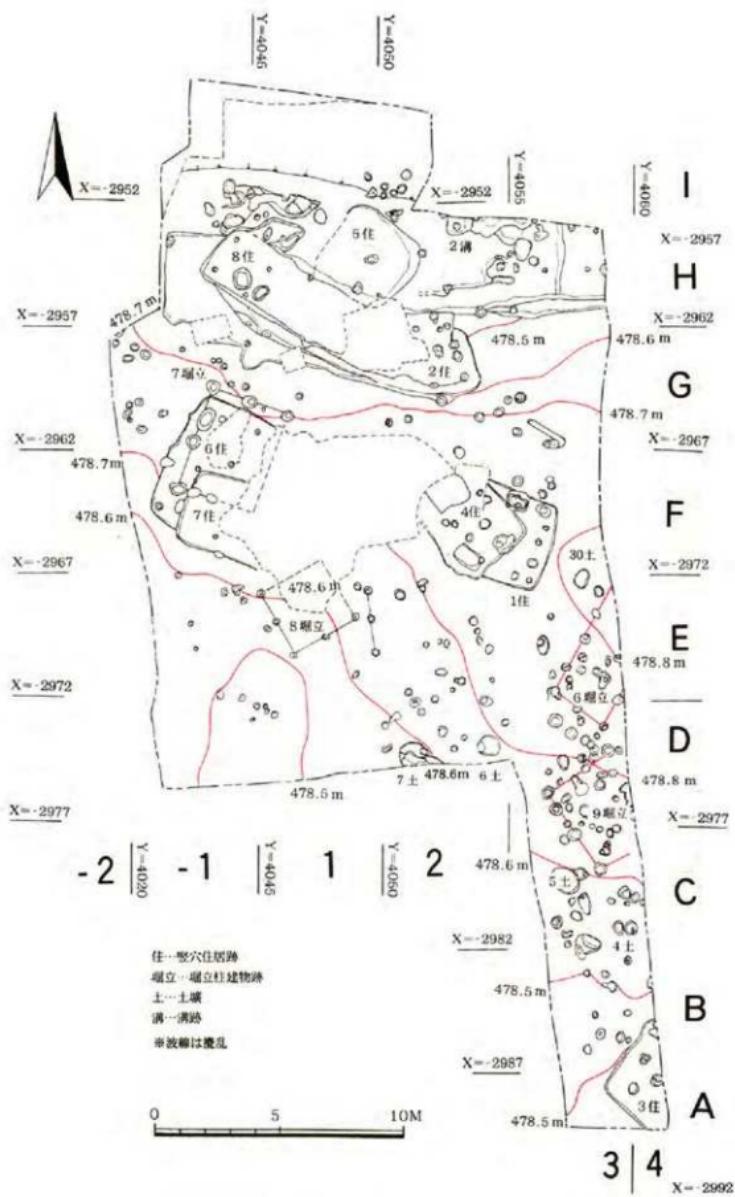
| | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| I層 表土（クラッシャーラン） | } 摭乱層 |
| II層 砂層1 | |
| III層 砂層2（小石混じり） | |
| IV層 整地層（細かく分層できるが、一括してIV層とする） | 不明整地面。 |
| Va層 灰オリーブ色砂質土1 | （Y 5/2） 戦国期遺構検出面。遺物少量含む。 |
| Vb層 灰オリーブ色砂質土2 | （Y 4/2） Va層よりも色調が暗くなる。 |
| VI層 灰色硬質土 | （10Y R6/1） 無遺物層。移植ゴテが曲がる程硬い。 |
| VII層 灰黄褐色土 | （10Y R4/2） 錫倉期遺物包含層。（少量の遺物が入る） |
| VIII層 黒褐色土 | （10Y R3/1） 平安期遺物包含層。（縄文～古墳も混じる） |
| IX層 褐色粘質土 | （10Y R4/6） 平安期遺構検出面。 |
| X層 黄褐色粘質土 | （10Y R6/5） 白色砂粒状の火山灰が混じるローム層である。 |
| XI層 黄橙色粘質土 | （10Y R7/8） X層よりも粘性が強くなる。 |



第1図 調査遺跡位置図



第2図 内牧城跡V層面遺構配置図



第3図 内牧城跡Ⅸ層面遺構配置図

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

内牧城跡は、熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧字中町に所在する。

阿蘇町は、熊本県の北東部に位置し、東は一の宮町・高森町・南は白水村・長陽村、西は菊池郡大津町・同旭志村・菊池市、北は大分県日田郡上津江村・南小国町に接する。西から北は標高1,000m前後の阿蘇外輪山、南は標高1,200~1,500mの阿蘇山系からなり、中岳及び中岳火口がある阿蘇外輪山と阿蘇山系の間に通称阿蘇谷（東西約18km、南北25km、周囲128kmの雄大さを誇る、阿蘇カルデラの北半を阿蘇谷、南半を南都谷と称する）と呼ばれる平坦地が開けている。田畠と原野からなる平坦地を白川支流の黒川が東から南に貫流する。内牧は阿蘇谷の北西部、黒川沿いのほぼ中央部に広がる標高480mの微高地（標高差2~3m）に立地している。

内牧は町の中央部に位置し、黒川に沿って温泉が各所に湧出し、旅館・商店が東西に軒を連ねる。南に阿蘇五岳を眺め、背後に外輪の山々を這らし、温泉街及び観光地として明治の初め頃より栄えてきた。

第2節 歴史的環境

(1) 旧石器・縄文時代

阿蘇町は各地にわたり多数の遺跡が分布し、その数は180カ所以上に及んでいる。最古の遺跡は、旧石器時代の大觀峰遺跡である。旧石器時代の遺跡は、阿蘇山火口丘の北外輪山上に点在しており、近年では、カルデラ内を臨む外輪山内側の斜面からも石器が表採されている。

縄文時代の遺跡は北外輪山麓に沿った標高500~550m地域に密集している。この標高は、ほぼ水田地と畠・山林原野を区別する線をなしている。なかでも西湯浦二本松遺跡（野付遺跡）は比較的大きなものである。このほか町内で出土した遺物には石器・石斧・石匙・磨石などの石器、押型文をはじめとする早期から晩期までの土器形式が間もなくみられ、永年にわたり人々が居住していたものと推定される。折戸遺跡（三久保）からは、豊後水道の島嶼で産出する黒曜石の削片なども出土しており、この時期の交易の一端をうかがわせる。

阿蘇の縄文人は外輪山麓に居住し、山野での狩猟生活を営んでいたが、弥生時代には次第に低地での農耕生活へと移行していったものと思われる。

(2) 弥生時代

弥生時代の遺跡及び遺物の出土地は、標高400~500mの外輪山麓部、黒川の自然堤防上、カルデラ内の微高地などに分布している。縄文時代のように、遺跡が北側の外輪山麓部に集中するということがなくなり、上記のような立地の背景には、稻作の普及と耕地の拡大、それに伴う「ムラ」の分化などの事象があったと考えられる。阿蘇町の弥生遺跡の特徴として、前期及び後期の遺跡が少ないということ（実態が隠れていない）である。しかし、中期（黒髪式）の西小園前田遺跡の竪穴住居跡の床面から石包丁が出土しており、阿蘇谷の稻作関連資料としては最も古いものである。また狩尾遺跡群の方無田遺跡からも中期（城ノ越式）の竪穴住居跡が検出されており、これから発掘調査に期待したい。後期及び終末期に関しては、陣内遺跡（西湯浦）、下山西遺跡（乙姫）、宮山遺跡（赤水）、狩尾遺跡群など集落遺跡として著名である。

(3) 古墳時代

阿蘇谷の古墳は、一の宮町の中通地区及び手野地区に密集しており、当初は阿蘇町には古墳は存在しないと考えられていたが、近年の調査で徐々に明らかになりつつある。

塔ノ木古墳群（小里）のほか、濱川（三久保）・御塚（南宮原）などにもみられ、源太ヶ塚（湯浦）・二本松（西湯浦）・古園村下（狩尾）・道尻（役犬原）に石棺群が残り、彷彿鏡・銅戈・ガラス製の勾玉などが出土している。九州の中央山地にあって豪族の発生と広域にわたる文化的交流のあとをうかがい知ることができる。時期は、村下石棺群が4世紀末と最も古く、他は6・7世紀に属するものと考えられている。古墳時代の集落遺跡は、現在のところ阿蘇町では実態が判明していない。

(4) 歴史時代

平安期の『和名抄』には、阿蘇郡のうちとして、波良・知保・衣尻・阿曾の4郷が見え、阿蘇町は波良郷に比定されている。阿蘇郡の郡衛については、その字名より阿蘇町役犬原字大正院に比定する説が有力視されている。肥後国府から阿蘇を経て豊後国府に至る古代の官道があり、「延喜式」には駅家として二重駅・蚊薙（かわら）駅などを見る。二重は阿蘇町の二重峠付近、蚊薙は一の宮町に比定されており、古代の交通の要地となっていたことが推察される。

現在の阿蘇山上神社から草千里の間にかけては、三十六坊（古坊中）の寺院跡とされている。年代に関しては、様々な解釈がなされている。（肥後國誌等）

昭和39年、この一帯で牧野改良が行われ、おびただしい数の石像物が出土したと伝えられており、高僧を葬ったと思われる入定甕も二基見つかっている。それに板碑や石像物が、今もなお点在している。昭和54年に県教育委員会が、古坊中の発掘調査を試みたが、阿蘇山噴火で調査の中止を余儀なくされた。しかし、調査報告書は資料・文献を発掘したこと、阿蘇の山岳仏教の世界がおぼろげながら浮かんできた。

古坊中は、山岳仏教の榮華の風景の全貌を閉ざしたまま、今もなお山上に眠っている。現在、坊中にある西巖殿寺は、明治期に学頭坊のあった跡に本堂を運んできたものである。

戦国期の城砦で、現在、阿蘇町に残っている城跡に二辻塚（二辻津嘉・贊塚）城跡・湯浦（野中）城跡・小倉（坪内）城跡・内牧城跡がある。

二辻塚城は『古城考』によれば、明応2年（1493）阿蘇氏の家臣藏原志摩守が居城したという城跡は阿蘇谷の水田地帯にあって「本塚（標高573.8m・南側麓の水田面よりの比高約80m）」・「北塚（標高552.1m・北側麓の水田面よりの比高約60m）」と称される二つの独立丘陵地に位置している。两者とも現在原野であるが丘陵の背面は円形状の平坦地（本塚の直径30m、北塚の直径24m）となっており、さらに、これより3~4m下がった所にも同心円状の曲輪（幅5~15m）が観察される。

湯浦城は、『古城考』によると、阿蘇家家臣の小島三郎とその弟、小島次郎が居城していたという。城跡は高知川と恵良川の合流点にあって、「城山」と称される山稜末端部（標高560m・南側麓の湯浦（原・中島）の集落よりの比高約70m）に位置する。頂部分は、南北方向に主軸を呈する長方形の平坦地となっているが、2条の堀切（幅5m・深さ3m）によって大きく2区画（南西側・長径125m・短径75m・北東側・長径120m・短径64m）分かれしており、これより3~4m下がった所にも、平坦地を取り巻く幅6~7mの曲輪が観察される。

小倉城は、『阿蘇郡誌』の小倉神社の頃に「伝説によれば、本社は葦原美濃守守護職となり坪内に築城の際、小倉城鎮護の神として天神を祀りし武運長久を祈り社殿を改修す。その後、天正年間九州兵乱に落城

」と記されている。城跡は字「坪内」にあって、南西方向に主軸を呈する帯状の山稜末端部（標高523.5m・南側麓の水田面よりの比高約40mに位置する。しかし山頂部分には人工的と思える様な平坦地ではなく、北東側の鞍部に築かれた堀切（幅20m・深さ8m・現在、道路に使用されている）が、唯一の城跡関連遺構となっている。

内牧城は、「肥後國誌」に「阿蘇大宮司家臣辺春丹波守盛道天正ノ始在城ス薩摩島津義久當都亂ノ時落城盛道自殺ス、天正十六年潤五月加藤清正候ノ頃地トナリ家臣加藤右馬允正方城代トナル、正方出陣ノ間ハ林平之留守居タリ正方八代移城ノ後ハ加藤越後正直城代トナル、或記當城ハ慶長三年ニ清正候修建之元和二年石垣等崩壊スト云。」とあり、戦国期の築城とみられるが、近世、加藤清正領となり増築・補強されたと考えられる。城代は、初代・二代が加藤可重・正方父子、正方が八代城代に転じた後は加藤正直が三代となつたが、一国一城令で廢城となつた。この地は室町期には史料上に現れないが、黒川の自然堤防である微高地がその名の如く内牧として利用されたと思われる。城の周辺は低湿地で、加藤氏の時代に黒川を南に改流させたため、南北の掘りとなり、西は黒川・花原川の合流地で本丸の東に二の丸・三の丸を築いて備えていたという。現在は、旧温泉街の中心地であり、開発が進んでいたために、城跡としての面影をほとんど止めていないが、「本丸」・「二の丸」・「三の丸」という小名が現存しており、また、水濠の役目を果たしたと伝えられる古川の残存部があるので、おおまかな城跡の範囲がつかめる。古川を城跡の北限とする各区画の状態は、下記の通りである。「本丸（長方形状の平坦地をなし、東西175m・南北100m）」は現在、町立体育館となっている。部分的な発掘によると地下2~3mの所で、石垣の基礎部と思われるものに接するという。昭和19年、内牧小学校の校庭開墾の折り、「かたばみ（加藤可重の旧姓、片岡の紋所）の紋入の瓦」の破片が多量に出土したという記録がある。

昭和60年2月、内牧字広町（今回の調査区から南西方向約1K地点）の下水道工事において、内牧城の本丸側の石垣から2M離れた場（現地表面からの深さ6M）から2体分の頭骨が出土した。鑑定結果（産業医科大学第1解剖学教室 教授 北條輝幸氏）から、その頭骨（20代男性、30歳前後男性）は斬首の可能性が高く内牧城との関連性について様々な見解が成されている。

一方、「二の丸（舌状形の平坦地をなし、東西75m・南北250m）」は現在、阿蘇町役場等になっている。「三の丸」は、現在、田畠、民家となっている。中央部分に堀切状の溝が走っており東側区画（東西100m・南北150m）と西側区画（東西75m・南北150m）に分かれる。このようなことから、内牧城は阿蘇地方唯一の典型的平城である。町役場前や民家の石垣の中には、城の石垣を再利用したと伝えられるものもある。

なお、魔域の際に、城門は淨信寺と内牧の明行寺の寺門になったとそれぞれの寺で言い伝えられている。

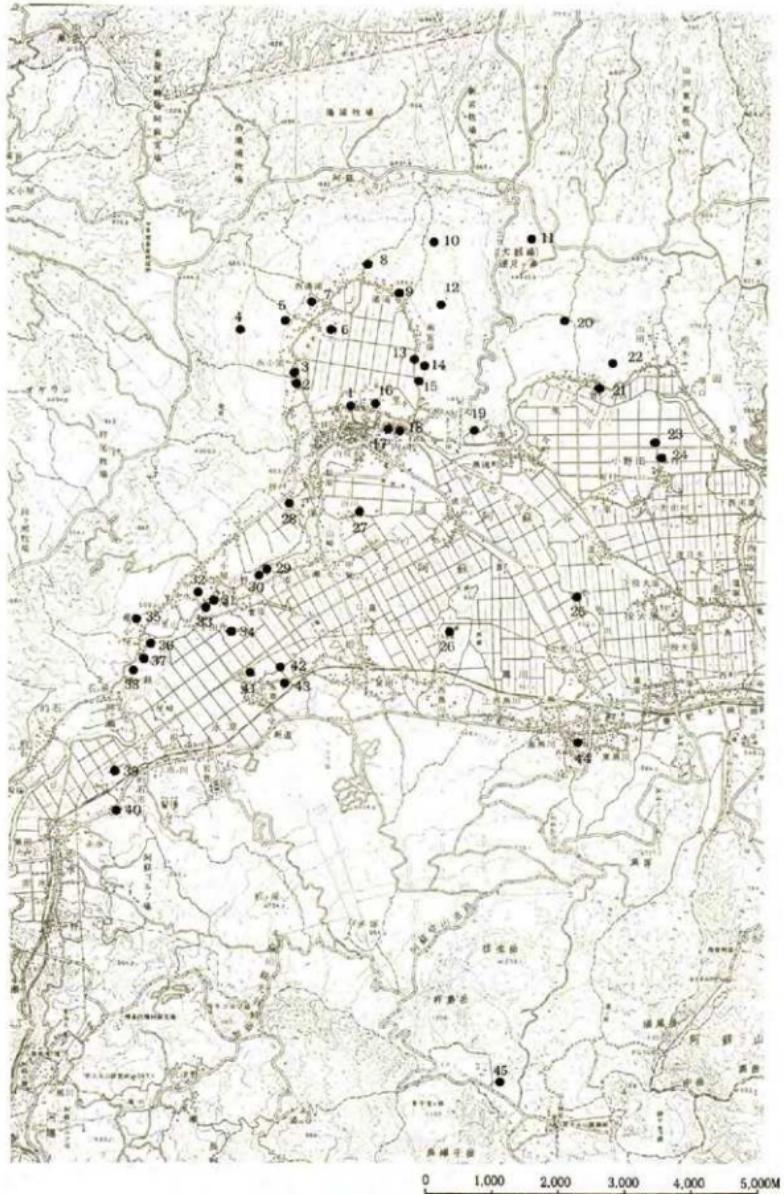
加藤右馬允可重の墓所は湯山にあり、菩提寺は内牧淨信寺にある。

この他阿蘇町には、牛の類域があるが、「古城考」と「肥後國誌」に「端多邊（端辺）山にあり城主年代等不分明」と記されているが、現在その所在地については不明確である。

（5）近世

江戸時代になり、参勤交代が始まり豊後街道に伴い管内の交通網は発達した。細川氏は的石と魔城後の内牧城本丸跡に御茶屋を設けた。さらに、二の丸跡に内牧手水の会所を置いて町並みを整え、小里の北の地に藩倉を設け、内牧は阿蘇地方の中心地となつた。

また、下町・新町・手永会所前（現役場前）に残る火除碑より、正保元年（1644）、文化5年（1808）、文政7年（1824）と内牧が全焼する大火が頻発しており、防火対策として火除けの空地6か所の設置、防火用水路の開通、家造の改善、消防組の組織、夜警などを実施した。これらの施策は、今日も火除委員会として名を残している。内牧御茶屋に関する古文書、記録等は大火で消失しており、一切残っていない。現在残っている茶屋絵図は写しである。



第4図 阿蘇町著名遺跡地図

第 1 表 阿蘇町著名遺跡地名表

| 番号 | 遺 跡 名 | 時 代 | 備 考 |
|----|------------|------------------------|-----------------|
| 1 | 内牧城跡 | 縄文～近世 | 内牧御茶屋・城跡・平安時代集落 |
| 2 | 無田遺跡 | 弥生中期 | 昭和56年県教委調査 |
| 3 | 西小園前田遺跡 | 弥生中期 | 集落 |
| 4 | 野付遺跡 | 縄文 | |
| 5 | 二本松遺跡 | 縄文早～晚期・弥生中～後期 古墳・中世 | |
| 6 | 陣内遺跡 | 弥生終末・古墳後期・中世 | 昭和56年町教委調査・弥生集落 |
| 7 | 横石遺跡 | 縄文中・後期 | |
| 8 | 湯浦城跡 | 中世 | 城郭 |
| 9 | 湯浦遺跡 | 縄文早期 | |
| 10 | 波寄ヶ原遺跡 | 縄文 | |
| 11 | 大觀峰遺跡 | 旧石器 | 昭和59年県教委調査 |
| 12 | 源太ヶ塚古墳 | 古墳 | 昭和59年熊本市教委調査 |
| 13 | 御塚古墳 | 古墳 | |
| 14 | 御塚横穴群 | 古墳後期 | 昭和50年熊本大学調査 |
| 15 | 湯山遺跡 | 縄文早期・弥生終末・古代・中世 | |
| 16 | 塔ノ木古墳群 | 古墳 | 昭和50年熊本大学調査 |
| 17 | 番出遺跡 | 弥生中期・古墳 | 古墳の墳丘は不明 |
| 18 | 新町遺跡 | 弥生 | 内牧小学校 |
| 19 | 小池遺跡群 | 縄文・弥生 | 松ヶ鼻・池の平・池の鶴遺跡 |
| 20 | 賀込遺跡 | 縄文早・後期 | |
| 21 | 小倉城跡 | 中世 | 城郭 |
| 22 | 小倉古墳群 | 古墳 | 昭和55年県教委調査 |
| 23 | 村下石棺群 | 古墳 | 県教委調査 |
| 24 | 本村遺跡 | 古墳中期 | 昭和45年町教委調査（一部） |
| 25 | 道尻石棺群 | 古墳 | 県教委調査 |
| 26 | 二辺塚城跡 | 中世 | 城郭 |
| 27 | 濱川古墳群 | 古墳 | 3基現存 |
| 28 | 折戸遺跡 | 縄文前期 | |
| 29 | 北諸遺跡 | 弥生 | 青銅製武器型祭器出土 |
| 30 | 下ノ原遺跡 | 弥生中期 | " |
| 31 | 古園石棺群 | 古墳 | 県教委調査 |
| 32 | 池田遺跡 | 弥生後期・平安 | 集落・平成3年県教委調査 |
| 33 | 古園遺跡 | 弥生後期・近世 | 集落・平成4年県教委調査 |
| 34 | 明神山遺跡 | 弥生 | 昭和62年丸木船出土 |
| 35 | 産神社遺跡 | 縄文後・晚期・弥生終末期 | |
| 36 | 狩尾前田遺跡 | 弥生後期 | 集落・平成3年県教委調査 |
| 37 | 方無田遺跡 | 弥生中・後期 | 集落・平成3年県教委調査 |
| 38 | 湯の口遺跡 | 弥生後期・平安 | " |
| 39 | 宮山遺跡 | 弥生終末・古墳 | 集落・昭和46年町教委調査 |
| 40 | 宮前遺跡 | 弥生 | |
| 41 | 松山遺跡 | 弥生中期・終末 | |
| 42 | 下山西遺跡 | 弥生終末 | 集落・昭和58年県教委調査 |
| 43 | 鏡山遺跡 | 弥生 | 大正14年青銅製武器型祭器出土 |
| 44 | 西巖殿寺（学頭坊跡） | 中世 | 県文化財調査報告書第49集 |
| 45 | 古坊中跡 | 中世 | " |

第Ⅲ章 調査の成果

内牧城跡の総調査面積は、約690mである。当初は江戸期の参勤交代道に付随する内牧御茶屋の建物跡及び庭園等の出土が予想されたが、近世の開発によりかなりの擾乱を受けており、これらの遺構の出土はみられなかった。しかし、内牧城跡の下層に平安期の文化層の存在を確認することができた。

今回の調査では、大きく分けて黒褐色土、赤褐色土、黄砂の3つのブロック単位で形成される整地層（本土層IV層）、V層面では掘立柱建物跡6軒、土壙10基、溝状遺構3条などの遺構を検出した。遺構内の出土遺物から中世戦国期の内牧城跡の一部若しくは、内牧城跡に伴う施設と考えられる（第2図）。

V層面では、主として平安期の遺物を含む包含層であり、またIV層面では8～9世紀を中心とする平安期の堅穴住居跡8軒、掘立柱建物4軒、土壙5基、その他の遺構を検出した（第3図）。

以降面を追って掲載する。

各遺構及び包含層から出土した遺物の説明は観察表に記載した。

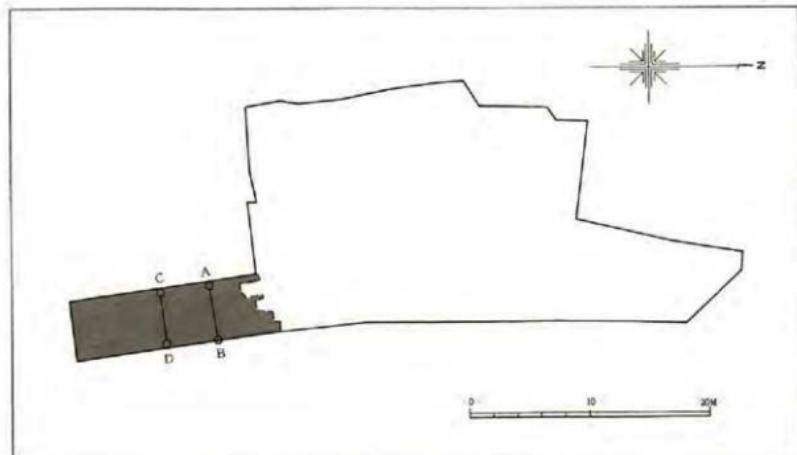
第1節 整地層について

確認調査にて検出されていた整地層は、基本層序としてIV層に値するが、表土剥ぎ時に擾乱層と見分けが付かず、また移植コテが曲がるほど硬く検出に苦労した。面的な残りは調査区南側のみであり、整地層の直上まで擾乱層が及んでいる。調査区壁の土層でも調査区南側以外は確認できず、部分的にしか残っていない。これは、擾乱されたのか、当初からないのかは不明で、整地面の全体範囲を描むことは困難である。

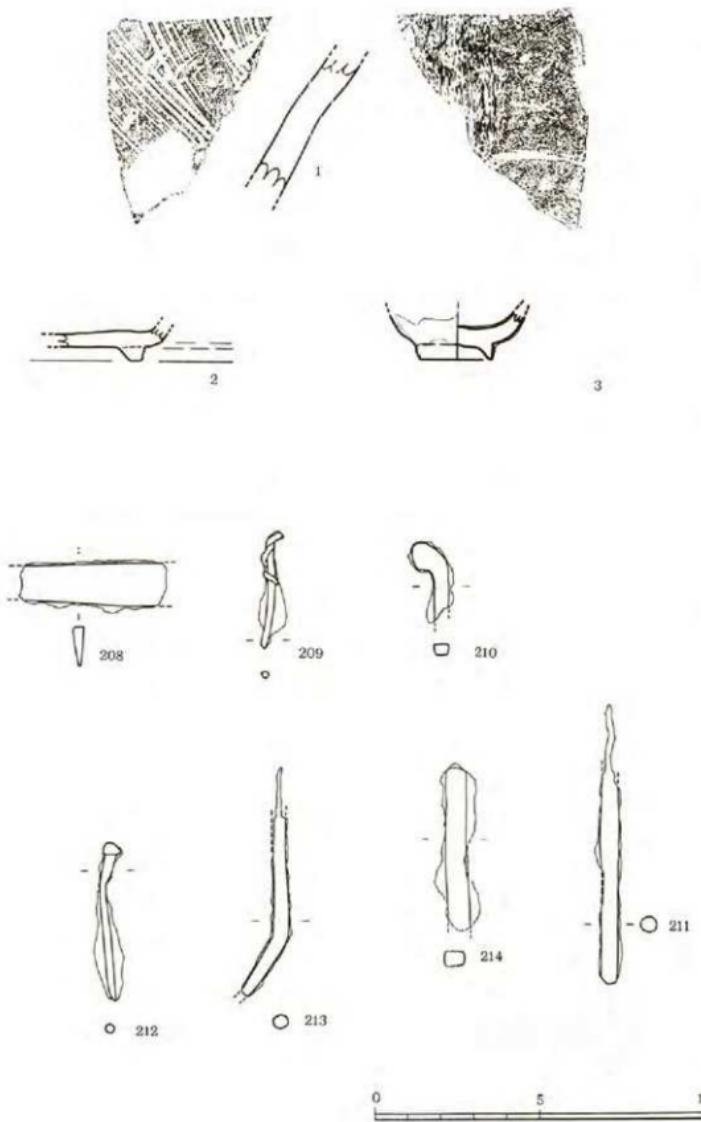
整地層は幾層にも分層できる（付録）。全体的に砂質で硬くしまり、部分的に鉄分が沈殿している。各層ともブロック状になっており、整地の跡を窺える。下層には、焼土・カーボン・灰を含んでいる。

遺物の出土が見られたが、上・中・下層の一括で取り上げている。（第6図～第8図）

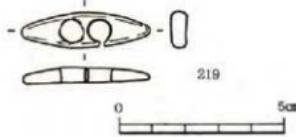
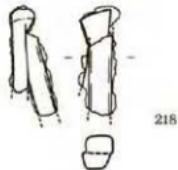
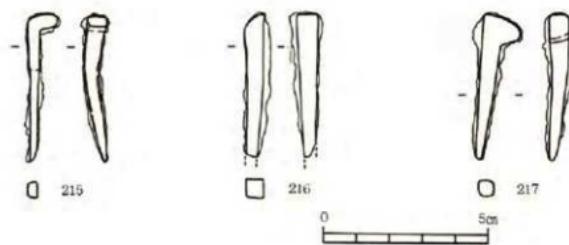
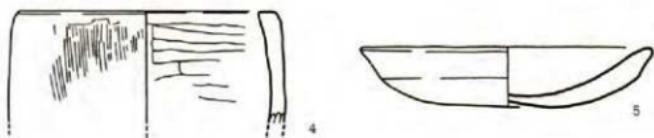
整地層下層の土は、V層面の掘立柱建物・土壙・溝上遺構などの埋土になっている。その埋土より戦国期の遺物が出土しているため、整地層も同年代ではと推定できる。



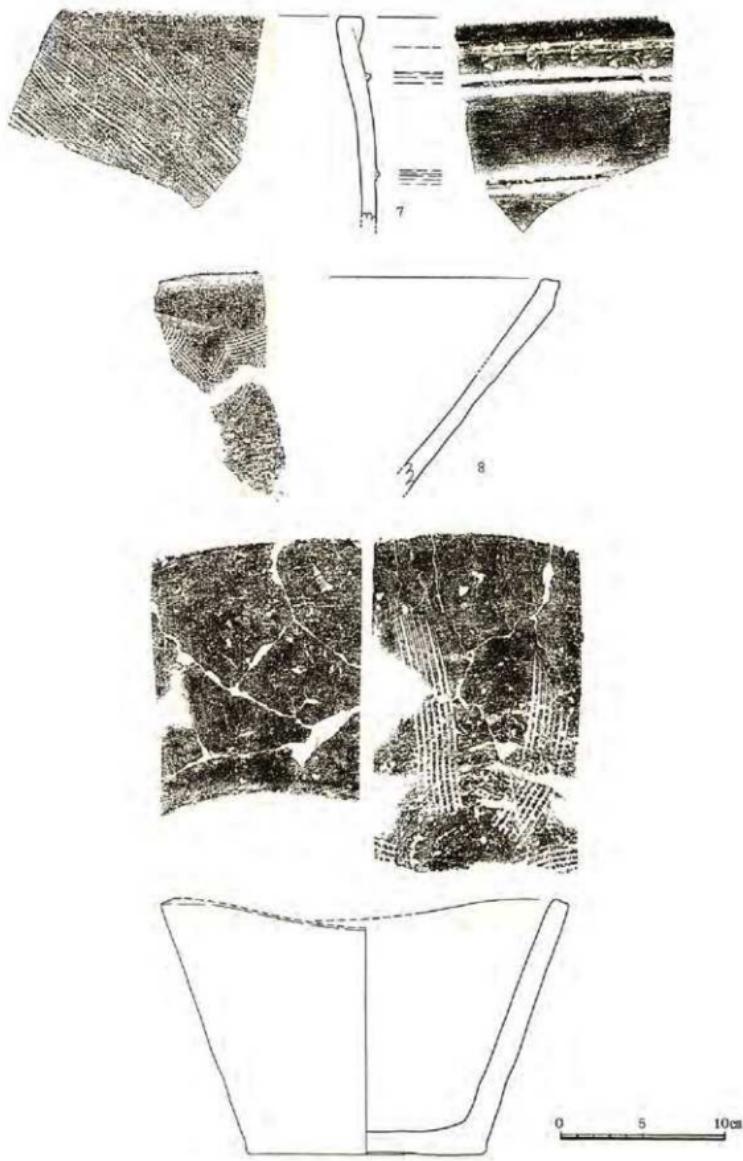
第5図 整地層平面範囲図



第6図 整地層出土遺物実測図（1）上層一括



第7図 整地層出土遺物実測図（2）上段下層一括、下段中層一括



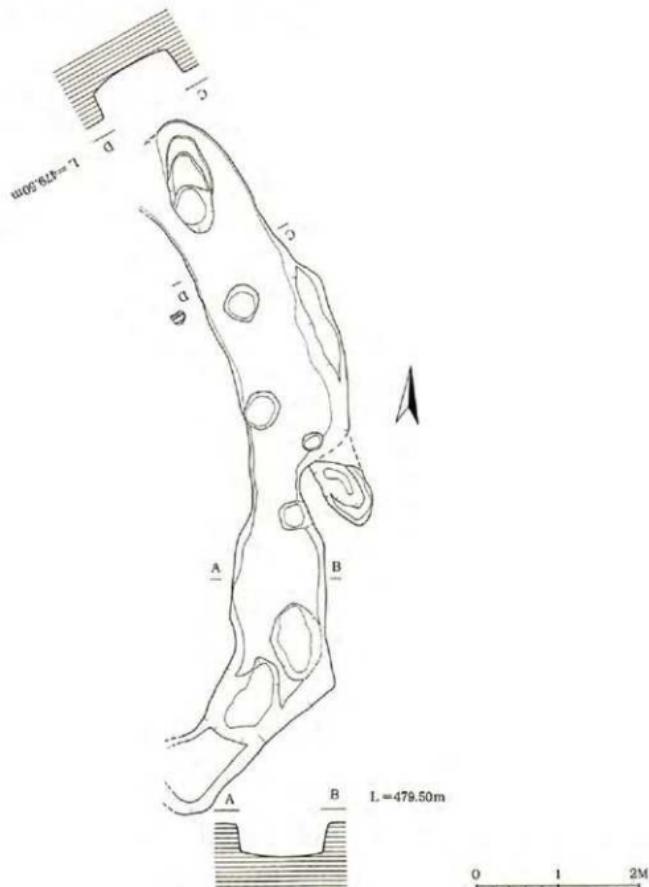
第8図 整地層出土遺物実測図（3）下層一括

第2節 戦国時代の遺構・遺物

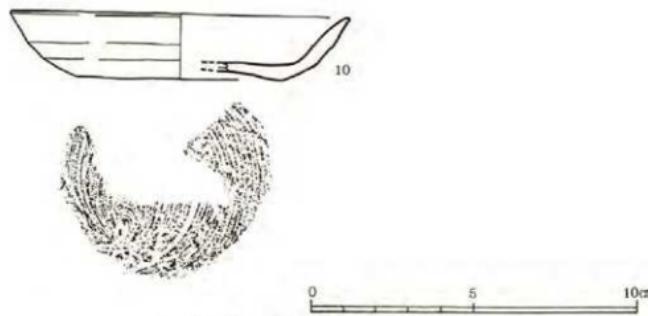
1. 溝跡

1号溝跡（第9図）

1号溝跡は、調査区南側に位置し、5・10号掘立柱建物の柱穴が溝内にある。1号溝の埋土に掘立柱建物の柱穴の掘り込みがあったため1号溝が古いということになる。検出部は緩やかに弧を描いており、両端は調査区外へとのびる。検出部全長840cm、幅60~140cm、深さ40~60cmである。遺物は、土師器の壺が出土した（第10図）。注：（土層図は付録の整地層断面図参照）



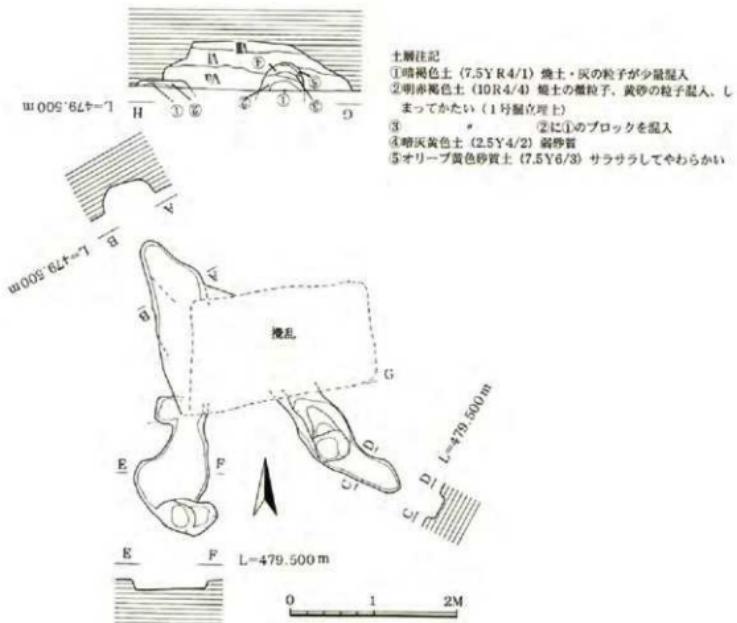
第9図 1号溝跡実測図



第10図 1号溝跡内出土遺物実測図

溝状遺構 (第11図)

溝状遺構は、掘り下げ時の不注意及び中央部を擾乱され、溝状になっているのか、土壤なのか平面形は不明である。南側の2条は、4号掘立柱建物跡のP3・P4と重複関係にあるが、埋土の状態から、溝状遺構→4号掘立柱建物と推定できる。北側部分は擾乱掘り下げ時に掘り過ぎてしまい、遺構のラインを正確に描めなかつた。埋土の状態は各部同じである。遺物の出土はなかつた。



第11図 溝状遺構実測図

2. 挖立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第12図）

調査区中央部で検出。北側を擾乱されているが、梁間2間×桁行5間（10.05m×4.2m）掘立柱建物、或いは北東側の柱穴（P14）を伴うものと考えれば、廐付建物となる。

柱穴は直径約45cm～60cm、深さ約80cm～90cmのほぼ円形である。柱痕跡は確認することができず、埋土は赤褐色土（10R4/4 固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）である。P3は4号掘立柱建物跡のP5と重複している。北東コーナー及び南東コーナーの柱穴は試掘坑下部に確認できた。両妻部の柱間は同じ寸法をとられているが、両桁部はトータルは同じであるが東側にバラツキがある。柱痕跡は確認できず、P11の埋土内より遺物が出土した（第14図）。

2号掘立柱建物跡（第13図）

1号掘立柱建物跡の北側に位置している。東側柱列が擾乱されていたが、その下部から確認することができ、調査区外から南東コーナーを確認できた。基本的に梁間2間×桁行3間の掘立柱建物だが、柱列上に並ぶ柱穴（P a～P d）も伴うものとも考えられ、梁間3間×桁行5間（4.5m×6m）の掘立柱建物であるともいえる。

主軸が4号掘立柱建物跡と直交しており、埋土も同一である。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。柱痕跡は確認できなかった。柱穴はP1～P10までは径約40～80cm、深さ約100cm（P7～P9は上面から推定）で均一とされている。P5とPdは土壤状掘り込み内にそれぞれ柱穴を成している。P1の埋土内より遺物が出土した（第14図）。

3号掘立柱建物跡（第15図）

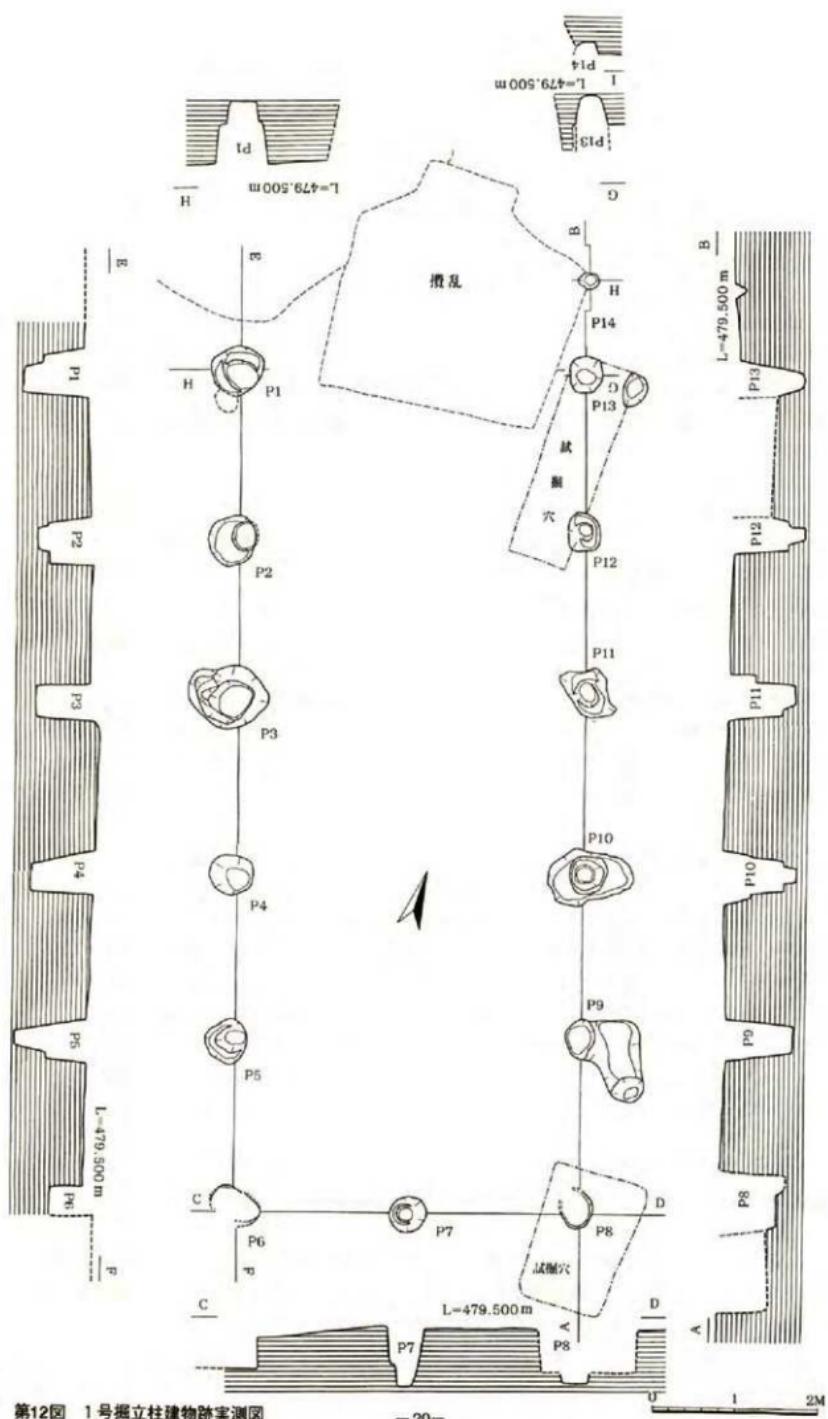
3号掘立柱建物は、桁行方向が調査区外へと延び、検出したのは両桁行1間分（北側約165cm、南側約180cm、P a～P cを含めると2間の可能性有り）、西側梁行2間（約210cm）である。主軸は1号掘立柱建物と直交しており、埋土は赤褐色土（10R4/4 固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）で1号掘立柱建物と同一である。

柱穴は、約25～60cmのほぼ円形で、深さは北側桁行のP1・P a、南側桁行のP5が約60～70cmと深く、他は約25～50cmとなっている。柱痕跡は確認できず、柱穴からの遺物の出土もなかった。

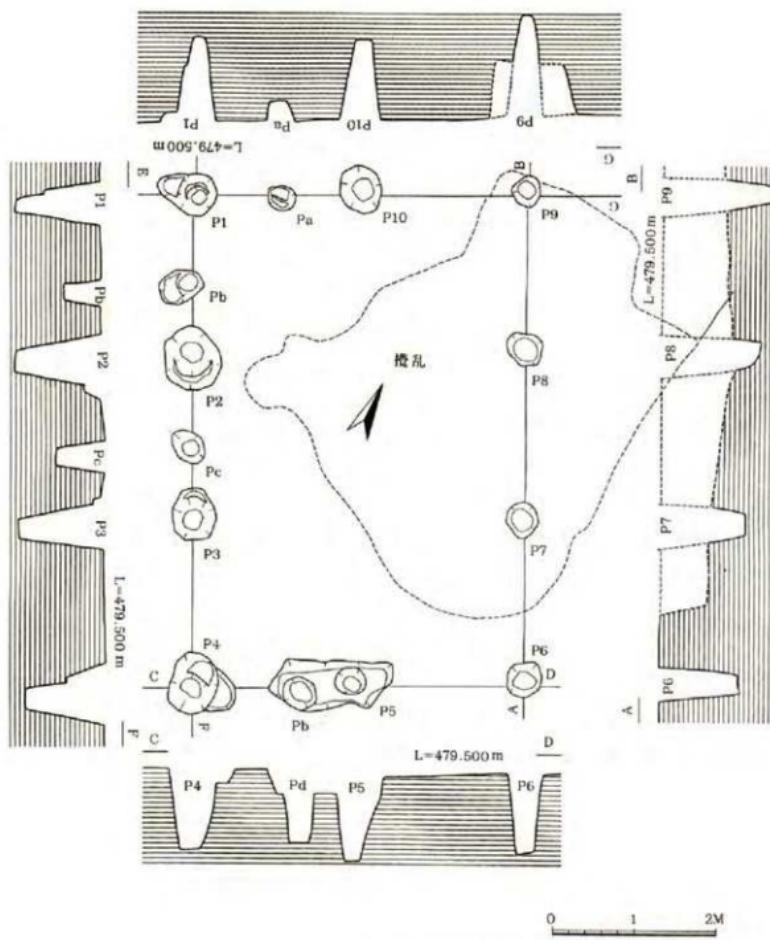
4号掘立柱建物跡（第16図）

4号掘立柱建物は、東側部分が調査区外に延びており、検出したのは西側梁間2間、北側桁行4間・南側桁行3間を確認できた。西側梁間の内、柱穴P5が1号掘立柱建物跡のP4と重複している。柱穴P7・P8は溝状遺構の埋土上面から掘り込んでいる（溝状遺構→4号堀立柱建物の順）。

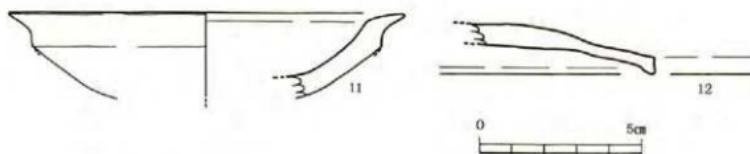
4号堀立柱建物の規模は不明であるが、検出した部分のみでも最大である。埋土は2号掘立柱建物と等しく（黒褐色土2.5Y3/2 黄砂・小石混じりの砂が少量混入。）柱痕跡は確認できなかった。主軸も直交しているので、ほぼ同時期と推定できる。柱穴の平面形状は様々であり、深さはP2が64cm、P10が40cmと浅く、それ以外は約80～90cmと均一になっている。柱穴内からの遺物の出土はなかった。



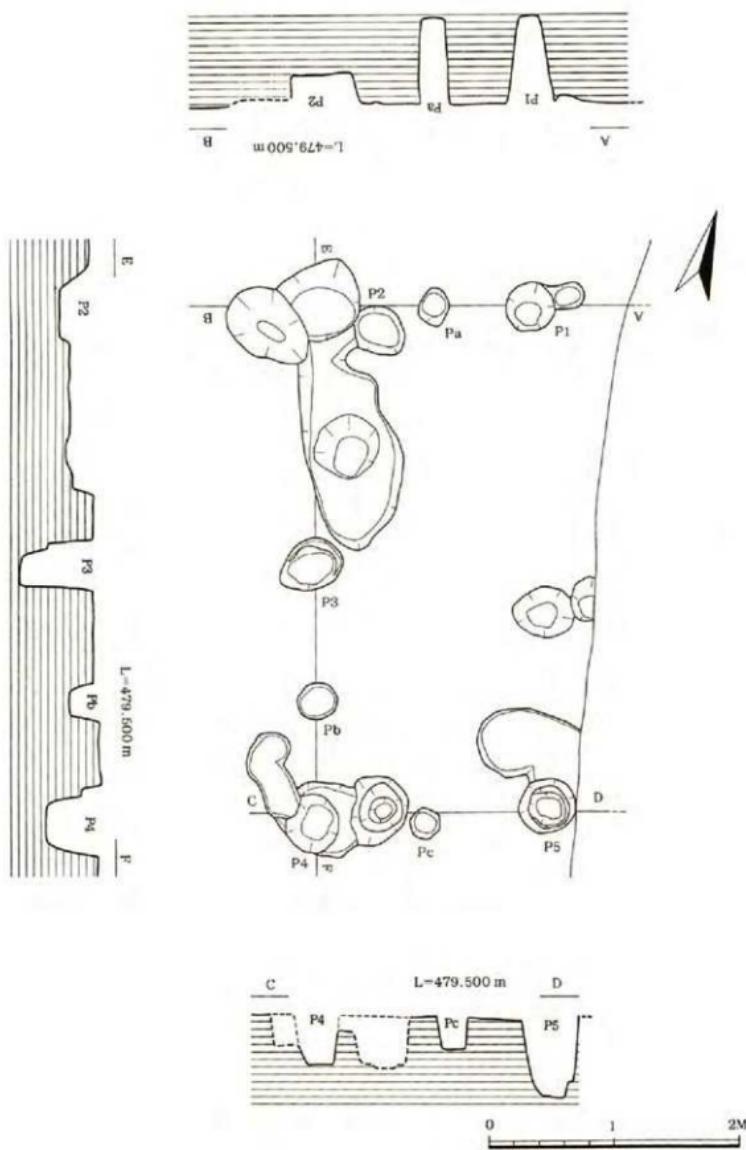
第12図 1号掘立柱建物跡実測図



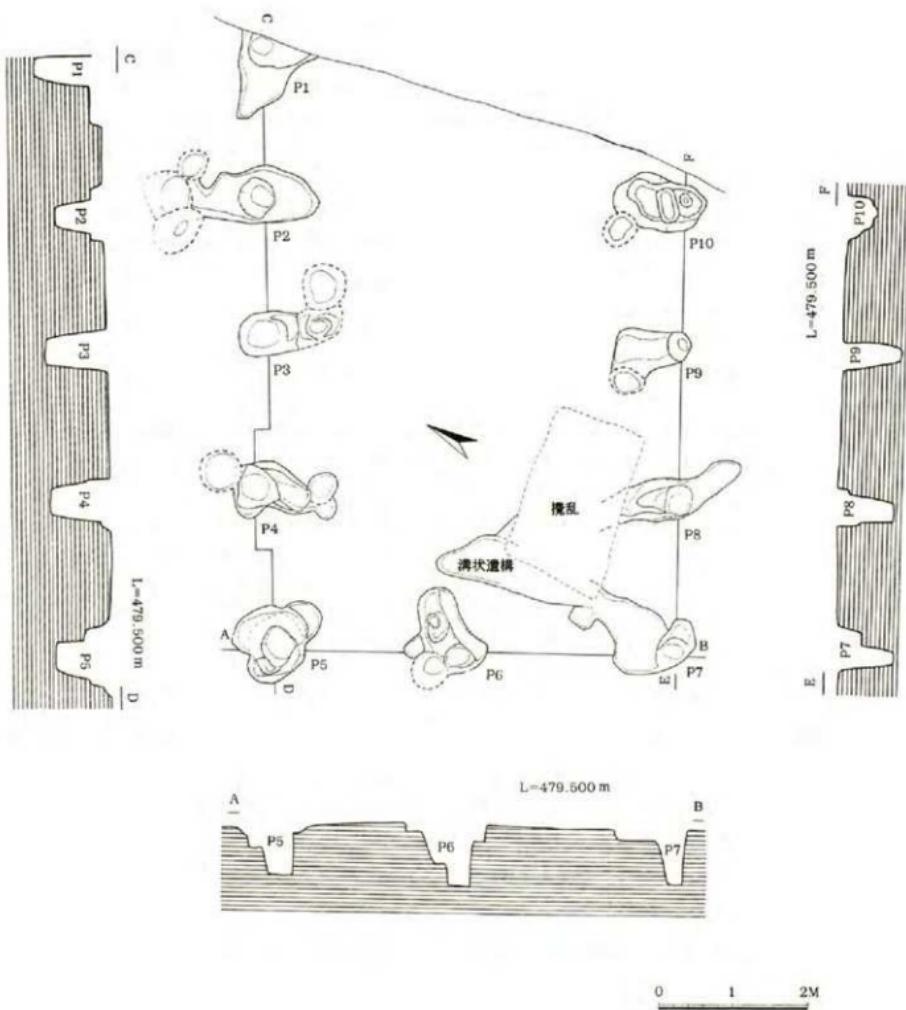
第13図 2号掘立柱建物跡実測図



第14図 1・2号掘立柱建物跡柱穴内出土遺物実測図 (No.11・1号掘立, No.12・2号掘立)



第15図 3号掘立柱建物跡実測図



第16図 4号掘立柱建物跡実測図

5号掘立柱建物跡（第17図）

5号掘立柱建物跡は、南東部コーナーの柱穴が調査区外にあると推定でき、桁行2間×梁間2間（推定約540×300cm・約18尺×約10尺）の規模になる（P8が伴えば、東側桁行は3間となる）。東側桁行は1号溝跡と重複関係にある。1号溝跡埋土上面から5号掘立柱建物の柱穴の掘り込みがあったため、1号溝埋没後、5号掘立柱建物が建てられたと考えられる。柱穴の平面形状は様々であり、P1は2基の柱穴が切り合っており、P3及びP5は土壤状を呈する。柱穴の深さは（溝内の柱穴も検出面と同じレベルで算出すると）約90～100cmであるが、P2が約140cmとかなり深く、P6が約45cmで浅い。埋土は1号掘立柱建物と等しく（赤褐色土10R4/4 固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）、主軸もほぼ同じである。柱痕跡は確認できず、遺物の出土はなかった。

10号掘立柱建物跡（第17図）

10号掘立柱建物跡は、東側柱列が調査区外へと延びているため、建物の規模は不明である。検出できたのは西側柱列2間（約515cm）、北側柱列1間分（約335cm）、南側柱列1間分（約230cm）のみである。南側柱列のP5が伴えば、2間分となる。5号掘立柱建物と同じく西側柱列が1号溝跡と重複関係にあるが、1号溝埋土上面から掘り込んでいることから、1号溝埋没後、10号掘立柱建物が建てられたと考えられる。5号掘立柱建物と10号掘立柱建物の前後関係は、埋土が同一（赤褐色土10R4/4 固く締まり、黄砂・焼土の粒子が混じる）なので不明である。主軸もほぼ同一である。柱痕跡は確認できず、遺物の出土はなかった。

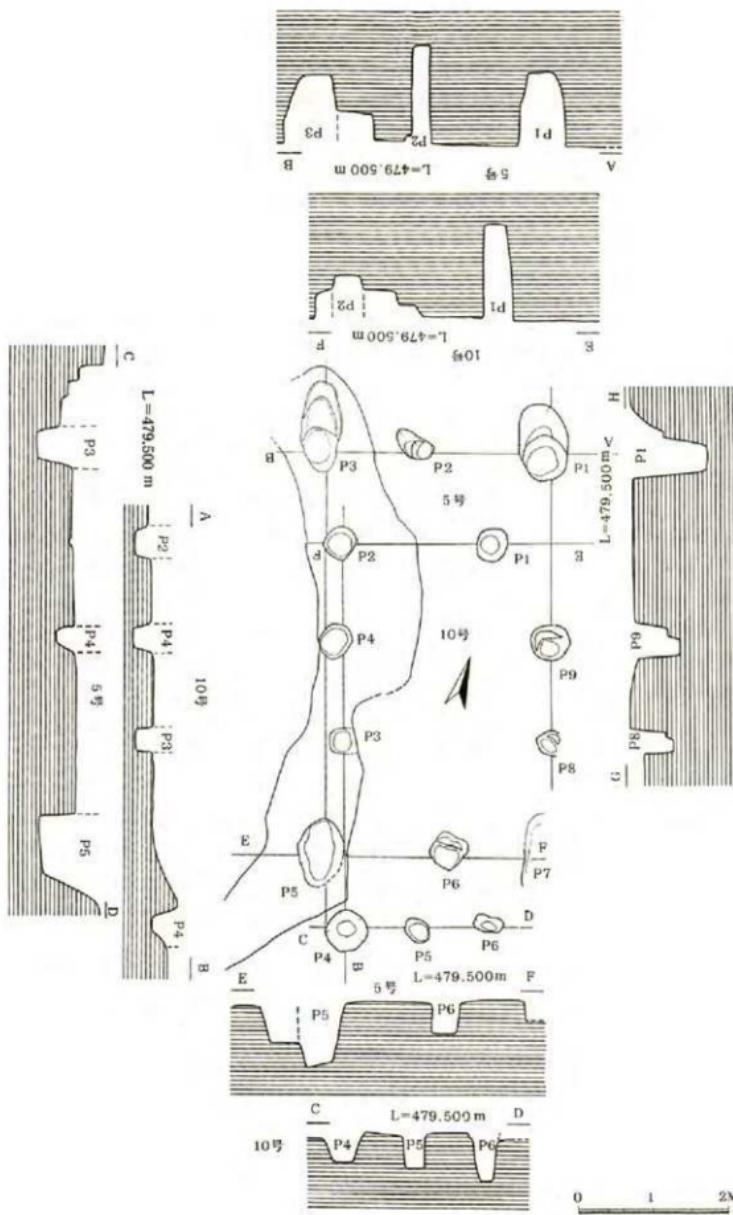
3. 土壌

1号土壌（第18図）

調査区北側にて検出。平面形は、長軸は約230cm、短軸約76cmの歪長円形を呈する。土壌の深さは約22～30cmを測る。土壌内には柱穴が2基あり、底面西側にテラスを持つ。2基の柱穴は、埋土に違いが見られなかったので別造構かどうかは不明である。土壌の埋土は分層できず、黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・灰・焼土の粒子・カーボン・小石混じりの砂が混入している。特に灰の割合は多量である。埋土より遺物が出土した（第19図）。

2号土壌（第18図）

調査区東側の中央寄りで検出。東側を柱穴P1（径44×26cm、深さ約34cm）に切られているが、土壌の平面形は円形を呈する。底面はほぼ平面的であり、断面形状は2段掘りとなっている。土壌の埋土は、分層できず、赤褐色土（10R4/4）で1cm大の黄砂のブロック及び、焼土の微粒子が混じる（1号掘立柱建物跡の埋土と類似）。柱穴P1の埋土は、黒褐色土（2.5Y3/2）で2号掘立柱建物跡の埋土と類似する。遺物の出土はなかった。



第17図 5・10号掘立柱建物跡実測図

3号土壤（第18図）

調査区北側中央部寄りで検出。不明焼土遺構を切っている。土壤北側を掘り過ぎたが、平面形は長円形を呈する。長軸約150cm、短軸約74cm、底面までの深さ約34cmを測る。底面形状は、ほぼ平坦である。埋土には灰・炭・焼土の粒子を多量に含む。遺物の出土はなかった。

8号土壤（第18図）

調査区西側端部中央寄りで検出。8号土壤の平面形は不整長楕円形を呈し、全長軸約158cm、短軸約58cm、深さ約36~42cmを測る。西側に楕円状の掘り込みがあり（径約76×64cm、壌底面からの深さ約8cm）、楕円形掘り込み底部北側に土壤埋没後と思われる小穴がある（径18cm、掘り込み底面からの深さ約48cm）。埋土は2号掘立柱建物跡と同一で黒褐色土（2.5Y3/2）黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。埋土内から遺物が出土した（第19図）。

9号土壤（第18図）

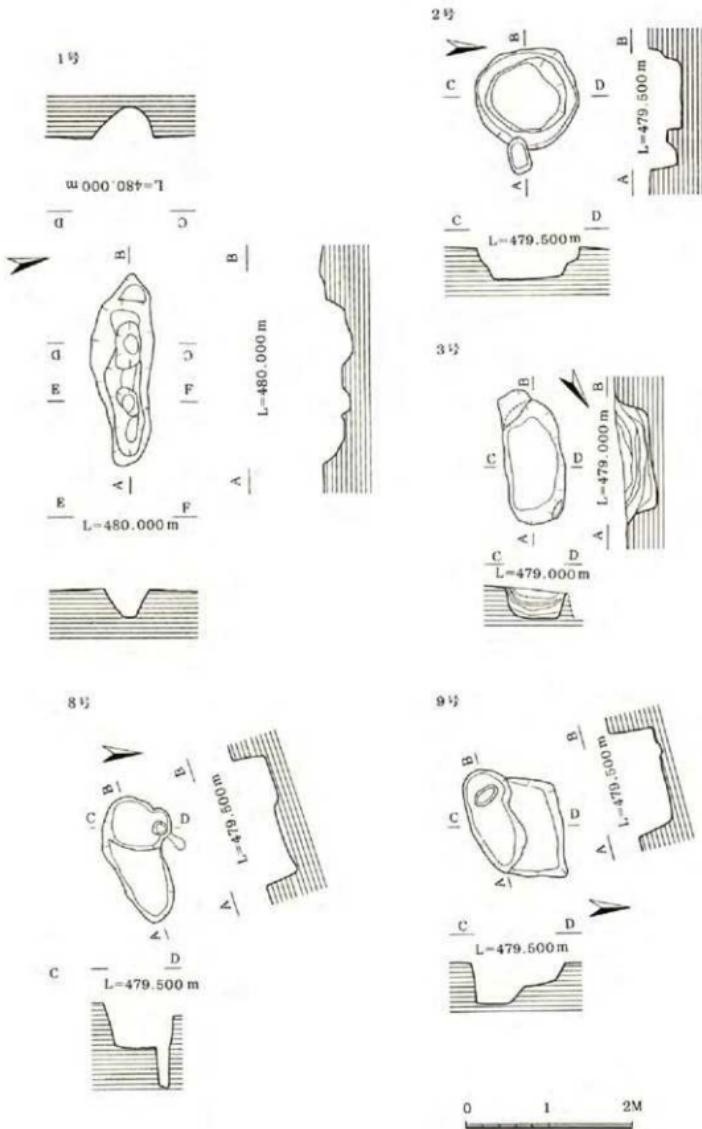
調査区西側端部中央寄りで、8号土壤の南側約3Mに位置する。9号土壤の平面形は北東及び南西側が突出し、やや歪な方形を呈する。2つの遺構が切り合っていると考えられ、南側約1/2が長楕円形状に落ち込んでいる。その底面西側に、長楕円形状の掘り込み（径約30×18cm、深さ約4cm）がある。土壤規模は、北側部・長軸約120cm、残存短軸約46cm、深さ約20~26cm、南側部・長軸約125cm、短軸約56cm、深さ約50cmを測る。埋土は北・南側部共に黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。埋土内から遺物が出土した（第19図）。

10号土壤（第20図）

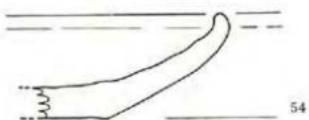
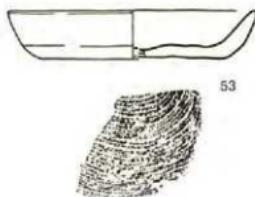
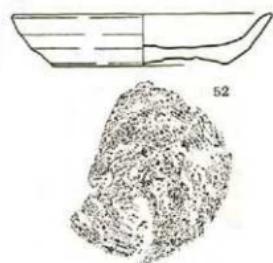
10号土壤は調査区の西側、中央から南寄りに位置する。長軸約170cm、短軸約50cmの長楕円形の平面形を呈する。壌の深さは約44~50cmを測る。壌底部北側に半楕円形状の掘り込みがあり、深さは約30cmを測る。この掘り込みは、埋土の若干の違いから、土壤には伴ないと考えられる。10号土壤の埋土の状態は、黒褐色土（2.5Y3/2）黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。掘り込みの埋土は、10号土壤の埋土に砂の割合が多くなっている。遺物の出土はなかった。

11号土壤（第20図）

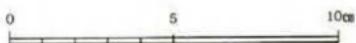
11号土壤は、調査区南西部、15号土壤と東西方向で平行し位置する。11号土壤は上縁部約100×100cm、底面約90×85cmの略方形の平面形を呈する。壌の深さは約28~32cmを測る。壌底面中央に、西側テラス付きの長円形の掘り込みがある（径50×40cm、深さ約22~26cm）。断面形はバケツ状を呈する。全体の断面形はほぼ直立の壁から、中央にしたがって内湾みの底面となる。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。遺物の出土はなかった。



第18図 1~3・8・9号土壤実測図



1号土壤 52,53,54
8号土壤 55
9号土壤 56



第19図 1・8・9号土壤内出土遺物実測図

13号土壤（第20図）

13号土壤は調査区南壁沿いに位置する。平面形は不整形で、壙の断面形は筒状になり深さ約30~35cmを測る。東端部に、径42×35cm、壙上縁部からの深さ約63cm、壙底面からの深さ約25cmを測る柱穴状の掘り込みがある。埋土は互いに黒褐色土（2.5Y3/2）で、黄砂・小石混じりの砂が少量混入している。遺物の出土はなかった。

15号土壤（第20図）

15号土壤は、11号土壤に平行して位置する。約90×90cmの隅丸方形の平面形を呈し、深さ約75cmを測る。中央部に径約40cm、深さ約60cmの掘り込みがあり、2段掘り形状となっている。他柱穴よりも規模が大きく、深さもある。11号土壤と対と考えれば門柱の可能性がある。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で、黄砂・炭・焼土・小石混じりの砂が少量混入している。柱痕跡は確認できず、遺物は鉄製品等が出土した（第21図）。

18号土壤（第20図）

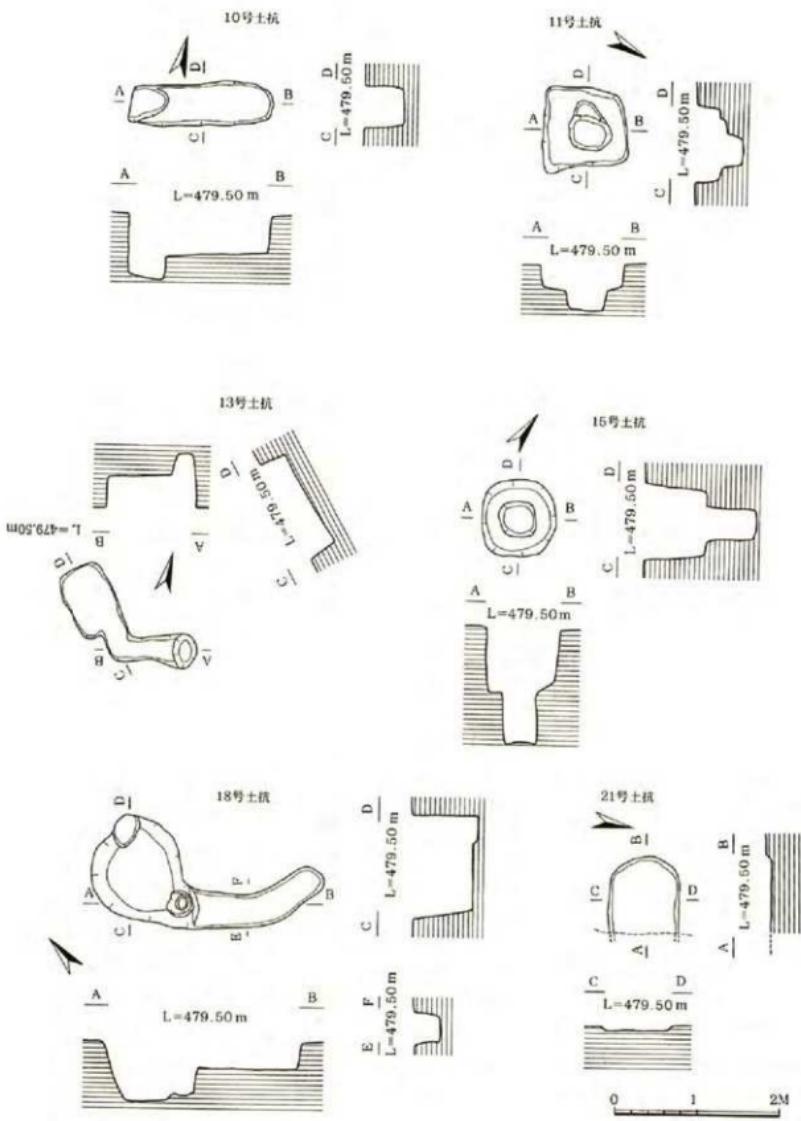
18号土壤は、梢円形状の掘り込み（径約125×約110cm）と方形の溝状掘り込みから成る約状の平面形を呈する。梢円形状掘り込み内にP1（径40×30cm、深さ約5cm）、P2（径30×30cm、深さ約5cm）があり、調査者の手違いで土層断面を残さなかったために埋没状態は不明である。梢円形状掘り込みの断面形は筒状に近く、深さ約70cmを測る。溝状部分の深さは約30cmを測る。埋土は黒褐色土（2.5Y3/2）で黄砂・炭・焼土・小石混じりの砂が混入している。遺物の出土はなかった。

21号土壤（第20図）

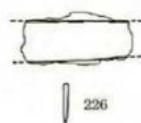
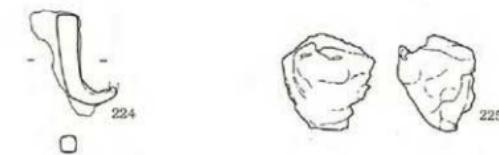
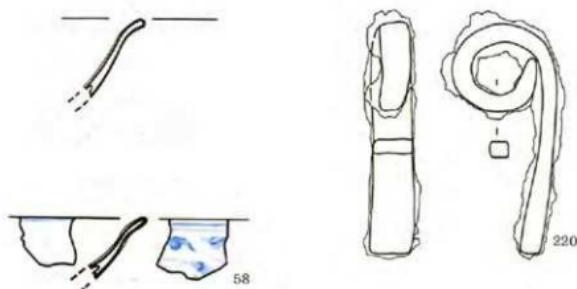
21号土壤は調査区中央からやや西寄りに位置し、東側を擾乱されている。現存で長軸約94cm、短軸約85cmの半梢円形プランを呈し、深さ約4~6cmを測る。埋土は1号掘立柱建物跡に等しく、埋土内から土師器の壊が出土した（第22図）。

17号土壤（第23図）

17号土壤の平面形は、上縁長軸約390cm、短軸約310cmであり、南西部に膨らみを持つ隅圓長方形を呈する。北東部は樹根により擾乱されている。底面は2段構造となっており、2段上面長軸約103cm、短軸約94cm、上縁部からの深さ約45~50cmを測る。最底面は長軸95cm、短軸80cm、2段上面からの深さ約55~64cmを測る。柱穴状の掘り込みを、土壤の2段上面北及び南側に各1基と上縁部南東側に1基、計3基確認した。段上面の北・南側の柱穴状掘り込みは、P1が径22cm、2段上面からの深さ28cm、P2が径26cm、2段上面からの深さ31cmではほぼ均一がとられている。P1・P2は2段上面から掘り込んでおり、土壤に伴うものと考えられる。P3（径25cm、深さ7cm）は、土壤上縁部に切られられており、直接的には伴わないと考えられる。遺構の下部、若しくは壁（段より下部）にかけて鉄分が多く含んだ赤褐色土（2.5Y4/6）が堆積していた。床面はXII層（黄橙色粘土〔ローム層〕10YR7/8）まで掘り込んでいる。土層断面は調査者の把握不足により取ることができなかった。埋土内より遺物が出土した（第24図）。

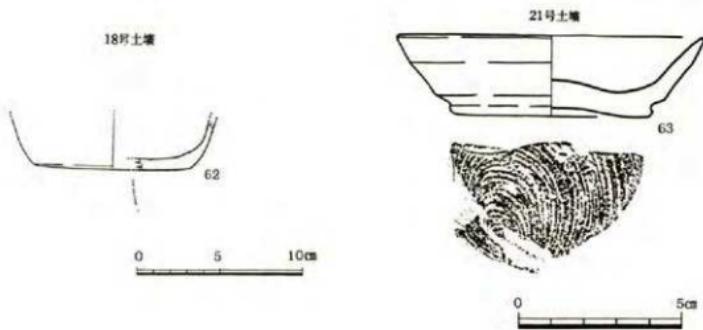


第20図 10~13・15・18・21号土壤実測図

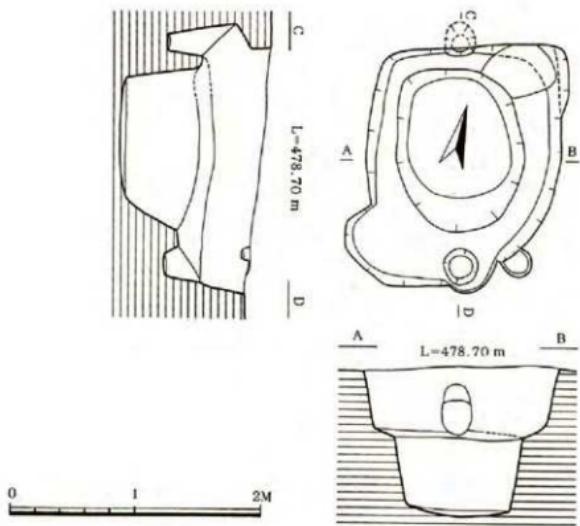


0 5 10cm

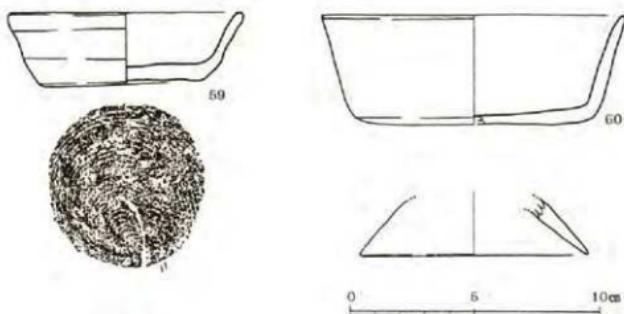
第21図 15号土壤内出土遺物実測図



第22図 18・21号土壤内出土遺物実測図



第23図 17号土壤実測図



第24図 17号土壤内出土遺物実測図

4. その他の遺構

不明焼土遺構（第25図）

当初の調査区では、東部端部を検出したが、表土剥ぎ時のトレンチにて部分的に消失させてしまった。調査区を拡張して遺構も広がりを見せたが、複数の土壤に切られており、平面的に遺構を捕えることができなかった。当初の調査区、拡張区の境壁の土層断面で観察すると、埋土上層部に炭・灰・焼土・焼土混入土の順で体積している。中でも、焼土の厚さは8~12cm程有り、かなりの火災があったものと窺える。3号土壤（前記 第18図）・23号土壤は、土層観察上で焼土・灰・炭などが多量に混入しているため、不明焼土遺構との時期差はあまりないと考えられる。中央部付近にP 1~P 5があるが、不明焼土遺構埋土上面から掘り込んでいるため不明焼土遺構埋没後のものである。Q-Rの断面を監察すると底面はレンズ状になっており、Q側壁から落ち込み、R側壁に向かいなめらかに立ち上がっている。埋土上層より土師器小皿及び陶器片が出土した（第30図～第31図）。

不明焼土遺構内土壤群 22~28号土壤

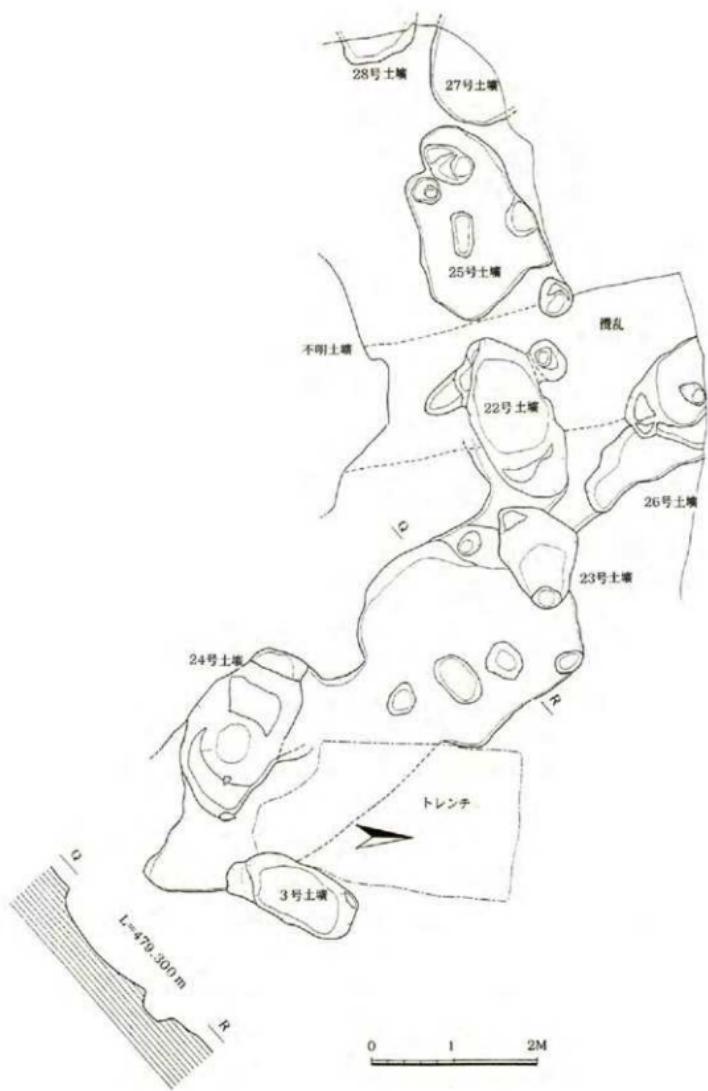
不明焼土遺構内には合計8基（内3号土壤は前記）の土壤群が存在する。いずれも埋土から不明焼土遺構と時期差はあまりないと考えられる。

22号土壤（第26図）

22号土壤は不明焼土遺構内中央部に位置し、長軸約210cm、短軸約100cmの楕円形プランを呈し、西側を2基の柱穴に切られている。深さ約78cmを測る。埋土は焼土及びカーボン、少量の灰を含むV層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

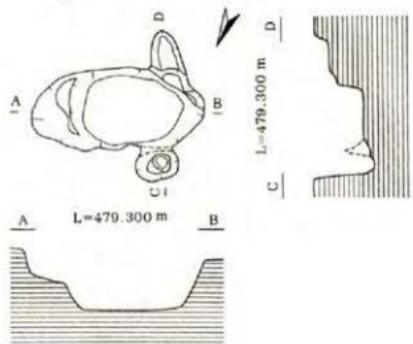
23号土壤（第26図）

23号土壤は不明焼土遺構内中央部22号土壤の東側に位置し、長軸約130cm、短軸約90cm正方形を呈し、西側

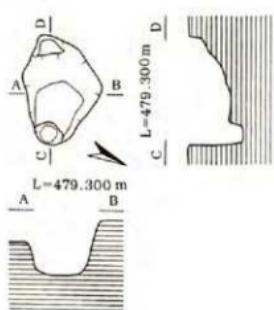


第25図 不明焼土造構全体図

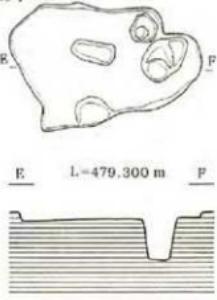
22号



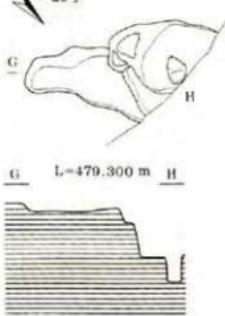
23号



25号

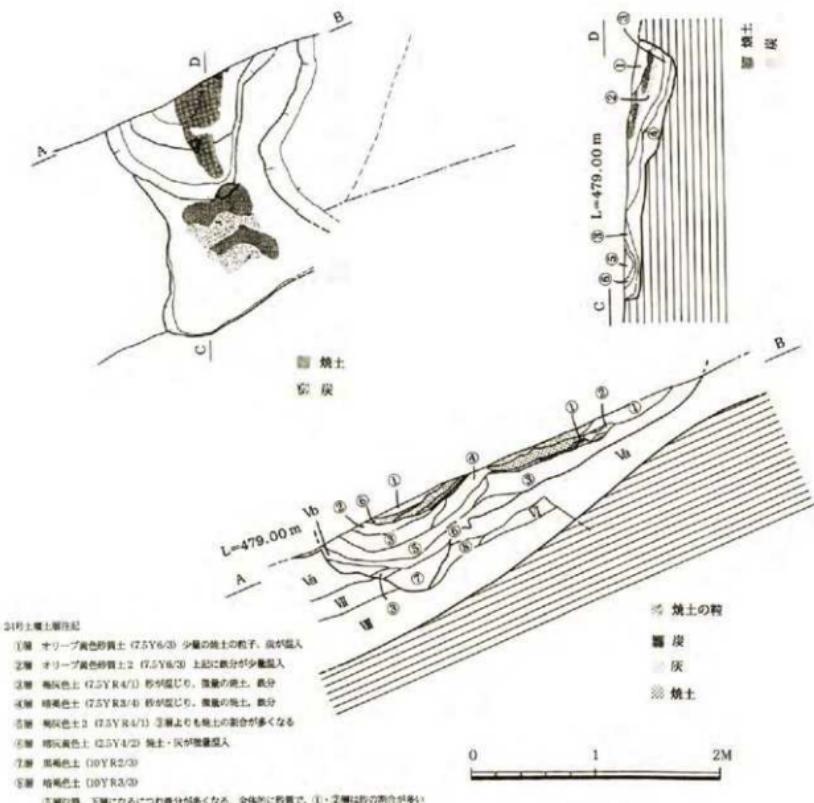


26号

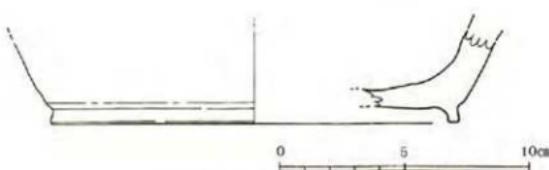


0 1 2M

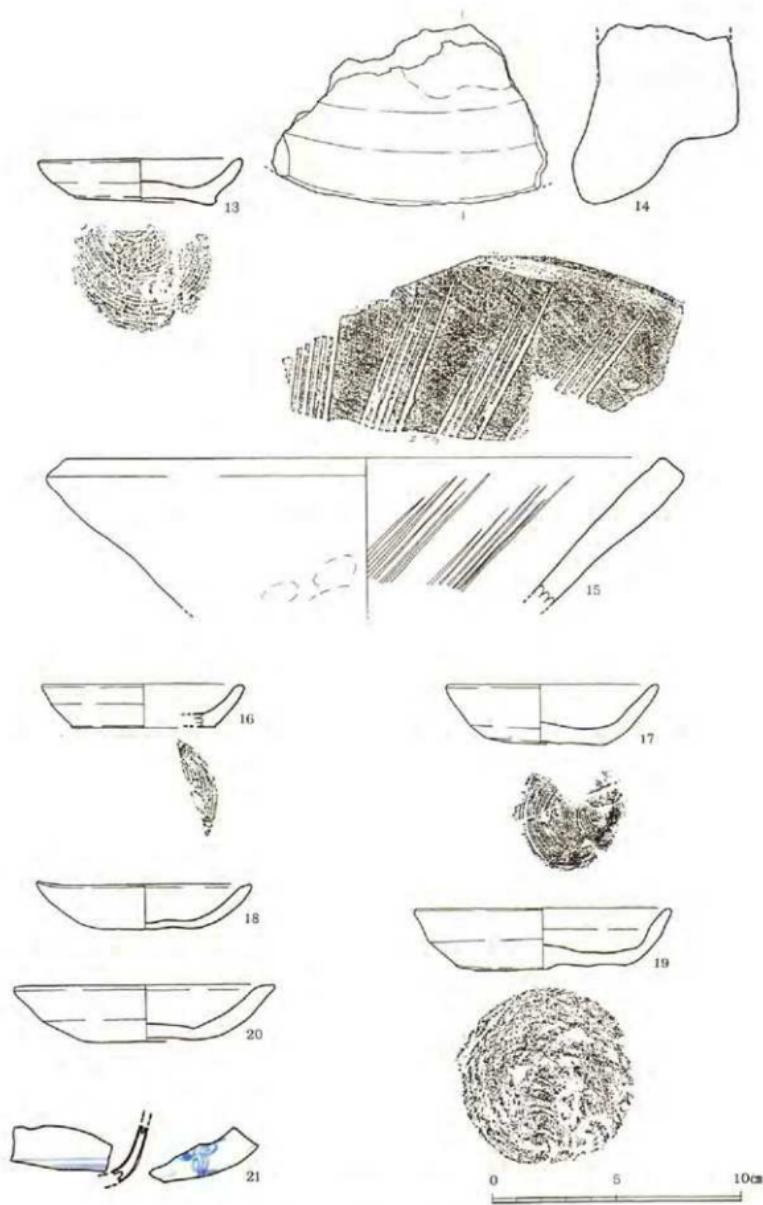
第26図 22・23・25・26号土壤実測図



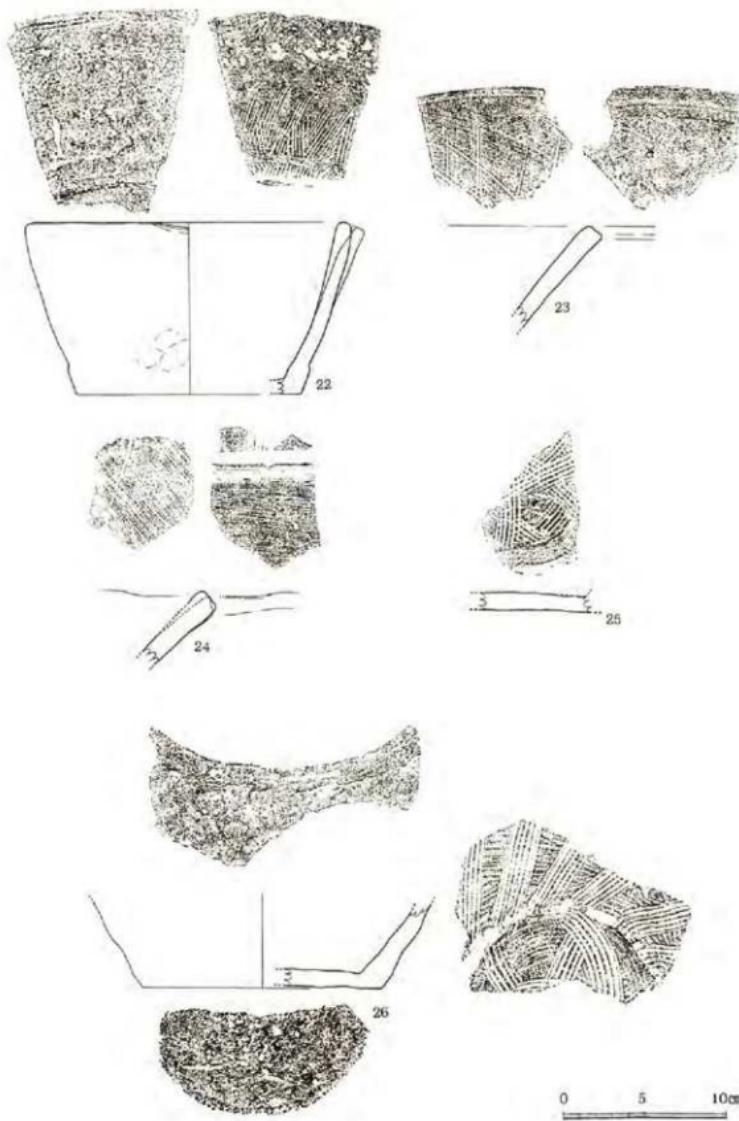
第27図 24号土壤平面断面実測図



第28図 23号土壤内出土遺物実測図



第29図 不明焼土造構内出土遺物実測図（1）



第30図 不明焼土造構内出土遺物実測図（2）

に柱穴状の掘り込みがある。深さ約65cmを測る。埋土は焼土及びカーボン、少量の灰を含むV層ベースの砂質土である。埋土内より遺物が出土した（第28図）。

24号土壤（第27図）

24号土壤は表土剥ぎ時から検出していたもので、旧調査区と拡張区の堀になる。断面で確認したので一部を表土剥ぎ時の掘削により破壊してしまった。不明焼土遺構内東端部に位置し、平面形は上縁長軸約210cm、短軸約120cmの歪長円形を呈する。底面は長軸D側に2段、C側に1段の段を持ち、最底部は50×40cmの長円形状を呈する。上縁部からの深さは約67cmである。埋土上層には多量の焼土が堆積している。その焼土中より瓦質土器が出土し、土壤理土中層より石製品が出土した（第29図～第30図）。

25号土壤（第26図）

25号土壤は不明焼土遺構内の西側に位置し、内部に4基の柱穴状掘り込みを持つ。歪楕円形を呈し長軸約240cm、短軸約130cm、深さ約10cmを測る（柱穴状掘り込み約30～50cm）。埋土は焼土及びカーボン、少量の灰を含むV層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

26号土壤（第26図）

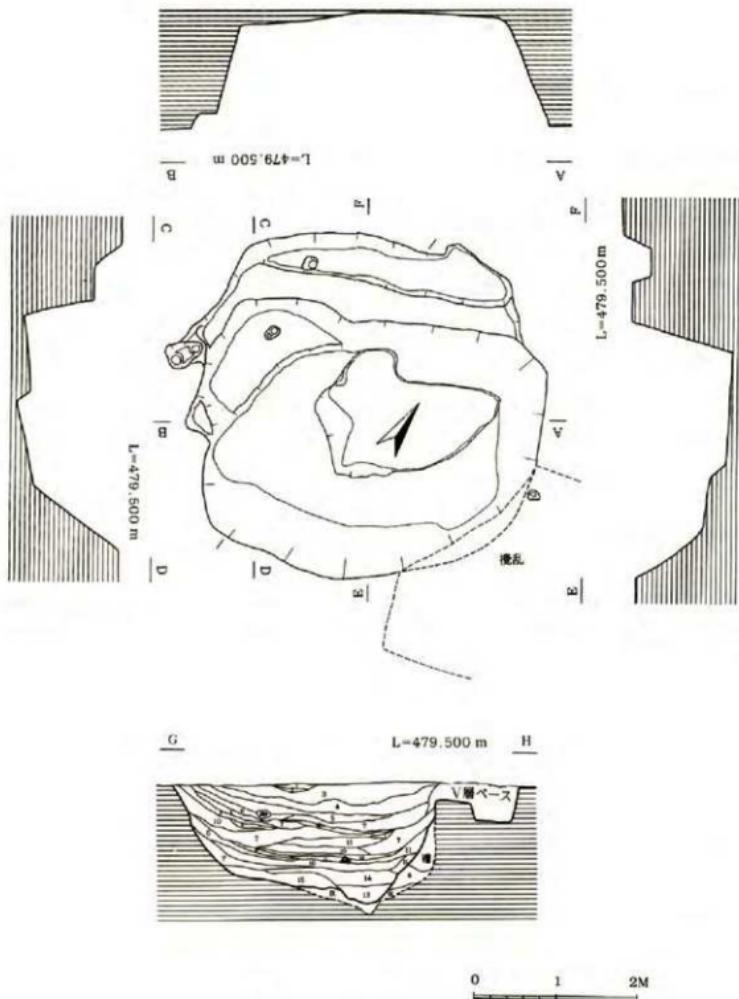
26号土壤は不明焼土遺構内北側に位置し、北側が調査区外へ延び、西半を若干攪乱されていた。歪細長円形を呈し、テラスを数段持つ段掘りになっており、検出北隅に柱穴状掘り込みがある（約35×20cm）。土壤の検出長軸約200cm、短軸約120cm、深さ10～100cmを測る。埋土は焼土及びカーボン、少量の灰を含むV層ベースの砂質土である。遺物の出土はなかった。

27・28号土壤

27・28号土壤は不明焼土遺構内北側端部に位置し、互いに調査区外へと延びており部分的な検出となった。
(不明焼土遺構全体図 第25図参照)

不明土壤（第31図）

南東側を一部攪乱されているが、平面形は略楕円形を呈すると思われる。北側に細長い溝状の掘り込み（深さ約20～40cm程）があるが、別遺構と考えられる。よって土壤本体は上縁長軸約435cm、短軸約310cmの歪長円形の平面形を呈すると思われる。底面は南側に段を持ち中央部から東側にかけて少し落ち込んで2段となっている。底面1段目長軸約315cm、短軸約212cm、上縁部からの深さ約85cm、最底面長軸約225cm、短軸約105cmである。平面形は米粒形を呈し、断面はゆるく立ち上がり上縁につながる。土壤西側のテラス部及び東側攪乱底面に2基の小穴があるが（P1 径20×12cm、深さ約22cm）、（P2 径16×12cm、深さ約16cm）、土壤に伴うかは不明である。溝状部分にP3（径20×16cm、深さ約60cm）、土壤西側底面には2つの底面を持つP4（径45×30cm、深さそれぞれ約70cm）があるが、これも伴うかどうかは不明である。出土遺物は土壤本体上層から中層にかけて、土師器の壺が幾点も出土し、下層から美濃焼の皿が出土した（第32図～第34図）。埋土に関しては、中層以降かなり鉄分が多く含まれていた。

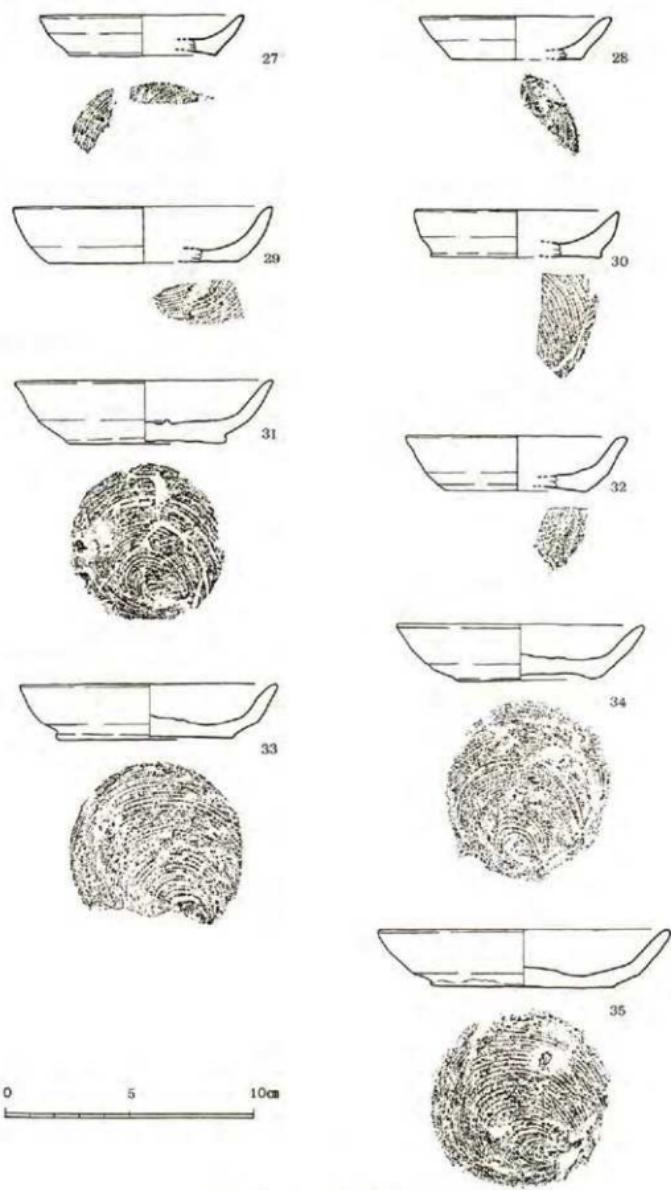


第31図 不明土壤実測図

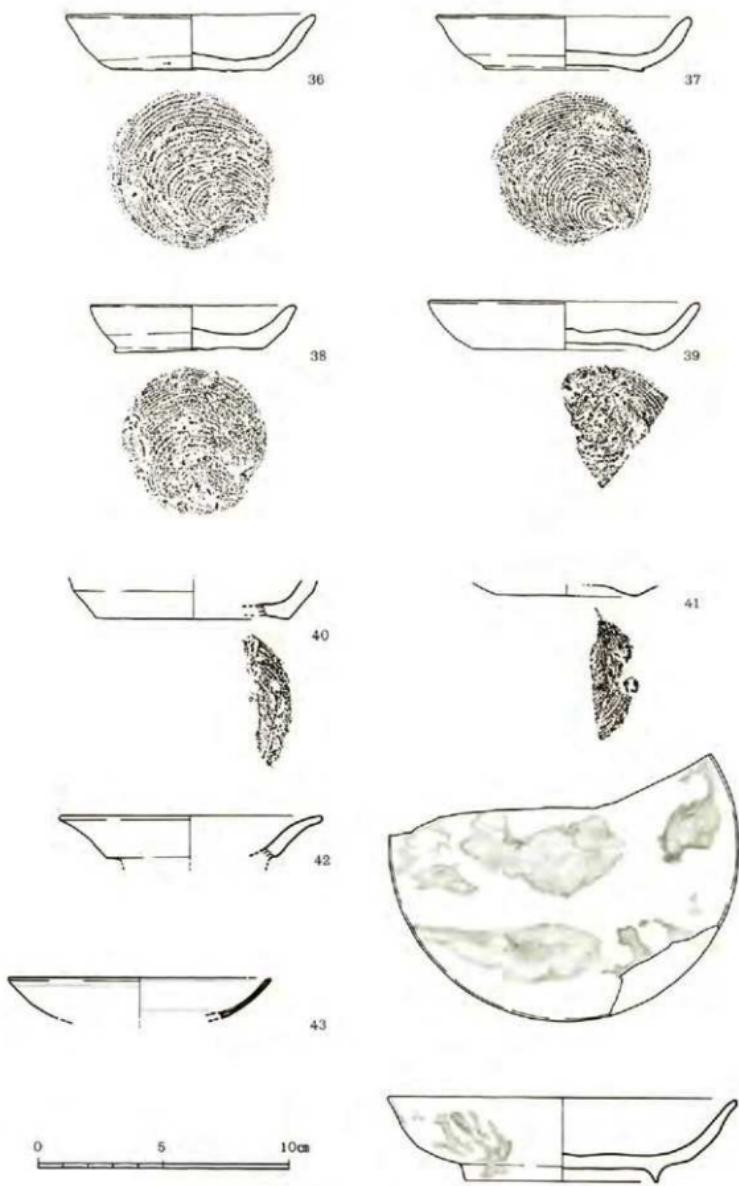
不明土壤堆土記

- ① 風オーリープ砂質土1 (7.5Y5/2) 黒土の塊、块を少含む
- ② 風オーリープ砂質土2 (7.5Y5/2) ①に鉄分を含む
- ③ 風オーリープ砂質土2 (7.5Y5/2) ②の鉄分が多くなる
- ④ 風オーリープ砂質土3 (7.5Y5/2) 黒土の塊を含む
- ⑤ 風オーリープ砂質土1 (7.5Y5/2) ④の侵入物なし
- ⑥ 風オーリープ砂質土4 (7.5Y4/2) 黒土上のブロック (1cm大) 及び鉄分を含む
- ⑦ 風オーリープ砂質土 (7.5Y4/2) 黒土上のブロックが増え。砂礫じり、⑥以降軟性有
- ⑧ 風色細粒質土 (7.5Y5/1) 黄砂 (2mm大) ブロック、黒土の板を含む
- ⑨ 灰色細粒質土 (7.5Y5/1) ⑦が鉄分が強くなる

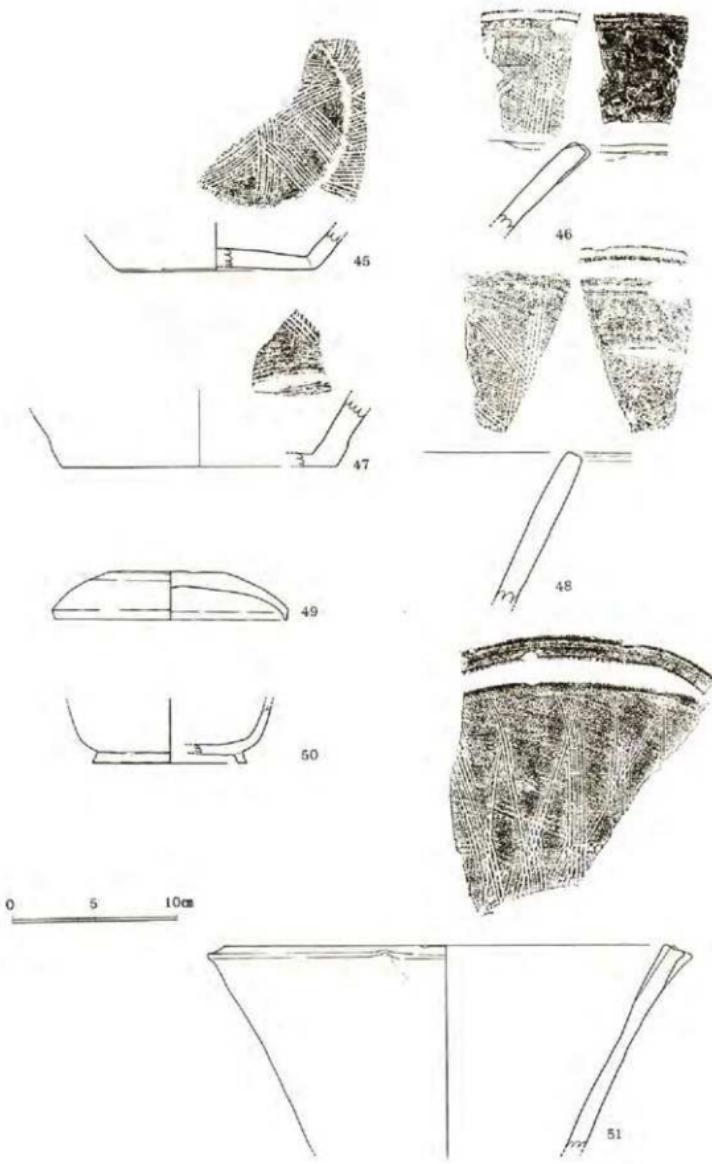
- ⑩ 緑灰色弱粘質土 (N 3) 黄砂 (2mm大) ブロック、黒土の板を含む
- ⑪ オーリープ弱粘質土 (5G 5Y5/1) 鉄分を僅量に含む
- ⑫ 灰色弱粘質土 (N 5) 黑・鐵分を既に含む (無鉄物)
- ⑬ 灰色弱粘質土2 (7.5Y6/1) 鉄分を多く含む
- ⑭ 灰色弱粘質土3 (7.5Y6/1) ⑬に砂を含む
- ⑮ 灰白色黏土 (7.5Y7/2) 軟性無
- ⑯ 緑灰黄色細粒質土 (2.5Y4/2) 黑褐色ブロック、鉄分ブロックを含む (無鉄物)
- ⑰ 黑褐色弱粘質土 (2.5Y3/1) 鉄分、黄砂を既に含む (無鉄物)
- ⑱ 灰黃色弱粘質土 (2.5Y4/1) 鉄分、黄砂を既に含む (無鉄物)



第32図 不明土壤内出土遺物実測図（1）



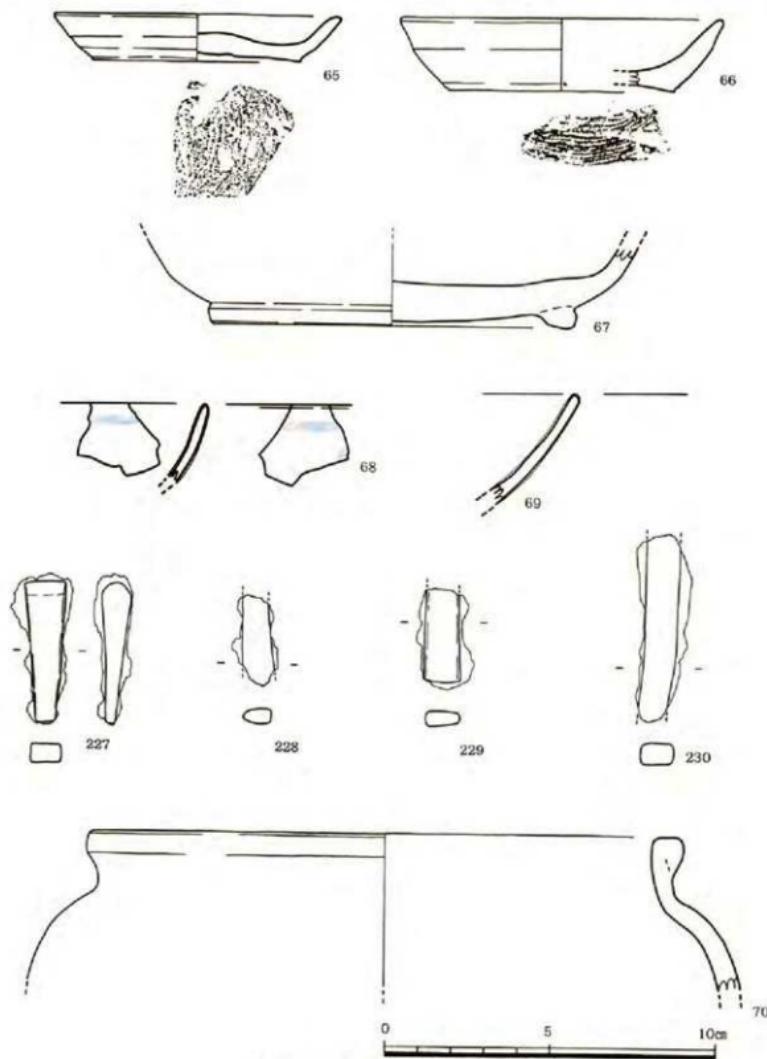
第33図 不明土壤内出土遺物実測図 (2)



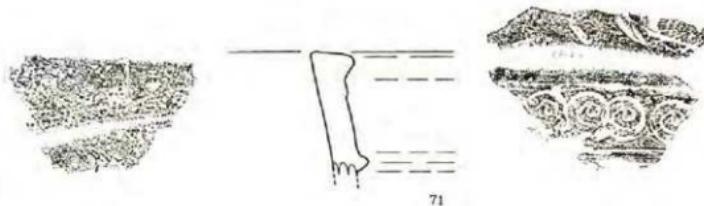
第34図 不明土壤内出土遺物実測図（3）

5. V層出土の遺物（第35図～第36図）

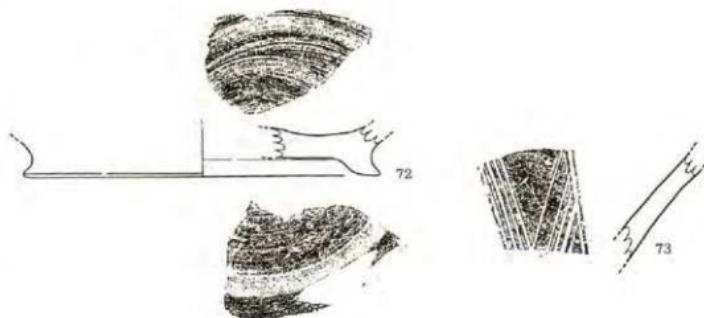
遺構検出面であるV層（灰オリーブ色砂質土）から土師器、須恵器、瓦質土器、鉄製品等の遺物が出土している。V層面は乾燥すると遺構も崩壊していく程砂質であり、遺物が動いている可能性が高く、全て一括で取り上げた。



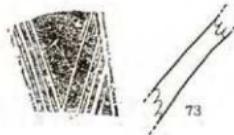
第35図 V層出土遺物実測図(1)



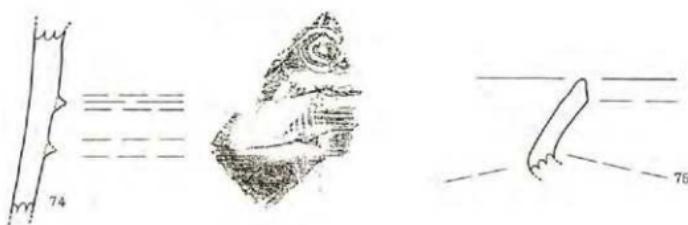
71



72

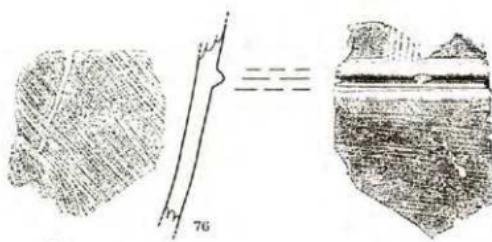


73



74

75



76

0 5 10cm

第36図 V層出土遺物実測図(2)

第2表

V層面出土遺物観察一覧表(1)

| No. | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|-----|------|--------|-----------------|---|---|-------------------------------------|------|--|------------------------------------|--------------------------------|--|
| 1 | 瓦質土器 | 壺 | 豊地層(上層) | Ⅴ層 | 黒(SV2/1) | にぶい黄色(OY6/7) | 普通 | 口縁部凹凸ナギ、 底部に凹凸ナギ | ナギ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 7mmの小石を含む。 | 陶か灰瓦壺片、 保存高さ4.2cm |
| 2 | 瓦質土器 | 壺 | 豊地層(上層) | Ⅴ層 | 黄灰色(OY5/1) | 黄灰色(OY5/1) | 普通 | 内外面共凹凸ナギ | | 0.5mmの砂粒を 少量含む。 | 小壺片、起き不規則、 ロクロ印有 |
| 3 | 甕 | 壺 | 豊地層(上層) | Ⅴ層 | 粘土アーピリーカーイド(GY9.0/1.0) 黒・バルホワ(GY8.5) 仕付ストレートグリーン(GG4.0/2.0) | | 向面磨擦 | | | | 保存状況1/2、 保存高さ1.45cm、 最高高さ2.3m |
| 4 | 甕 | 不規 | 豊地層(中層) | Ⅴ層 | 粘土アーピリーカーイド(GY9.0/1.0) 黒・バルホワ(GY8.5) 仕付墨色(GP2.0/3.0) | 良 | 向面磨擦 | | | 磨擦粒 | 保存状況1/3、 保存高さ11.9cm、 最高高さ4.9cm |
| 5 | 土師器 | 壺 | 豊地層(中層) | Ⅴ層 | にぶい黄色(OY6/3) | にぶい黄色(OY5/4) | 普通 | ナギ、輪面付右回転ナギ | ナギ、輪面付右回転ナギ、 底部に凹凸有 | 1-2mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | |
| 6 | 土師器 | 壺 | 豊地層(下層) | Ⅴ層 | 内外面共、黄色(GY7/6) | | 普通 | 口縁部附近にテフロナギ、 底部に凹凸ナギ | 回転ナギ、 底部部分的にナギ | 1-3mmの砂粒、 赤褐色砂粒、皆行けを 含む。 | ロクロ回転右方向、 窓片 |
| 7 | 瓦質土器 | 火鉢(火合) | 豊地層(下層) | Ⅴ層 | 内外面共、灰色(D4) | | 良 | 口縁部附近コナギ、 田んぼ文ナギ、突出部ナギ、 下部スラナギ | 上部ハゲ人後きコナギ、 田んぼ文ナギ、 下部ナギ像ハゲメ | 1-3mmの砂粒、 並びカゼン石を含む。 | 窓片 |
| 8 | 瓦質土器 | 壺 | 豊地層(下層) | Ⅴ層 | 暗黄色(OY5/2) | にぶい黄色(OY5/3) | 普通 | 口縁部凹凸回転ナギ、 色ナギ | ナギ後、磨擦文 | 1-2mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 保存高さ12.9cm、 起き不規則 |
| 9 | 瓦質土器 | 壺 | 豊地層(下層) | Ⅴ層 | 内外面共、灰オリーブ(GY6/2- 黑)GY2/1) | | 普通 | 口縁部附近両面コナギ、 色はナギ | ナギ7.61mmの厚め目、 輪面左旋全旋 | 2-3mmの砂粒を含む、 輪面左旋全旋 | 保存状況1/3、 保存高さ14.0cm、 最高15.4cm |
| 10 | 土解器 | 壺 | 1号墳(2号 墓物群)6 | 堆土 一段 | 黄褐色(GY8.0/6) | 表面黄色(GY8.0/4- 深黄色(GY8.0/3) | 普通 | 口縁部左側に保有者、 回転ナギ、プロロクの斜面切込、 底部は回転ナギ | 回転ナギ、 底部ナギ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 1/2堆土左端口部10.3cm、 最高16.6cm、 底部15.9cm |
| 11 | 不明 | 不明 | 1号墳(2号 墓物群)6 | 堆土 一段 | 内外面共、にぶい黄色(OY6/1) | | 普通 | 口縁部附近コナギ、 表面ナギ | 回転ナギ | 0.5-1mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 口縫・全体1/4周、4袋、 最高高さ12.0cm、 保存高さ2.6cm |
| 12 | 瓦質土器 | 壺 | 2号墳(2号 墓物群)6 | 堆土 一段 | 灰色(GY5/6/1)- (1/GY5/1) | 灰色(GY5/6/1) | 普通 | 回転ナギ後回転ナギ、 口縁部凹凸回転ナギ、 口クロ回転右方向 | 回転ナギ、 ナギ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 1/8堆土 保存高さ1.55cm |
| 13 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | にぶい黄色 (GY5/6/2) - 深黄色 (GY5/2/2) | | | 普通 | 回転ナギ、底面右切り、 工具痕有 | 回転ナギ | 1-2mmの砂粒及び カゼン石を含む。 | 不明地土(1号墳上11.7/3 段分、底面11.89.2cm、 最高15.9cm、 底面2.45cm) |
| 14 | 石製品 | 石臼 | 不明地土遺構 | | | | | | | | 小破片 |
| 15 | 瓦質土器 | 壺 | 不明地土遺構 地土丸上部 | 内外面共、黒(SV2/1) | | | 普通 | 口縁部凹凸ナギ、 底部ナギ、 底部直立有 | ナギ、 便り目 | 1mmの砂粒を含む、 カゼン石を含む。 | 口縫・全体上半 1/6堆土 底面1/24.1cm、 保存高さ6.6cm |
| 16 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 内外面共、にぶい黄色(GY5/4) | | 良 | 体面から口縁部は回転ナギ、 底部は凹凸回転ナギの間に ナギ、口クロ回転右方向、 底部右切り | 回転ナギ | 1mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 底面-1号墳から10cm高 1/4堆土左端口部10.2cm、 最高15.8cm、 底面1.7cm |
| 17 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | にぶい黄色 (GY5/6/3) - 深黄色 (GY5/2/2) | 灰褐色(GY5/6/2) | 普通 | 回転ナギ、口縁部底面有、 底部右切り、口クロ右回転、 底部右直立有 | ナギ、 口縁部附近回転ナギ、 底部直立有 | 1-2mmの砂粒及び カゼン石を含む。 | 1-2号墳4.4m以上1/3 堆土右端口部10.8cm、 最高18.3cm、 底面4.2cm |
| 18 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 内外面共、にぶい黄色(GY5/4) | | 普通 | 口縁部凹凸保有者、 体面から底面にかけてナギ、 底部ノケムの工具痕有 | 回転ナギ後ナギ | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 定期11月8.5cm、 底面3.8cm、 最高2.5cm 上縫がやや起立。 |
| 19 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 灰褐色(OY8.0/4) | にぶい黄色 (OY8.7/3) | 普通 | (1)底面から内側へ凹凸ナギ、 斜面右側に凹凸ナギ、 ナギと底部直立有の複合、 分布にナギ、底部左端有、底面有 | 回転ナギ、 底面右切りナギ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 2号墳口部10.2-10.4cm、 底面10.2cm、 最高2.5cm 底面直立有 |
| 20 | 土師器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | にぶい黄色(OY8.0/4) | 褐色(GY5/6/6) | 普通 | ナギ底面凹凸ナギ、 紅葉有 | ナギ後回転ナギ | 1-3mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 定期11月10.35cm、 底面3.8cm、 最高2.5cm 上縫がやや起立。 |
| 21 | 甕 | 不明 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 粘土スラウタイト(GY5/3.5) - 深黄色(GY5/1.0/0) 朱漆墨(GP2.0/5.0) | | 普通 | 口縫部凹凸ナギ、 底面左旋 | 回転ナギ | 0.5-1mmの砂粒、 赤褐色砂粒を含む。 | 口縫・全体1/4堆土、 底面12.0cm、 最高2.2cm |
| 22 | 瓦質土器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 黄灰色(OY5/1) | 灰褐色(GY5/1) | 普通 | 口縫部凹凸ナギ口部左 ナギナギ、底面左旋、 底面右切り回転ナギ、 底部直立有 | 口縫部右ナギ、底面から 底部に左回転ナギ、 ナギ、底面 | 0.5-1mmの砂粒を含む、 7mm右小石を含む。 | 1/6堆土 底面11.89cm、 最高13.4cm、 底面10.4cm |
| 23 | 瓦質土器 | 壺 | 不明地土遺構 | 上層 一段 | 黒(SV2/1) | にぶい黄色(OY5/6/3) - 深黄色(OY5/4/1) | 普通 | 回転ナギ、体面凹凸直立ナギ | ナギ、便り目 | 0.5-1mmの砂粒を含む、 7mm右小石を含む。 | 保存状況、 保存高さ6.1cm |

第3表

V層面出土遺物観察一覧表(2)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外側) | 色調(内側) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|----|--------|-----|------|----------|---|-----------------------------------|---|---|--|---|---|
| 24 | 瓦片上部 | 塗り鉢 | 不明土壠 | 一層 | 灰青褐色 (0.97±0.2) | 灰青褐色(0.74±0.2) | 普通 | 山崎窯田子、赤原窯見た る。器形不明 | 黒板及び割離のため 調整不適 | 0.5~1mmの砂粒を 含む。 | 現存状況:小破片 |
| 25 | 瓦片上部 | 塗り鉢 | 不明土壠 | 一層 | 灰色(5.5Y6/1) | 灰色(4.4Y6/0) | 良 | ナ子 | ナ子、腰り目 | 1mm程の砂粒を含む。 | 現存状況:小破片 |
| 26 | 瓦片上部 | 塗り鉢 | 不明土壠 | 一層 | 内外共灰、灰青色(2.5Y6/1) | 良 | ナ子(底部付近へケズリ)、 底面ナ子 | ナ子、全体黒色の付着物 有。底面ナ子 | 1~7mm程の砂粒を多く 含む。 | 1/2現存、 底元厚約11.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 27 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 内外共灰、灰青色(5Y7R7/4) | 良 | 白子子、底面付近ナ子底部 有。砂粒有り、ロウモク痕不適 | 底面中央ナ子、底面 有。砂粒有り、ロウモク痕不適 | 1mmの砂粒及び赤褐色 砂粒有り、ロウモク痕ナ子 | 多量の砂粒有り、 底元厚約13.5cm、 残存高約11.5cm | |
| 28 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 灰白色 灰青色(7.5YR8/3) | 普通 | 白子子、底面クロ口右斜 面有り | 底面から体部左斜 面有り、ナ子、底面ナ子 | 0.5~1mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 1/2現存、底元厚約7.2cm、 残存高約6.7cm | |
| 29 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 内外共灰、灰青色(5Y6/4) | 普通 | 白子子、底面は阿蘭子ナ子、 底面左斜ナ子、底面有り、 ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子 | 1~2mmの砂粒、カセン 石、黒母有り。 | 1/4現存、底元厚約10.4cm、 底元厚約5.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 30 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 灰白色(7.5YR8/1) | 灰青色(7.5YR4/2) | 普通 | 白子子、底面有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子 | 0.5mm程の砂粒を含む。 | 1/4現存、 底元厚約11.2cm、 底元厚約9.9cm、残存 高約8.5cm |
| 31 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 内外共灰、灰青色(5Y7/0) | 普通 | 白子子、口縁部有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子、 底面左斜面有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 白子子、口縁部有り、 底面露出し有り、ロウモク 痕ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約12.8cm、 底元厚約10.3cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 32 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 内外共灰、灰青色(5Y6/4) | 良 | 白子子、底面左斜ナ子、 底面右斜ナ子、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子 | 1~2mmの砂粒を含む。 及び赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約12.8cm、 底元厚約10.3cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 33 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 灰白色(7.5YR8/0) ~ 灰色(7.5YR7/0) | 普通 | 白子子、口縁部有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 白子子、底面露出し有り、 ロウモク痕ナ子 | 1~2mmの砂粒を含む。 底元厚約10.3cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm | 1/2現存、 底元厚約10.3cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 34 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 上層 一層 | 内外共灰、灰青色(5YR6/4) | 普通 | 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子、 ロウモク痕ナ子、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子、底面中央ナ子 | 1mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 1/2現存、 底元厚約10.0cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm | |
| 35 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 埋土 一層 | 灰白色(10YR8/1) | 灰白色(10YR8/2) | 普通 | 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子、 ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子、底面中央ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約11.5cm、 底元厚約10.5cm、 残存高約10.5cm |
| 36 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 中層 一層 | 内外共灰、灰青色(5YR8/4) ~ 灰青色(5YR8/4) | 良 | 白子子、底面露出し有り、 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子、底面中央ナ子 | 1mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約9.0cm、 底元厚約8.1cm、 底元厚約7.2cm | |
| 37 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 中層 一層 | 海緑色(5YR8/4) | 灰青色(5YR8/4) ~ 灰青色(7.5YR8/0) | 良 | 白子子、底面露出し有り、 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子、底面中央ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約10.1cm、 底元厚約9.2cm、 底元厚約8.1cm |
| 38 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 下層 一層 | 内外共灰、灰青色(5YR8/4) | 良 | 白子子、全體部に付着物有、 ロウモク痕有り | 底面ナ子 | 1mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約11.5cm、 底元厚約10.5cm、 底元厚約9.5cm | |
| 39 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 下層 一層 | に灰青色 (10YR8/3) | に灰青色 (10YR8/0) | 普通 | 白子子から底面中央まで白 ナ子、底面左斜面は底面露 出ナ子、底面露出し有り、 ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 1/2現存、 底元厚約10.8cm、 底元厚約10.2cm、 底元厚約9.5cm |
| 40 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 下層 一層 | に灰青色 (5YR7/4) | 海緑色(5YR7/0) ~ 灰青色(7.5YR8/4) | 普通 | 白子子、底面露出し有り、 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 白子子、底面露出し有り、 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約11.5cm、 底元厚約10.5cm、 底元厚約9.5cm、 残存高約8.2cm |
| 41 | 土鍋 | 杯 | 不明土壠 | 下層 一層 | に灰青色 (5YR7/4) | 青色(5YR7/0) | 普通 | 白子子、底面露出し有り、 底面露出し有り、底面露 出有り、ロウモク痕ナ子 | 底面ナ子 | 1~2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底元厚約10.9cm、 底元厚約10.2cm、 底元厚約9.5cm |
| 42 | 陶器 | 皿 | 不明土壠 | 下層 一層 | 駄七クリーム色(2.0/0.0) ~ 駄七ベニースイート(2.7/5.6) | 良 | 米黄色有り | 米黄色 | 底板、直入有 | 底板、直入有 | 底板、直入有。 底元厚約10.4cm、 底元厚約9.5cm |
| 43 | 発行 | 杯 | 不明土壠 | 下層 一層 | 駄七白ホワイト(0.0/0.0) ~ 駄七ベニースイート(2.7/5.6) | 良 | 駄七白ホワイト(0.0/0.0) ~ 駄七ベニースイート(2.7/5.6) | 駄七白 | 駄七白 | 1/6現存、 底元厚約10.4cm、 底元厚約9.5cm | |
| 44 | 陶器(文鏡) | 皿 | 不明土壠 | 埋土 一層 | 駄七白ホワイト(0.0/0.0) ~ 駄七ベニースイート(2.7/5.6) | 良 | 駄七白ホワイト(0.0/0.0) ~ 駄七ベニースイート(2.7/5.6) | 駄七白 | 駄七白 | 2/2現存、 底元厚約13.9cm、 底元厚約12.7cm、 底元厚約11.5cm | |

第4表 V層面出土遺物観察一覧表(3)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 | |
|----|--------|-----|-------|----------|---|--------------------------------|----|---|--|--|---|-----------------------------------|
| 45 | 瓦質土器 | 塗り棒 | 不明土壤 | 埋土一括 | 内外赤丸灰褐色(NS) | | 良 | 口縁部ケズリ後ナデ、 体部下部ケズリ後ヨコナナフ、 底部ナナフ | ナナフ、擦り目 | 1mmの焼約を含む、 小破片、残存容積5.4cm、 残存高さ14.4cm、 残存容積2.5cm | | |
| 46 | 瓦質土器 | 塗り棒 | 不明土壤 | 一括 | 内外赤丸灰褐色(2.5YR 6/2) | | 普通 | 口縁部ナナフ、体部ナナフ | ナナフ、擦り目、 口縁部灰褐色有 | 0.5mmの焼約を含む、 小破片、残存容積5.4cm、 残存高さ14.4cm | | |
| 47 | 瓦質土器 | 塗り棒 | 不明土壤 | 下層 一括 | 灰白色(D7/0) | 灰白色(SV6/1) -黄灰褐色(2.5YR 4/1) | 普通 | ナナフ | 体部底から体部上部までヨコ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 1-2mmの焼約、底部 底から底部表面までナナフ、 擦り目 | 1-2mmの焼約を含む、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 48 | 瓦質土器 | 塗り棒 | 不明土壤 | 上層 一括 | 内外赤丸灰褐色(SV4/1) | | 普通 | 口縫部から体部上部までヨコ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 口縫部から体部上部ま でヨコナナフ、底部表面 ヨコナナフ、底部中央部 ヨコナナフまでナナフ、 擦り目 | 1-2mmの焼約を含む、 口縫部の一部を欠損、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | | |
| 49 | 陶器 | 壺 | 不明土壤 | 埋土 一括 | 灰褐色S7/0 | 灰白色(SV6/1) | 良 | 上部底から体部中央までナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 回転ナナフ | 0.2-0.5mmの焼約を 含む、 | 口縫部の一部を欠損、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 50 | 陶器 | 壺 | 不明土壤 | 上層 一括 | 内外赤丸灰褐色(10YR 6/1) | | 良 | 回転ナナフ、底部中央ナナフ | 回転ナナフ | 0.2-0.5mmの焼約を 含む、 | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 51 | 瓦質土器 | 塗り棒 | 不明土壤 | 上層 一括 | 内外赤丸灰褐色(N4) | | 良 | 口縫部から体部上部までヨコ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 口縫部ヨコナナフ、 ナナフ、 回転ナナフ | 2-5mmの焼約を含む、 カクゼン石も含む、 | 1/4割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 52 | 土師器 | 壺 | 1号土壤 | 埋土 一括 | 内外丸い青褐色S7.5YR 6/4-6/0 | | 普通 | 口縫部から底部下部までナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 回転ナナフ、 底部中央ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 底部中央ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 底部中央ナナフ | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 |
| 53 | 土師器 | 壺 | 1号土壤 | 埋土 一括 | にふい青褐色 (10YR 7/4) | にふい青褐色 (10YR 5/3) | 普通 | 口縫部から底部中央までナナフ (体部下部)ナナフナナフナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央部に灰褐色有 | 回転ナナフ、 底部中央ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 底部中央ナナフ | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 54 | 陶器 | 瓶 | 1号土壤 | 埋土 一括 | 朱土 赤色S4/0 | 朱 ラビットボールD7.5YR 5/9 | 普通 | 口縫部から底部までナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部中央から直腹がケズ リナナフ、残存部 | 回転ナナフ、 底部中央ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 底部中央ナナフ | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 55 | 土師器 | 壺 | 8号土壤 | 埋土 一括 | にふい青褐色 (7.5YR 7/4) | 青黃褐色(7.5YR 6/0) | 普通 | 体部ナナフ、 底部へナナフナナフ、 ナナフ | 回転ナナフ、 底部ナナフ | 0.5-1mmの焼約、 底部表面ヨコナナフを含む、 カクゼン石も含む、 | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 56 | 瓦質土器 | 火鉢 | 9号土壤 | 埋土 一括 | 灰褐色(2.5YR 6/3) | 灰褐色(2.5YR 6/1) | 普通 | 回転ナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部下部ヨコナナフ | ナナフ | 2-5mmの焼約を含む、 カクゼン石も含む、 | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 57 | 磁器(白磁) | 碗 | 15号土壤 | 埋土 一括 | 粉土生成色(SV9B 9/1.0) -7.5YR 1.0 | 白磁(7.5YR 0/1.0) | 燒成 | 底部中央部ナナフ | 底部 | 底部 | 小破片、残存容積2.4cm 残さず | |
| 58 | 柴付 | 碗 | 15号土壤 | 埋土 一括 | 粉土 七土ノホワイト(SNS) -7.5YR 0/1.0 | 白磁(7.5YR 0/1.0) | 普通 | 底部中央部ナナフ | 柴付 | 柴付 | 小破片、残存容積1.8cm 残さず | |
| 59 | 土師器 | 壺 | 17号土壤 | 埋土 一括 | 灰白色(7.5YR 6/0) -7.5YR 6/6 | 灰白色(7.5YR 6/2) | 普通 | 体部下部までナナフナナフ、 底部ヨコナナフ、底部中央部ナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフ、 底部ヨコナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 カクゼン石も含む、 | 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 60 | 土師器 | 壺 | 17号土壤 | 埋土 一括 | 内外赤丸、にふい褐色(10YR 6/0) | | 良 | 回転ナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフ | 1/6割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 61 | 土師器 | 脚部 | 17号土壤 | 埋土 一括 | 内外赤丸、にふい褐色(10YR 7/4) | | 普通 | 底部中央部ナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ | 回転ナナフ | 1mmの焼約を含む、 底部表面ヨコナナフ | 1/3割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 62 | 須恵器 | 壺 | 18号土壤 | 埋土 一括 | 内外赤丸、灰褐色(SV5/1) | | 良 | 底部体部下部までナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、 カクゼン石も含む、 底部表面ヨコナナフ | 1/2割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 63 | 土師器 | 壺 | 21号土壤 | 埋土 一括 | 淡黄色 (7.5YR 4/0) -にふい褐色 (7.5YR 4/6) | 淡黄色(7.5YR 4/0) | 普通 | 口縫部から底部下部までナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約及びナナフ ナナフ、底部表面ヨコナナフを含む、 カクゼン石も含む、 | 1/4割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 64 | 須恵器 | 壺 | 23号土壤 | 埋土 一括 | 灰色(10Y 5/1) | 灰褐色(7.5YR 6/1) | 良 | 底部体部下部までナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフナナフ | 回転ナナフ | 0.5-1mmの焼約を含む、 底部表面ヨコナナフ | 1/6割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 65 | 土師器 | 壺 | 包含層 | V層 一括 | 内外赤丸、にふい褐色(10YR 6/0) | | 普通 | 口縫部から体部下部までナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約を含む、 底部表面ヨコナナフ | 1/6割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |
| 66 | 土師器 | 壺 | H-1-2 | V層 一括 | 内外赤丸、にふい褐色(10YR 6/0) | | 普通 | 口縫部から体部下部までナナフナナフ、 底部表面ヨコナナフ、 底部中央部ナナフナナフ | 回転ナナフ、 底部中央部ナナフ | 1-2mmの焼約を含む、 底部表面ヨコナナフ | 1/5割れ、 底部の一部を欠損、 底部のため焼き不確実 | |

第5表

V層面出土遺物観察一覧表(4)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外側) | 色調(内側) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|----|------|---------|-------|----------|---|-------------------------|----|---|-------------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| 67 | 陶量 | 瓶 | H-1-2 | V層 一括 | にぶい褐色 SYR5/3) | 灰褐色(10R4/2)- SYR5/3) | 良 | 残存体部から底部が灰白色 まで丸子ナデ痕はヘラ痕か ナデ | 残存体部下部まで削除 ナデ | 0.2-1mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 底部1/3弱分 底と延びる7cm。 残存高さ2.5cm |
| 68 | 陶片 | 不明 | | V層 一括 | 胎土色(2-オイスター-GY7.5/1.0) 灰褐色(10R3.5/5.5) | | | 施釉焼付 | 施釉焼付 | | 小破片、残存高さ2.4cm、 焼き不適度、質元有、 發見は薄い |
| 69 | 陶器 | 瓶 | E-3 | V層 一括 | 胎土ねじり色(5N.5) 灰褐色(10R5.0/1.0) | | | 施釉 | 施釉 | | 小破片、残存高さ3.4cm、 焼き不適度 |
| 70 | 土器器 | 不明 | EP-2 | V層 一括 | にぶい褐色 (7.5YR6/4) | 青褐色 (10YR6/3) | 普通 | 口輪部からびれ目までココナナ ナデ、他焼成のためめ引削 痕上部に丸子有 | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 |
| 71 | 瓦質土器 | 火鉢 | H-1-2 | V層 一括 | 内外面共、黄褐色(2.5Y2/1) | | 普通 | 口輪部上部焼成のため調整 不規、丸子ナデ、 施釉状のスタンプ | ナデ | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂粒を含む。 | 小破片、残存高さ6.0cm、 焼き不適度 |
| 72 | 瓦質土器 | 火鉢 | H-1-2 | V層 一括 | 内外面共、灰褐色(2.5Y5/1) | | 良 | 回転ナデ、 輪郭輪廊に自然焼付着 | 回転ナデ | 0.5mmの砂粒を少量 含む。 | 1/5残存、 質元1/3弱14.3cm、 残存高さ2.0cm |
| 73 | 瓦質土器 | 割り鉢 | | V層 一括 | 内外面共、灰色(10Y6/1) | | 良 | ナデ | ナデ、墨り目 | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 盛り、口径10.4cm、 残存高さ2.0cm、 焼き不適度 |
| 74 | 瓦質土器 | 火鉢 | | V層 一括 | 内外面共、灰色(2.5Y2/1) | | 普通 | 回転ナデ、底部炎帯上部渦巻 状のスタンプ及び下部輪廊 丸子有、下部炎帯周辺は粗 | ナデ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 小破片、 残存高さ7.4cm、 焼き不適度 |
| 75 | 瓦質土器 | 平腹口縁(口) | | V層 一括 | 内外面共、灰褐色(2.5Y5/1) | | 普通 | 回転ナデ、薄く自然焼付着 | 回転ナデ、 輪郭火輪面ナデ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | |
| 76 | 瓦質土器 | 不明 | | V層 一括 | 内外面共、にぶい黄褐色(10YR7.0/2) | | 普通 | 穴吹き下部まで削除ナデ、 穴吹き上部墨書き有、 穴吹きより下部ハケス後一定 方向ナデ | ハケス後ナデ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 小破片、 残存高さ2.0cm、 焼き不適度 |

第6表

出土遺物觀察一覧表（鉄器1）

| No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 | No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 |
|-----|----|----------------|-----------|------------------------------------|------|-------|-----|------|----------------|-----------|------------------------------------|-----------|---------------|
| 208 | 刀子 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 4.50cm 幅 1.30cm 厚み 0.35cm | | 両端部欠損 | 217 | 釘 | 整地面 (中層) | IV層 一括 | 長さ 4.45cm 幅 0.60cm 厚み 1.30cm | 断面角形 | 完形 |
| 209 | 不明 | 整地面 | IV層 一括 | 長さ 3.00cm 幅 0.70cm 厚み 0.20cm | | 先端部欠損 | 218 | 釘 | 整地面 (下層) | IV層 一括 | 長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm | | 先端部欠損 |
| 210 | 釘 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 2.35cm 幅 1.10cm 厚み 0.35cm | 断面角形 | 両端部欠損 | 219 | 青銅器 | 整地面 (下層) | IV層 一括 | 長さ 3.90cm 幅 1.10cm 厚み 0.50cm | 六部径0.70cm | 一部欠損、 ほぼ完形 |
| 211 | 不明 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm | | 先端部欠損 | 220 | 馬具 | 15号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 6.90cm 幅 3.15cm 厚み 0.50cm | 9の字を呈する | 完形 |
| 212 | 釘 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 4.75cm 幅 0.55cm 厚み 0.30cm | | | 221 | 釘 | 15号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm | 断面角形 | 完形 |
| 213 | 釘 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 7.00cm 幅 1.50cm 厚み 0.40cm | | | 222 | 釘 | 15号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 4.35cm 幅 1.85cm 厚み 0.90cm | 断面角形 | 先端部欠損 |
| 214 | 釘 | 整地面 (上層) | IV層 一括 | 長さ 5.00cm 幅 0.60cm 厚み 0.50cm | 断面角形 | 完形 | 223 | 釘 | 15号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 5.10cm 幅 1.10cm 厚み 0.50cm | 断面角形 | 先端部欠損 |
| 215 | 釘 | 整地面 (中層) | IV層 一括 | 長さ 8.50cm 幅 0.50cm 厚み 0.50cm | 断面角形 | 完形 | 224 | 釘 | 15号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 2.75cm 幅 1.90cm 厚み 0.50cm | 断面角形 | 完形 |
| 216 | 釘 | 整地面 (中層) | IV層 一括 | 長さ 4.35cm 幅 0.55cm 厚み 0.60cm | 断面角形 | | 225 | 不明鉄片 | 16号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 3.00cm 幅 2.20cm 厚み 2.40cm | | |
| 226 | 刀子 | 16号土壤 (V層面) | 埋土 一括 | 長さ 3.40cm 幅 1.30cm 厚み 0.20cm | | 両端部欠損 | 229 | 不明 | V層 一括 | | 長さ 2.80cm 幅 1.10cm 厚み 0.40cm | | 両端部欠損 |
| 227 | 釘 | | V層 一括 | 長さ 4.30cm 幅 1.30cm 厚み 0.90cm | | 先端部欠損 | 230 | 不明 | V層 一括 | | 長さ 5.70cm 幅 1.00cm 厚み 0.70cm | | |
| 228 | 釘 | | V層 一括 | 長さ 2.90cm 幅 1.00cm 厚み 0.50cm | | 両端部欠損 | | | | | | | |

第3節 奈良・平安時代の遺構・遺物

1. 穫穴住居跡

1号竪穴住居跡（第37図）

1号竪穴住居跡は、調査区の中央部からやや東寄りに位置し、4号竪穴住居跡に切られる。4号竪穴住居跡の南側壁にコーナーの痕跡があり、1号竪穴住居跡の平面形は、ほぼ方形を呈すると考えられる（約380×360cm、深さ約20～25cm）。住居内に5基の柱穴（P 1～P 5）を確認したが1号竪穴住居跡に伴うものは内2基（P 1径25×20cm、深さ約12cm）・（P 2径22×22cm、深さ約10cm）で、西側の柱列は4号竪穴住居跡内に1基確認した（P 6径20×30cm、深さ約11cm）。もう1基の柱穴は4号竪穴住居跡の土壤状掘り込み部分により消失したものと考えられる。硬化面は検出できず、X層・黄褐色粘質土（10YR 6/5）をそのまま床面にしていたと考えられる。北側壁中央部には、竈の底面が残っていた。確認できたのは、灰白色の粘土で作った袖部の片側（壁からすこし浮いた状態）と梢円形の掘り込みのみである。掘り込みは北側中央部に凹状のくぼみを持ち、底面中央部から南側寄り箇所には、円形の掘り込みがある（径約20cm、深さ約10cm）両掘り込み内の埋土は、3つに分けることができる。その竈の東側に貯蔵穴と思われる梢円形の掘り込み（径約40×60cm）がある。埋土は住居跡のものと等しく、遺物は出土しなかった。住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅶ層）で分層できなかった。住居床上面から遺物が出土した（第38図）。

4号竪穴住居跡（第37図）

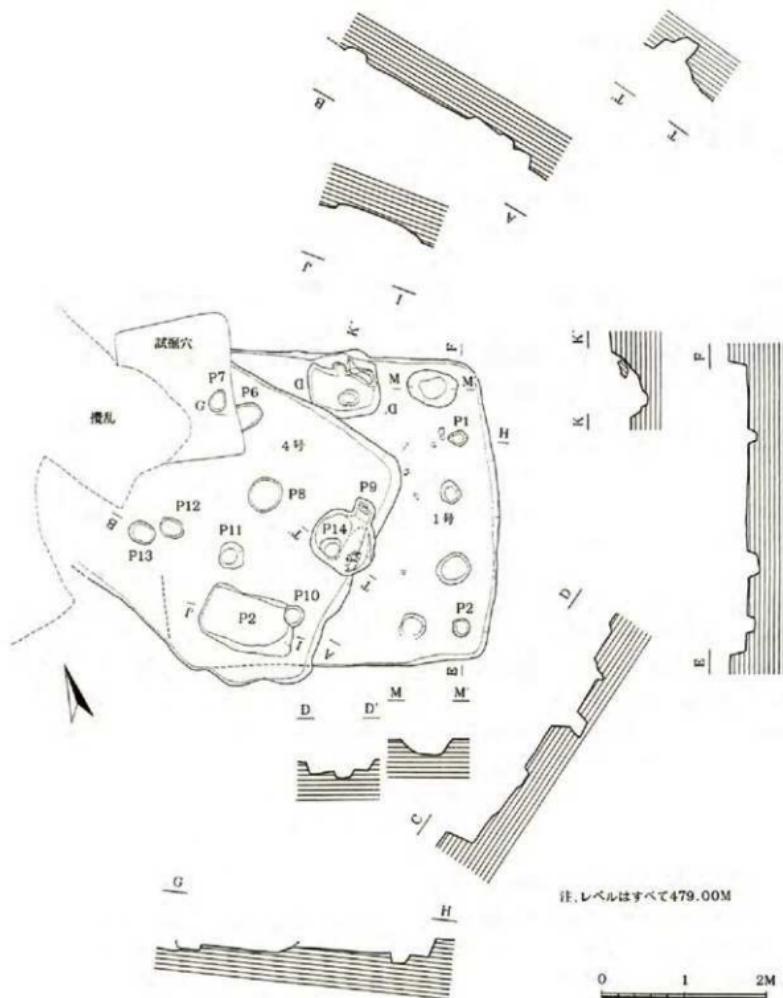
4号竪穴住居跡は、1号竪穴住居跡を切っている。西側壁を擾乱されている（検出部の規模約280×300cm、深さ約8～35cm）。柱穴は住居跡内に9基（P 6～P 14）確認した。4号竪穴住居跡に伴う柱穴は、P 7径約28×20cm、深さ約6cm・P 9径約28×24cm、深さ約26cm・P 10径約25×24cm、深さ約8cm・P 13径約32×25cm、深さ約8cmである。また、土壤状の掘り込みを2基確認した（D 1・D 2）。D 1は東側壁の中央からやや北寄りに位置している円形のものである。壙中央から南寄りの底部に内湾した円形の掘り込み（径25cm、深さ26cm）がある。その北側に4号竪穴住居跡の主柱穴がある。1号竪穴住居跡と同じく硬化面はなく、X層・黄褐色粘質土（10YR 6/5）をそのまま床面としている。竪穴住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅶ層）で、分層できなかった。埋土中層より鉄鏃の小片が出土した。D 1より検出時に上面から遺物が出土した（第39～第40図）。

2号竪穴住居跡（第41図）

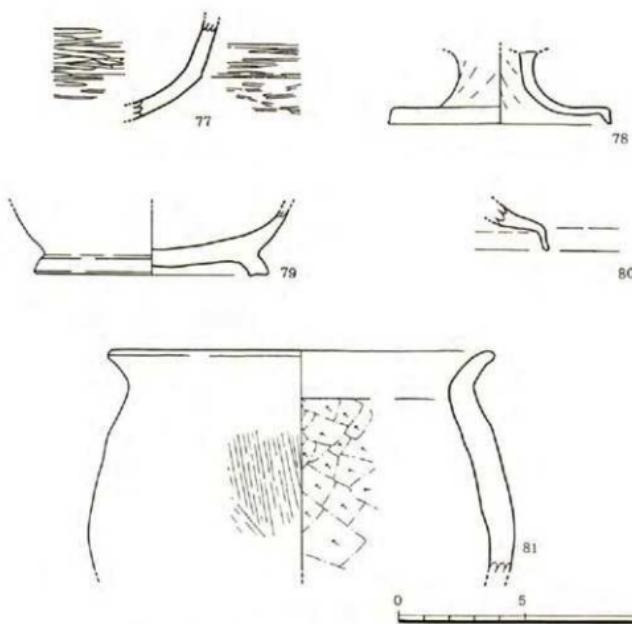
2号竪穴住居跡は北・西側を擾乱され、北側壁を掘り過ぎにより欠損した。南側及び西側底面を溝状遺構に切られている。南側壁にステップを持つので、2号竪穴住居跡の平面形は方形（約250×250cm）と推定できる。深さは約6～8cmを測る。柱穴は7基確認でき（P 1～P 7），内主柱穴は3基（P 1径約36×34cm、深さ約46cm、P 2径約36×34cm、深さ約74cm、P 3径約26×22cm、深さ約28cm）である。もう1基の主柱穴（北西側）は擾乱されていた。

住居南側壁に張り出し部がある。P 7に切られているが、P 7の埋土に多量の焼土が含まれていた。粘土などの痕跡は確認できなかった。硬化面は確認できず、X層・黄褐色粘質土（10YR 6/5）をそのまま床面

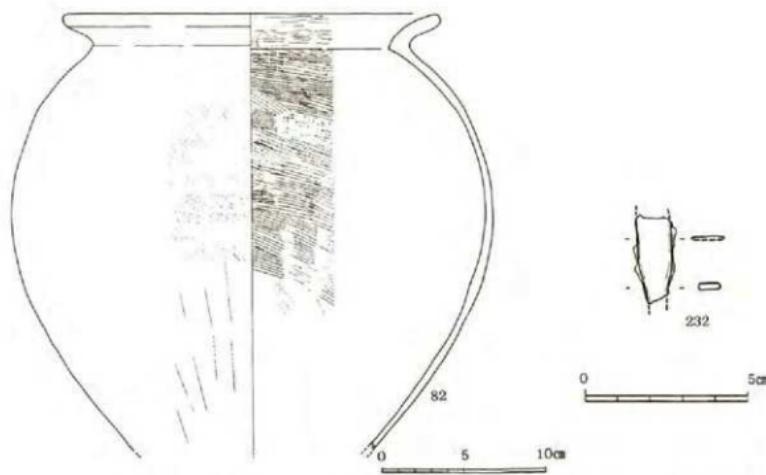
としている。埋土は黒褐色土（Ⅳ層）で分層できなかった。遺物の出土はなかった。



第37図 1・4号竪穴住居跡実測図

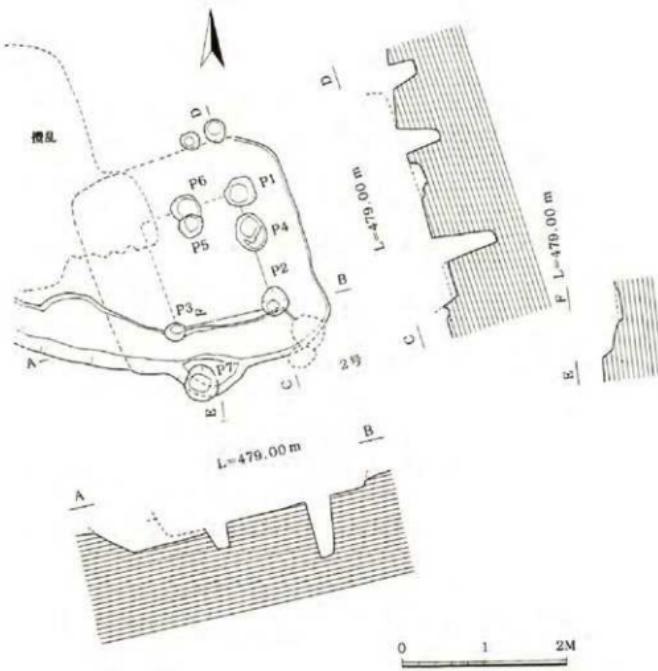


第38図 1号竪穴住居跡内出土遺物実測図



第39図 4号竪穴住居跡内土壤出土遺物実測図

第40図 4号竪穴住居跡内出土
遺物実測図

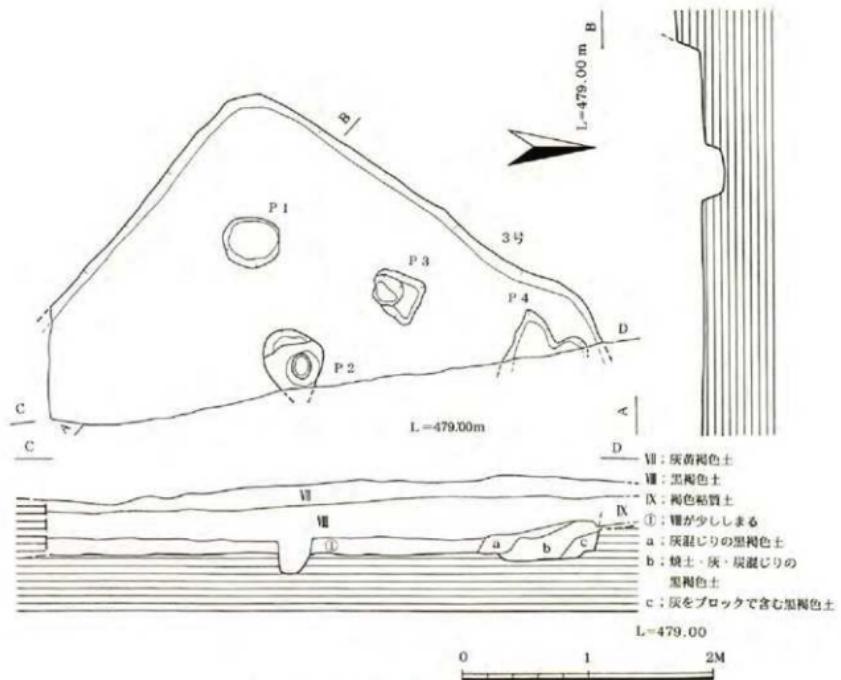


第41図 2号竪穴住居跡実測図

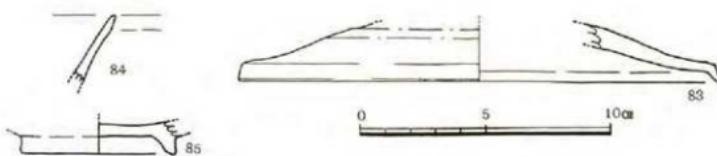
3号竪穴住居跡（第42図）

3号竪穴住居跡は調査区南端に位置する。東側が調査区外へと伸び、検出したのは住居跡の約1/2と思われる（検出部の規模約350×250cm、深さ約20cm）。内部に3基の柱穴を確認したが（P 1～P 3）、住居に伴うものは1基（P 1・径約45cm、深さ約20cm）である。

床面北側に不定形の掘り込みがある。埋土に焼土・灰・カーボンを埋土に含んでいたため、竈の可能性がある。硬化面ではなく、X層・黄褐色粘土質（10YR 6/5）をそのまま床面としている。埋土は2層に分層できる。埋土は全体的に鉄分を多く含んでいる。埋土下層より遺物が出土した（第43図）。



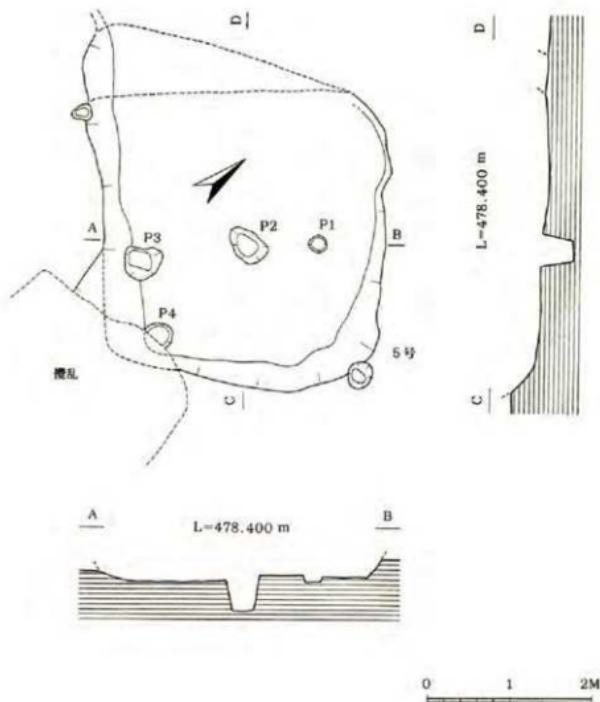
第42図 3号竪穴住居跡実測図



第43図 3号竪穴住居跡出土遺物実測図

5号竪穴住居跡【略方形掘り込み遺構】(第44図)

調査区北側中央の落ち込み部底面にて検出。掘り込みの形状（北東側壁残存約340cm、深さ約10~28cm）から住居跡と推定できる。南東側が擾乱及び掘り過ぎによりコーナーを失っており、掘り過ぎてしまったが西側壁に2つのステップがあるため、2つの推定ラインが引ける。柱穴は内部に4基確認できたが（P1径約22cm、深さ約10cm、P2径約50×34cm、深さ約44cm、P3径約48×44cm、深さ約23cm、P4残存径約44×24cm、深さ約26cm）、主柱穴は不明である。硬化面は確認できず、X層・黄褐色粘質土（10YR6/5）をそのまま床面にしていると考えられる。埋土は黒褐色土（Ⅲ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第44図 5号竖穴住居跡実測図

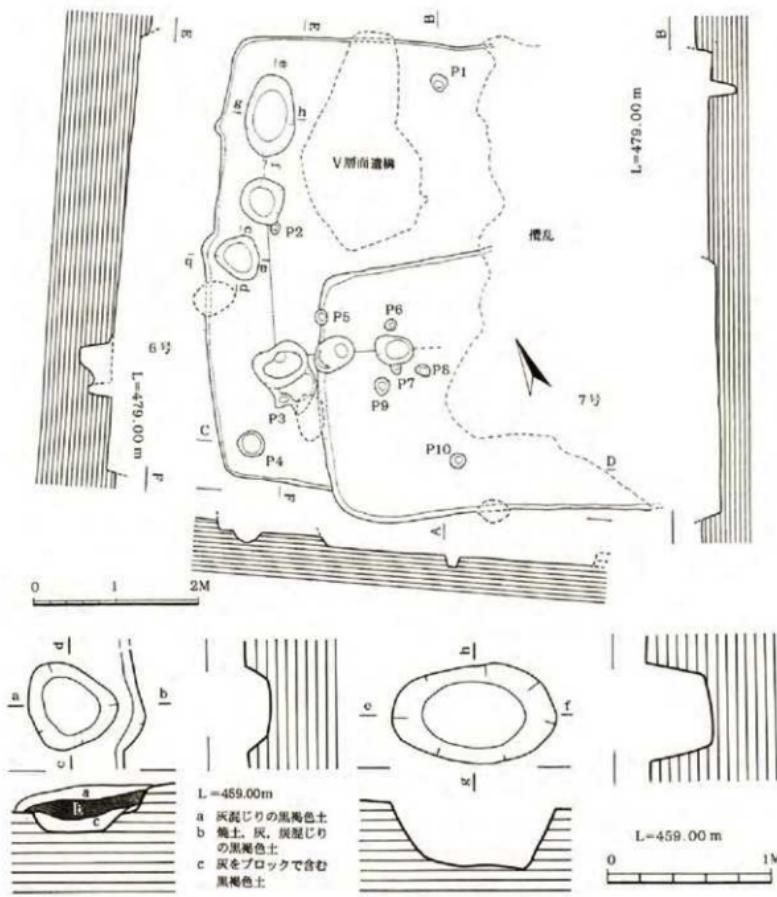
6号竖穴住居跡 (45図)

6号竖穴住居跡は7号竖穴住居跡に切られている。7号掘立柱建物跡と重複関係にある（新旧は不明）。北側をV層面の遺構に切られており、また南側を擾乱されている。検出部の規模約530×300cm、深さ約20cmである。柱穴は4基確認できたが（P1径約20cm、深さ約30cm、P2径約12cm、深さ約8cm、P3残存径約58×30cm、深さ約30cm、P4径約32cm、深さ約14cm）主柱穴かどうかは不明である。西側壁は張り出しており、その中央部に焼土及び灰を伴った甕の底面と考えられる掘り込みを検出した。平面形は略円形状の掘り込みで、径約55cm、深さ約10~12cmを測る。掘り込みの埋土は3つに分層できる。①層は焼土（多量）、灰（少量）の粒子を含む黒褐色土（Ⅲ層）である。②層は赤褐色の焼土で、③層は焼土・灰の粒子を少量含む黒褐色土（Ⅳ層）である。

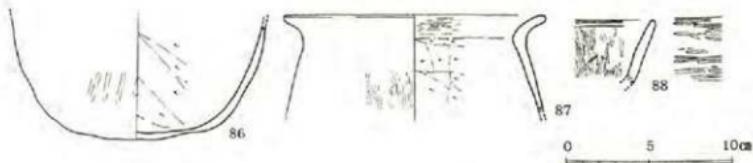
西側壁の北寄りの位置に貯蔵穴と考えられる、長軸約100cm、短軸約70cmの楕円形の掘り込みを検出した。深さ約35~45cmを測る。埋土は黒褐色土で分層はできず、遺物の出土もなかった。住居跡に硬化面はなく、X層・黄褐色粘質土（10YR 6/5）をそのまま床面としている。住居跡の埋土は黒褐色土（Ⅲ層）で分層はできず、埋土下層から遺物が出土した（第46図）。

7号竪穴住居跡（第45図）

7号竪穴住居跡は6号竪穴住居跡を切っており、7号掘立柱建物跡と重複関係にある（7号掘立柱建物跡が新しい）。東側を擾乱され、正確な平面形は描けない（検出規模長軸約380×300cm、深さ約8～25cm）。7基の柱穴を検出したが、主柱穴は不明である。硬化面はない。X層・黄褐色粘質土（10YR6/5）をそのまま床面としている。埋土は黒褐色土（V層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第45図 6・7号竪穴住居跡実測図



第46図 6号竪穴住居跡内出土物実測図

8号竪穴住居跡（第47図）

8号竪穴住居跡は、V層面の不明土壤に切られており、住居跡の2辺のみを確認した。南側壁にステップがあり、推定規模約300×240cm、深さ約5～36cmである。4基の主柱穴を確認した（径約15～28cm、深さ約5～8cm）。北側中央部寄りの床面上に焼土が点在していたが、掘り下げる時に確認できず竪かどうかは不明である。その他掘り込みを2基確認した。掘り込み①は床面中央部からやや南よりに位置する。平面形は不整梢円形を呈する。長軸約86cm、短軸約70cm、深さ約5～11cmを測り、底面は平らではなく、少々起伏がある。掘り込み②は、東側壁と南側壁のコーナー部に位置し、梢円形を呈する（長軸約78cm、短軸約60cm、深さ約2～14cm）。底面は軸に沿って西南側が深くなっている。

住居跡に硬化面ではなく、XI層・黄橙色ローム層（10YR7/8）をそのまま床面としている。埋土は黒褐色土（Ⅲ層）で遺物の出土はなかった。

2. 掘立柱建物跡

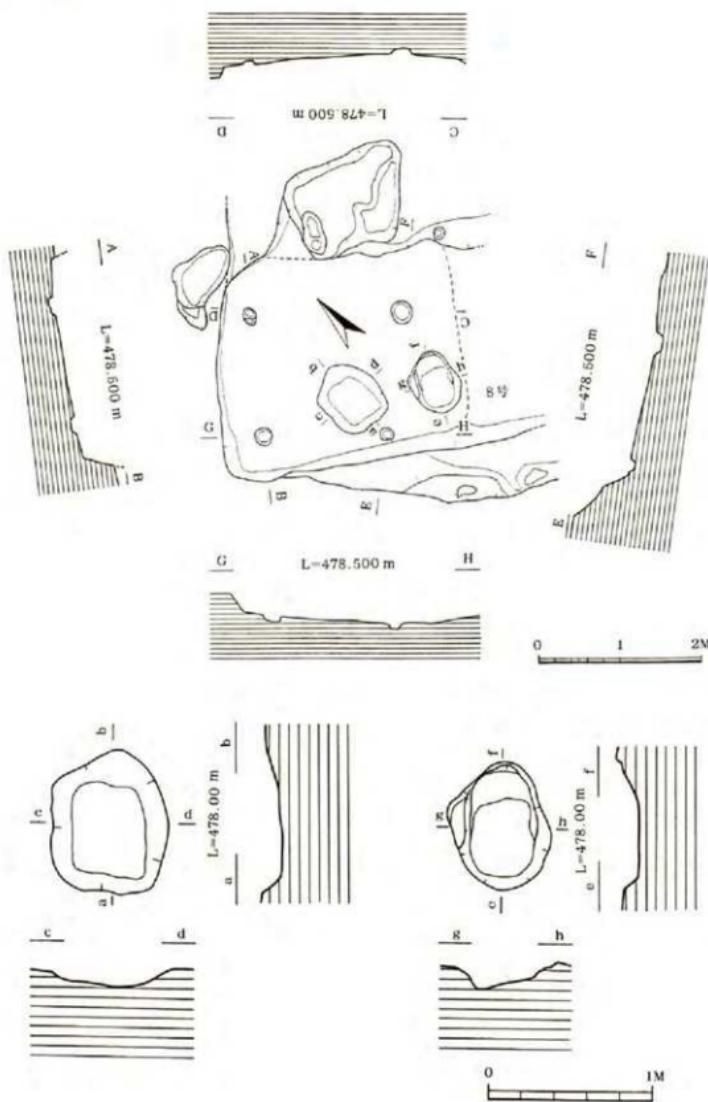
6号掘立柱建物跡（第48図）

6号掘立柱建物跡は桁行が調査区外へ伸びており、確認できたのは梁間南側2間、桁行西側3間分、東側1間分のみである。主軸は北東～南西である。南側梁間の柱間寸法は東から約135cm（約4.5尺）、約120cm（約4尺）である。西側桁行の中間寸法は南から約135cm（4.5尺）、約120cm（約4尺）、約105cm（約3.5cm）である。東側桁行の柱間寸法は約120cm（約4尺）である。柱穴の深さは様々で、均一化が成されておらず、平面形は円形及び梢円形を呈する。柱穴の埋土は黒褐色土（Ⅲ層）で柱痕跡は確認できず、遺物の出土もなかった。

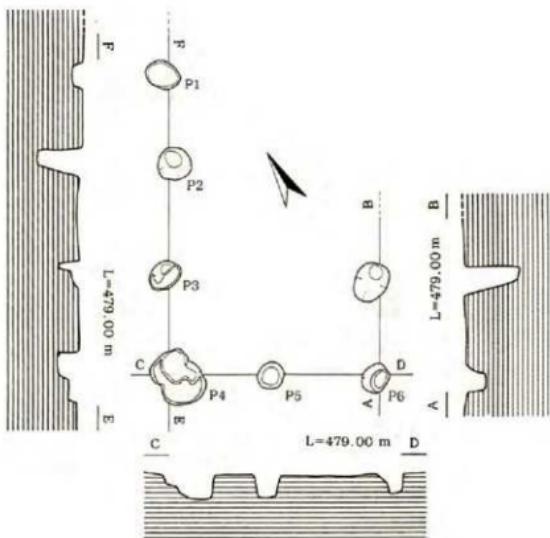
7号掘立柱建物跡（第49図）

7号掘立柱建物跡は東側を擾乱され、6号竪穴住居跡内に3基の柱穴があるが、6号竪穴住居跡の床面を切って掘り込んでいるため、6号竪穴住居跡より新しいと考えられる。確認できた北側及び西側柱列が伸びなかつたので、7号掘立柱建物跡の規模は、梁間2間×桁行2間と推定できる。柱間寸法は北側柱列P1～P3は約150cm（約5尺）、約165cm（約5.5尺）、西側柱列P3～P5は約225cm（約7.5尺）、約195cm（約6.5尺）、南側P5～P6は約150cm（約5尺）である。柱穴は、基本的にほぼ円形で（径約45～60cm）、

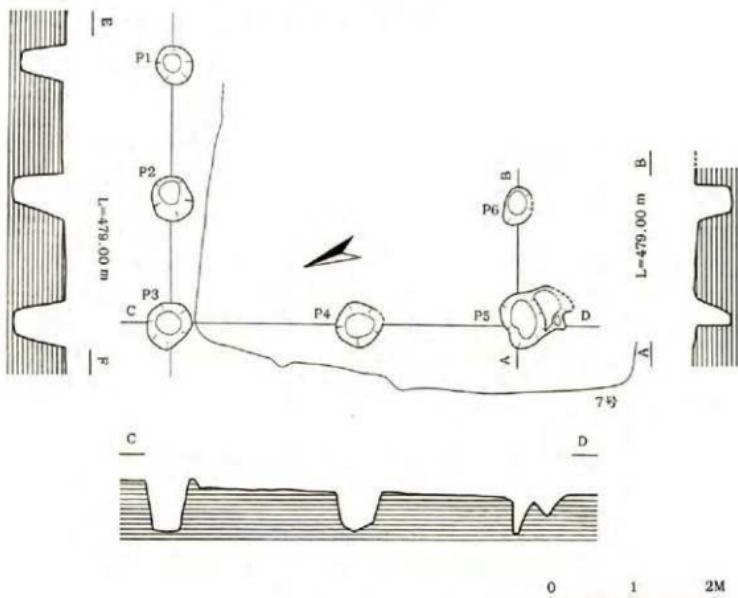
断面形が筒状になる（深さ約45~60cm）。埋土は黒褐色土（Ⅳ層）で柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物の出土はなかった。主軸は北北西~南南東である。



第47図 8号竪穴住居跡実測図



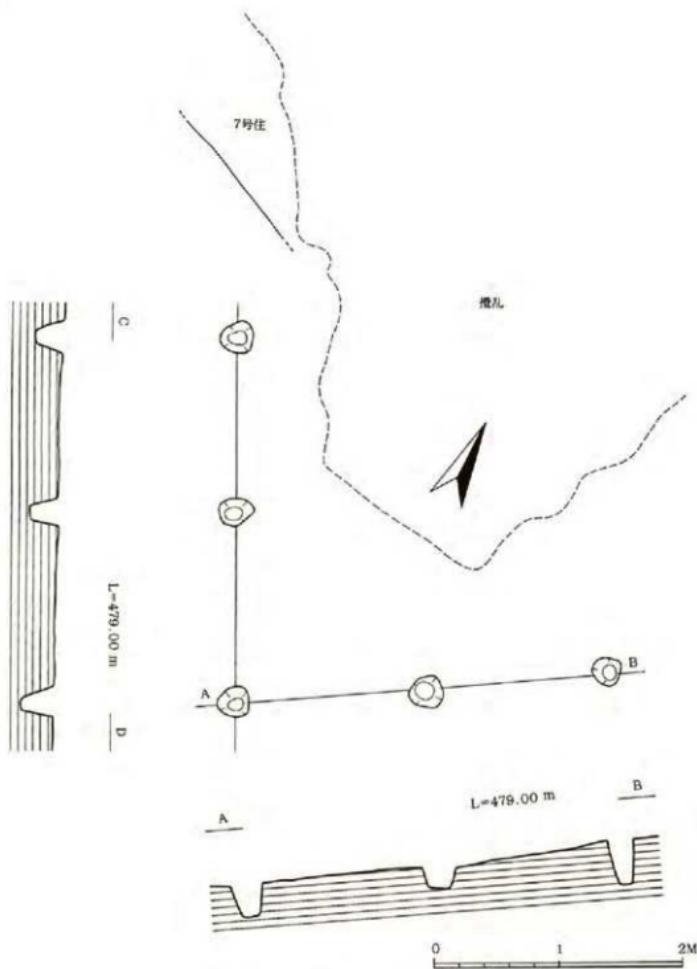
第48図 6号据立柱建物跡実測図



第49図 7号据立柱建物跡実測図

8号掘立柱建物跡（第50図）

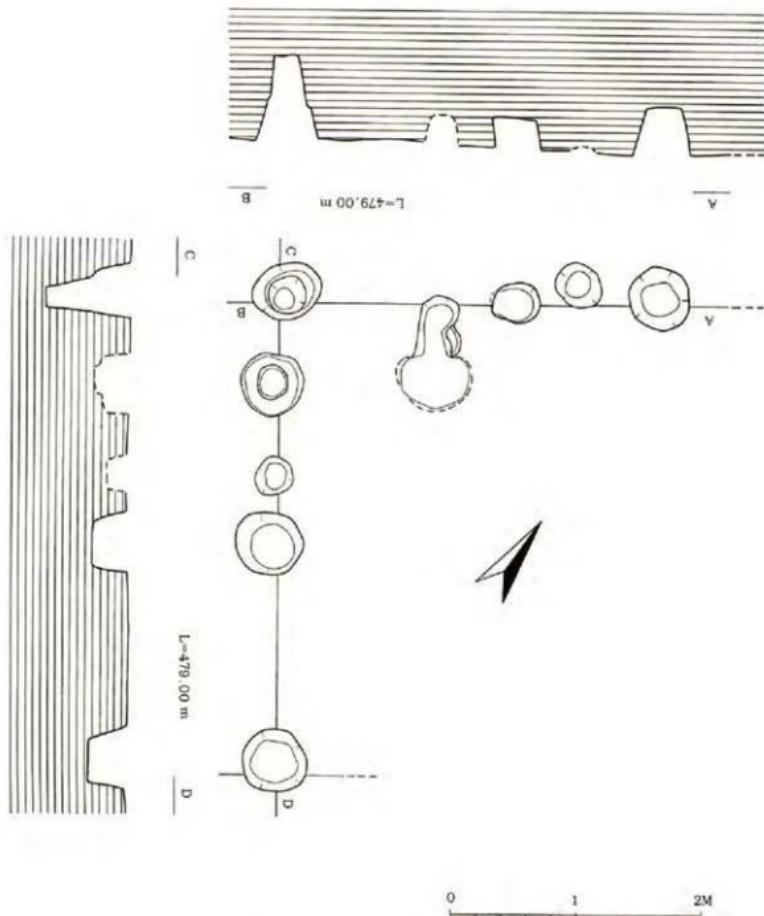
8号掘立柱建物跡は北側を擾乱され規模は不明である。確認できたのは、梁間・桁行共に2間分の柱列のみである。確認した柱列は共に延びないので推定規模2間×2間の可能性がある。柱間寸法はすべて約150cm（約5尺）である。主軸は4号整穴住居跡に類似しており、北東—南西である。柱穴は径約22~25cm、深さ約20~36cmである。平面形は円形で、断面形は筒状を呈する。埋土は黒褐色土（埴層）で柱痕跡は確認できず、遺物の出土もなかった。



第50図 8号掘立柱建物跡実測図

9号掘立柱建物跡（第51図）

9号掘立柱建物跡は西側梁間2間分及び、北側桁行2間分を確認し、あとは調査区外に延びると考えられる。検出した西側梁間の柱間寸法P3～P5は約195cm（約6.5尺）、約180cm（約6尺）である。北側桁行P1～P3は約120cm（約4尺）、約180cm（約6尺）、柱穴の径は約40～50cm、深さ約30～70cmである。埋土は黒褐色土（埴層）で、柱痕跡は確認できなかった。柱穴P3は他の柱穴より特に深く、西側梁間のP1～P3の柱穴の埋土上面に板状の礫が落ち込んでいた。主軸は北西—南東である。遺物の出土はなかった。



第51図 9号掘立柱建物跡実測図

3. 土壌

4号土壌（第52図）

調査区南側に位置する。V層面の柱穴に切られている。焼土が掘り込みに対し環状に分布しており、掘り込み底面からは浮いた状態にある。掘り込みは、長軸約106cm、短軸約74cmの橢円形を呈する。深さは約10～20cmで、北東側に行くにつれて深くなっている。遺物は掘り込みからやや北東側にずれた位置の上面に須恵器大甕片が点在していた（第53図）。

5号土壌（第52図）

調査区南側、4号土壌の北側約3mに位置する。墻長軸約125cm、短軸95cm、深さ約20～26cmの橢円形を呈する。断面形は皿状になる。埋土は黒褐色土（Ⅶ層）で、遺物の出土はなかった。

6号土壌（第52図）

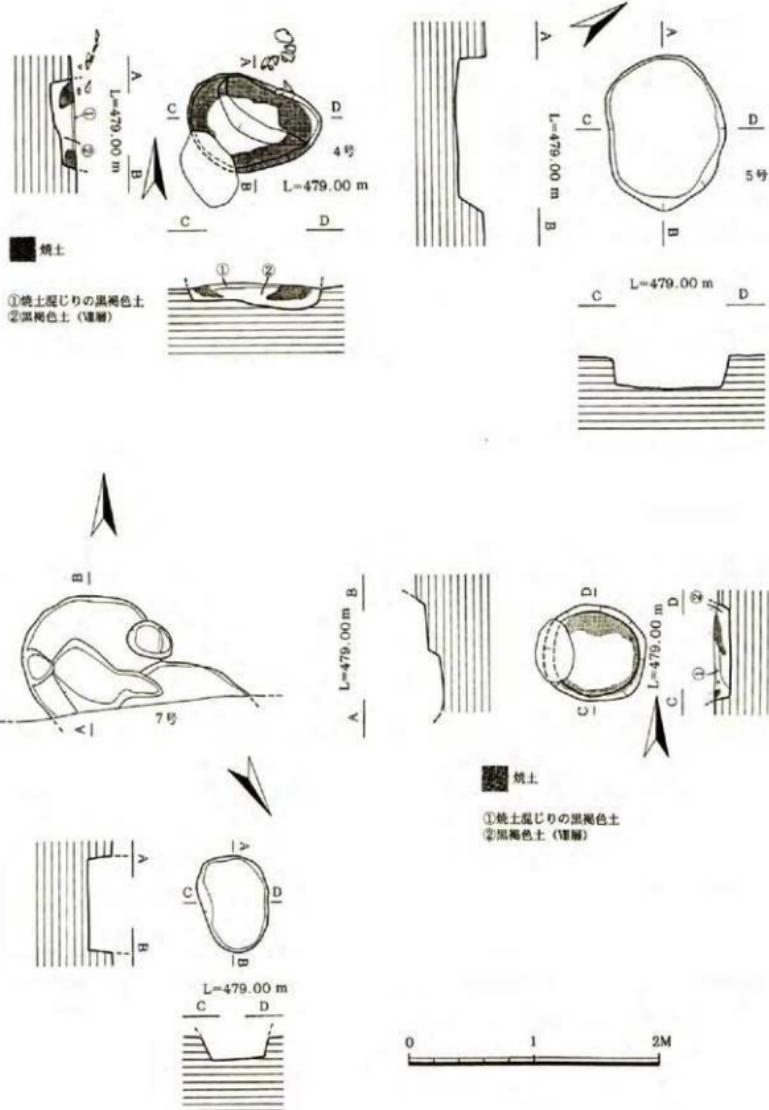
調査区南側細長部分のコーナー部に位置する。V層面の柱穴に切られているが、平面形はほぼ円形を呈すると考えられる。現存で南北約76cm、東西約57cm、深さ約12cmを測る。平面の観察では、掘り込みに対し焼土が環状に分布している。しかし断面観察では、壙床面まで達しておらず、埋土上層から中層内で納まっている。焼土は平面的に分布するのではなく、ブロック状に分布している。遺物の出土はなかった。

7号土壌（第52図）

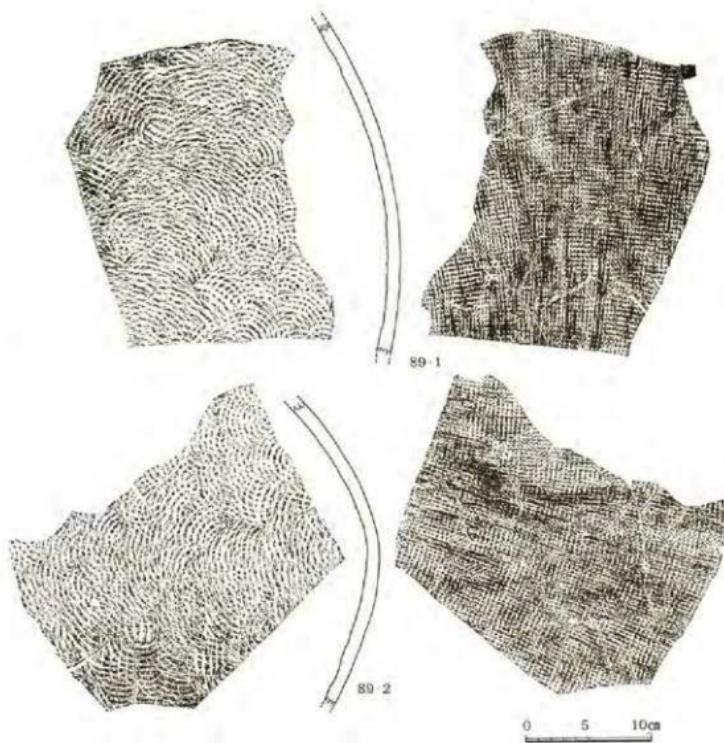
7号土壌は調査区外に延びているため、平面形は不明である。東側を柱穴に切られている（検出部南北約92cm、東西最長部約170cm）。断面形は2段掘りの皿状で、西側に円形の掘り込み（径約24cm、深さ約15cm）がある。この掘り込みが土壤に伴うかどうかは不明である。埋土は黒褐色土（Ⅶ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。

30号土壌（第52図）

1号竪穴住居跡の東側約1.2mに位置する。長軸約76cm、短軸約52cmの橢円形を呈する。深さは約20cmで、長軸の断面形は壁が直に立ち、短軸の断面形は壁がやや外反している。埋土は黒褐色土（Ⅶ層）で分層できず、遺物の出土はなかった。



第52図 4~7・30号土壤実測図



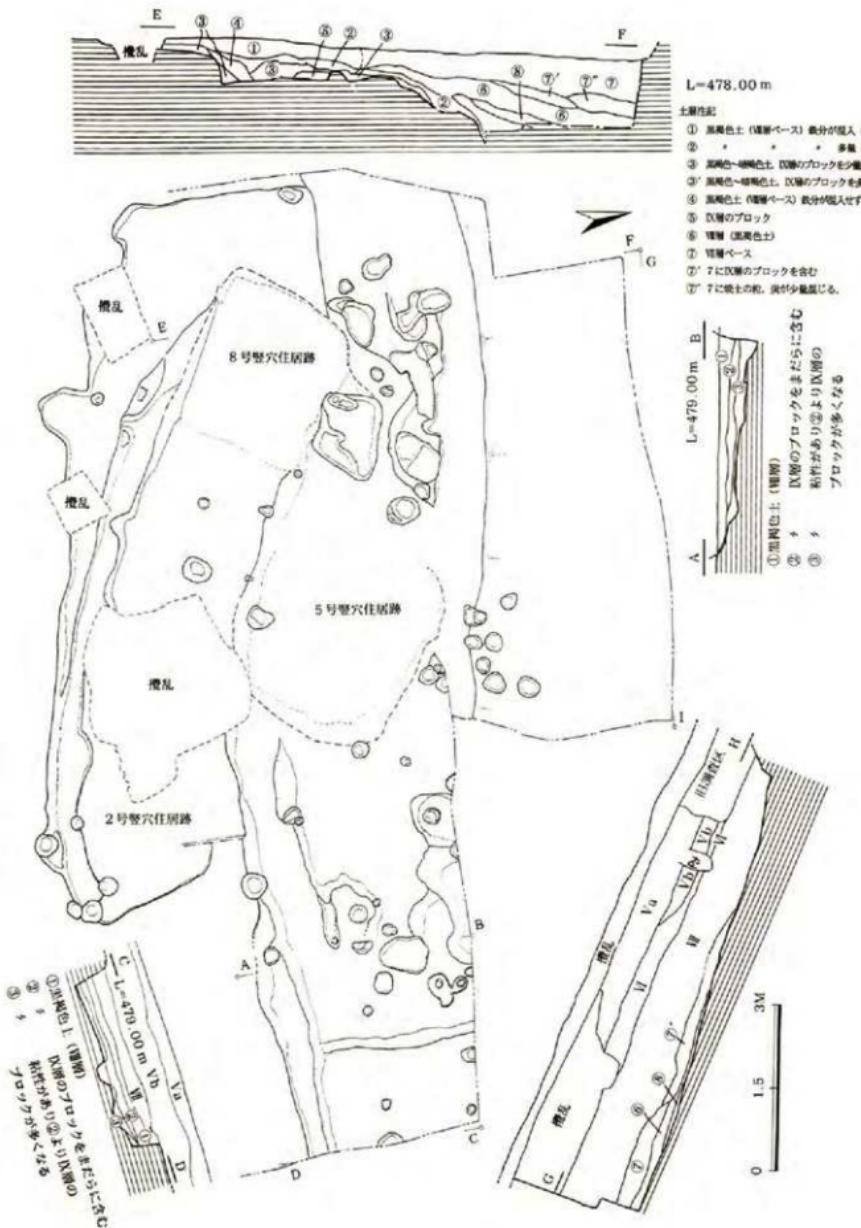
第53図 4号土壤上面出土遺物実測図

4. 溝跡

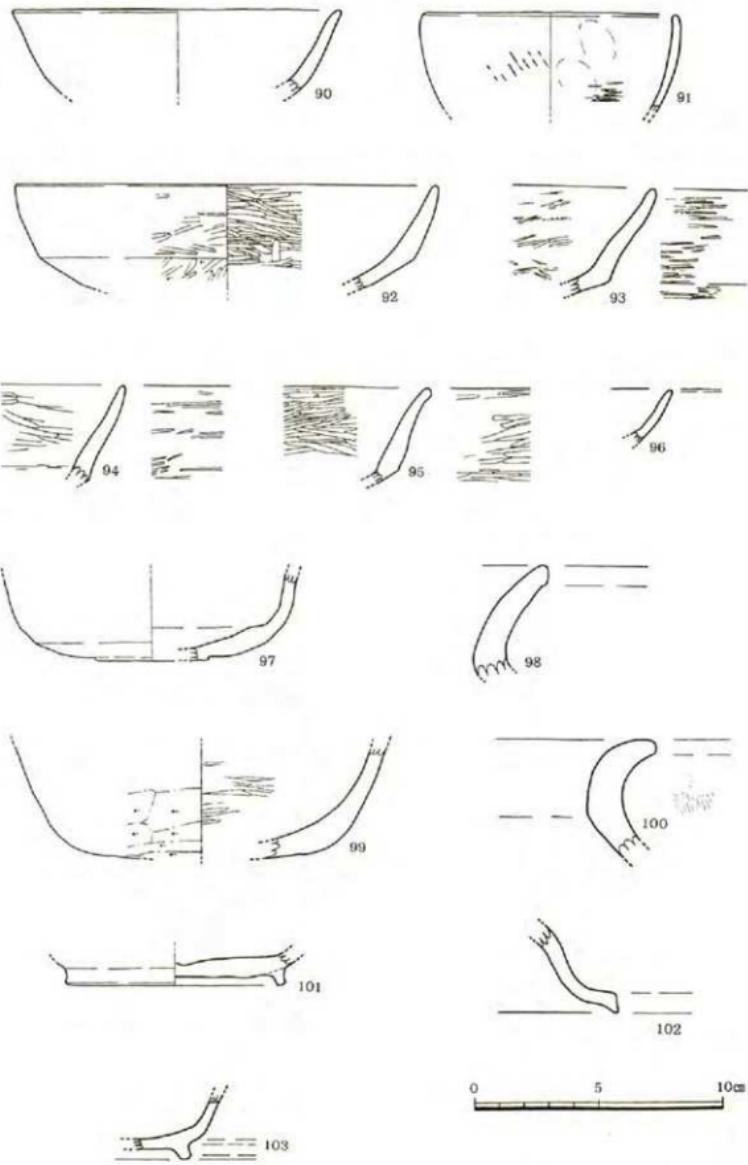
2号溝跡（第54図）

2号溝跡は調査区の北側に位置し、北東部分を擾乱され、東側は調査区外へと延びる。ここでは、溝跡として取り扱っているが、遺構の全貌は不明である。内部に2・5・8号竪穴住居跡及び幾基もの柱穴が存在するが埋土が埴層ベースで構成されているため新旧関係も不明である。また、2号溝跡北側端部は掘り下げを行っても地山（Ⅳ層）を検出することができず、表土から約2m50cm程掘り下げた時点で河川に近接していることもあり水が湧出し、作業に危険性があると判断し未掘となった。

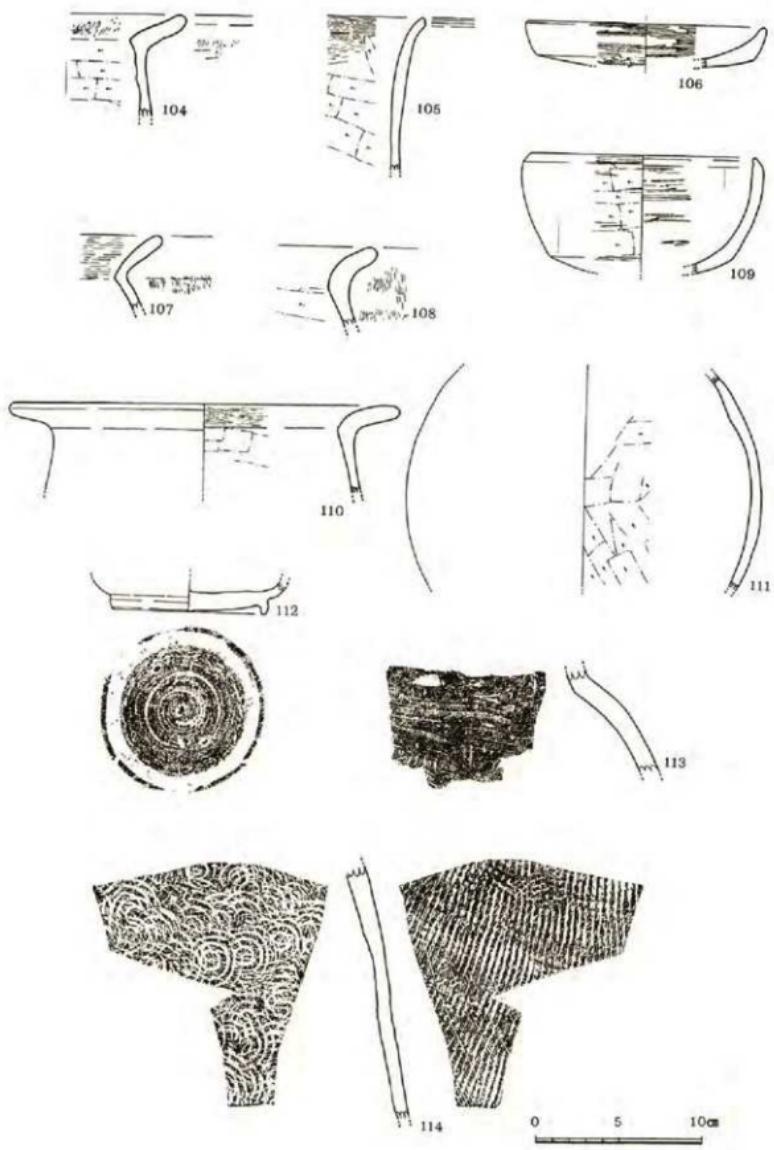
遺構の南側は2段掘り状になっており、東側にも段があり2号竪穴住居跡付近から上縁部が南側へ開いている。土層断面E-F間の土層体積状況を観察すると中央部から北側下方へ落ち込んでいる。下部にトレンチを入れ部分的に掘り下げたが土層に変化はなかった。検出規模約18m、最大幅約11m50cm、深さ約50～140cm（掘り下げた深さ）を測る。埋土から遺物が出土した（第55～56図）。



第54図 2号溝跡平面土層断面図



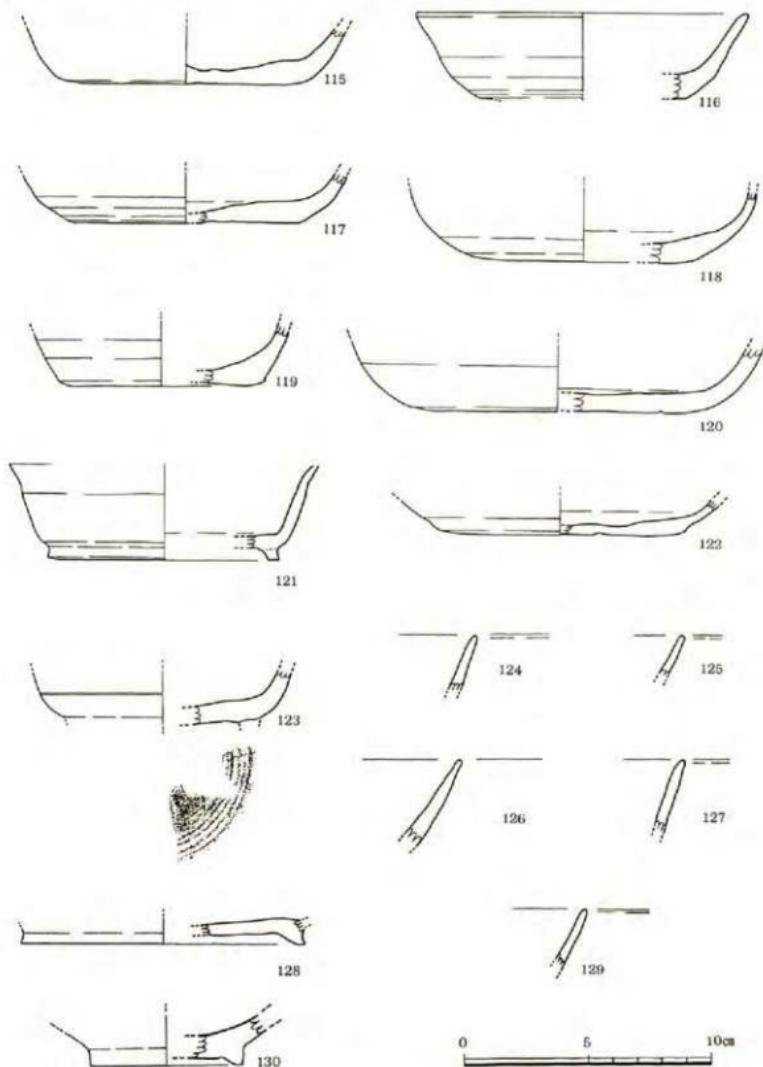
第55図 2号溝跡内出土遺物実測図(1)



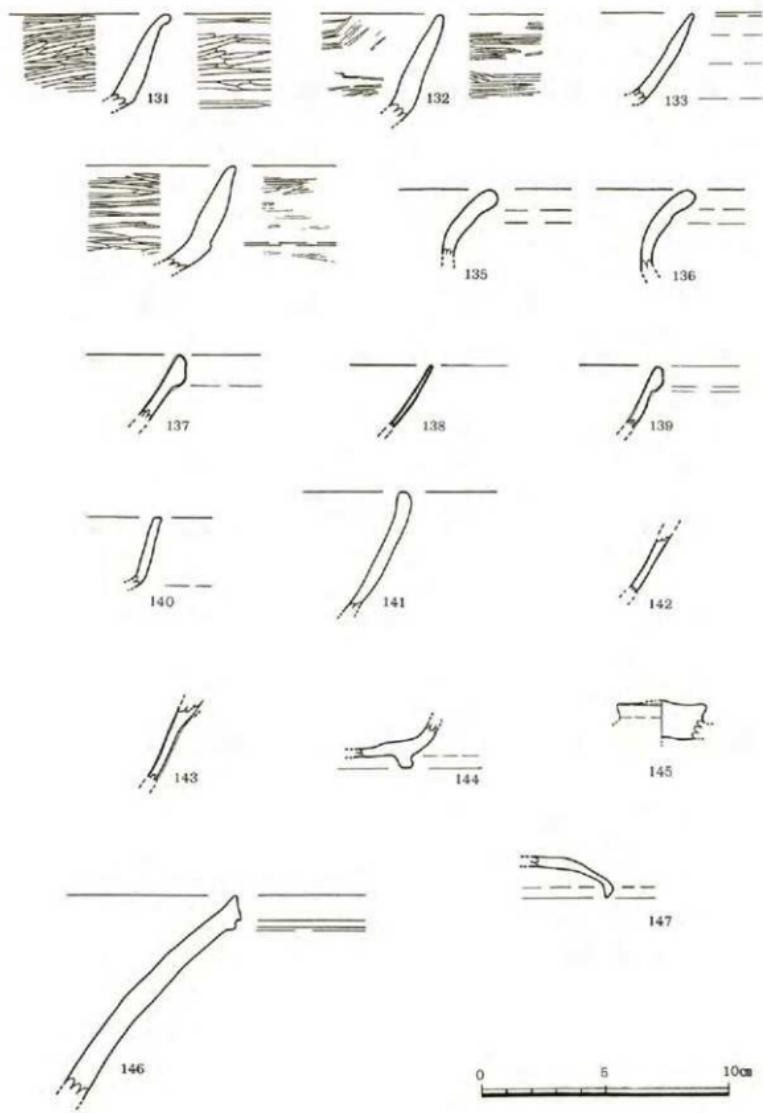
第56図 2号溝跡内出土遺物実測図(2)

5. 包含層の遺物（第57図～第61図）

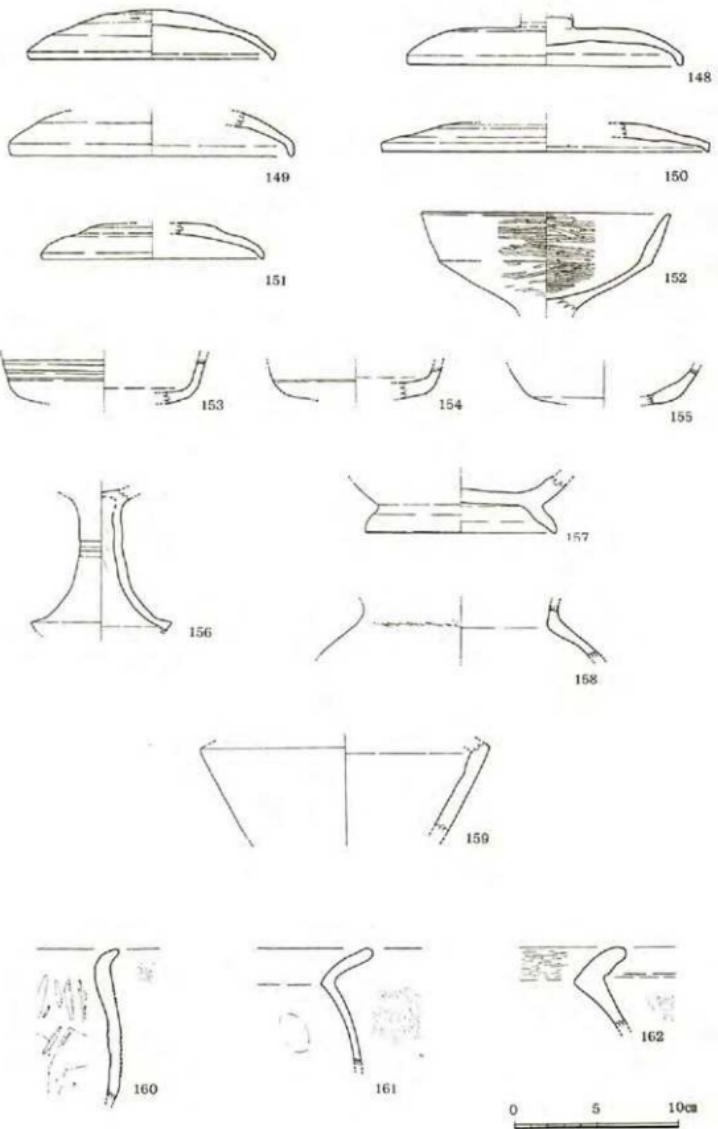
VII層には主に8～9世紀代の土師器、須恵器（壺、高壺、蓋、澗、甕）及び白磁等が出土した。破片・小破片が多く、実測可能なものについてのみ掲載する。また、馬具と思われる環状の鉄器も出土している。



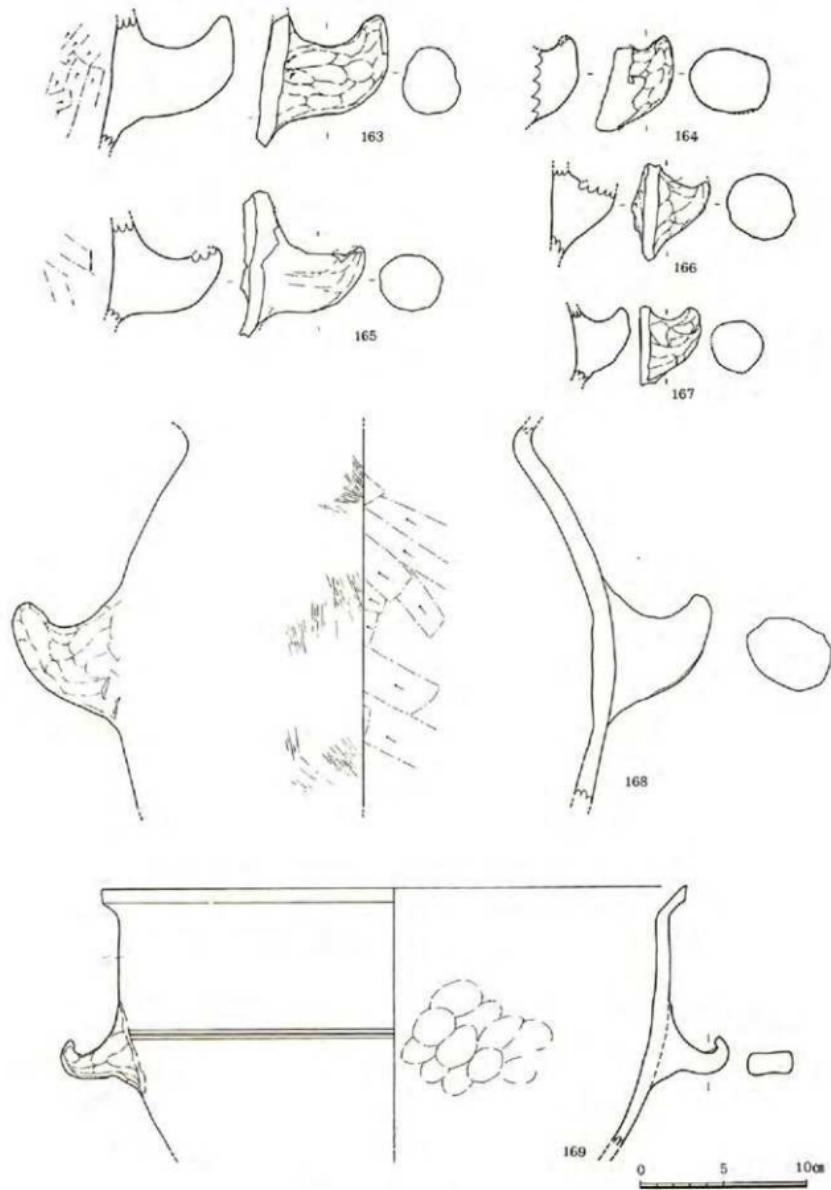
第57図 VII層（包含層）出土の遺物実測図（1）



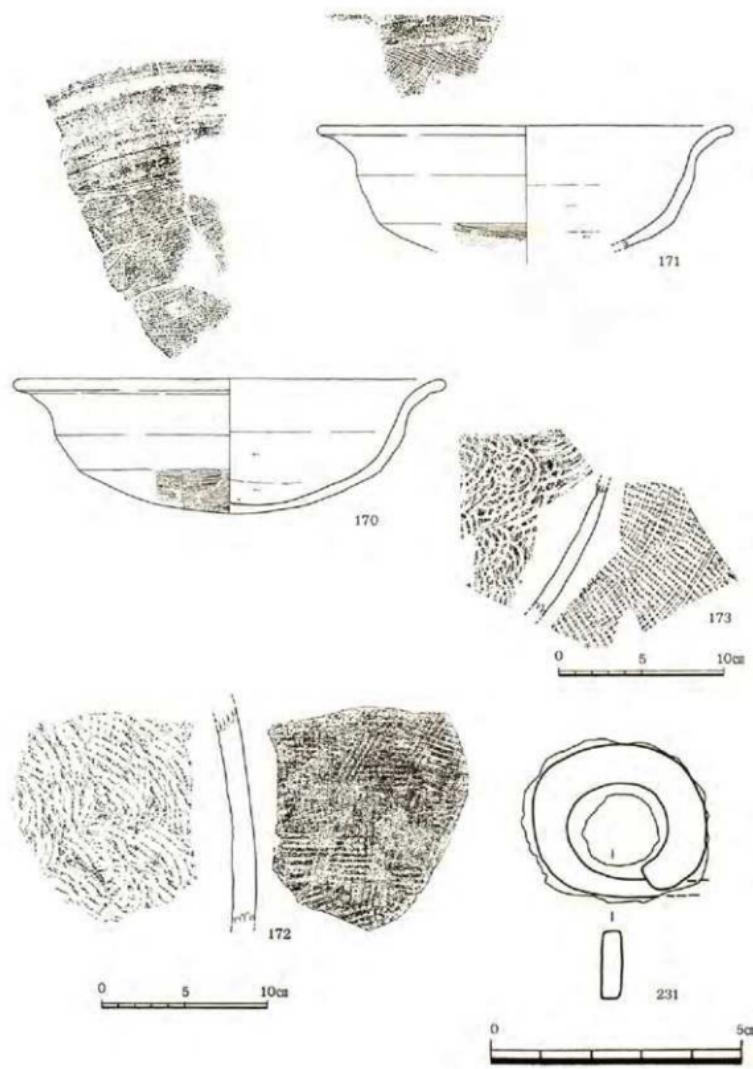
第58図 埋層（包含層）出土の遺物実測図（2）



第59図 VII層（包含層）出土の遺物実測図（3）



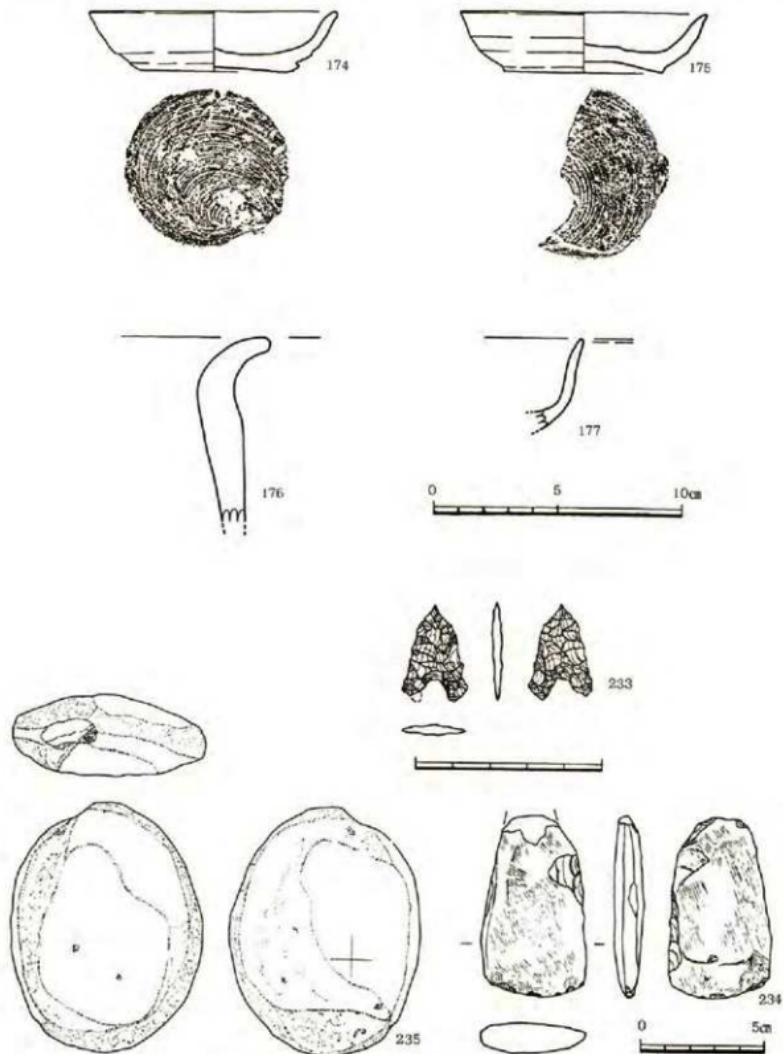
第60図 VII層（包含層）出土の遺物実測図（4）



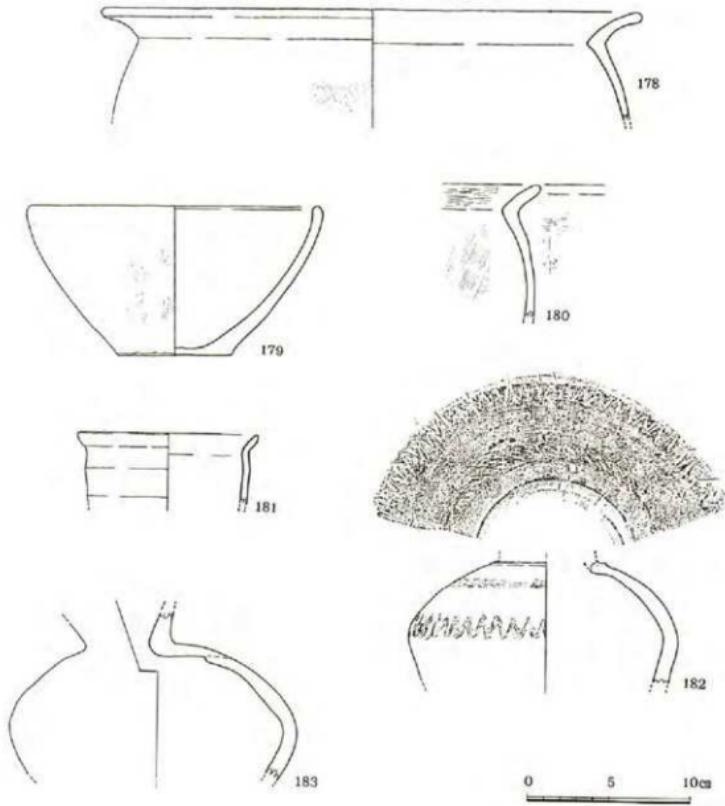
第61図 VII層（包含層）出土の遺物実測図（5）

第4節 その他の時代の遺物

基本土層VII層から少量の遺物が出土している(174, 175)。整地層(IV層)下層から石器2点、また平安期の包含層であるⅥ層から石器が混入して出土した(第62図)。並びに土器もも弥生から古墳時代のものが出土した(第63図)。



第62図 その他の遺物実測図(1)



第63図 その他の遺物実測図 (2)

第7表

以層面出土遺物觀察一覽表（5）

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 施成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|------------------|-------|---------|--------------|------|--|--------------------------------------|--|---|---------------------------|--|--|
| 88 | 土師器 | 壺 | 7号室六柱掘 | 埋上-底 | にぶい褐色 (7.5YR7/4) | にぶい褐色(7.5YR7/4) | 普通 口縁部から各部中央軸付近に施成され、底部中央から左側面部 ハウクリエット形状の施成跡あり | 書き 部座部中央に灰黒 色を含む | 0.5~3mmの砂利及び 粗い赤褐色を含む | 焼成、瓦容器4.2cm | |
| 89 (1) (2) | 灰陶器 | 大甕 | 4号土竈 上部掘合 | 埋上 | 内外共灰、反青褐色(10YR5/2) | | 良 サジ子タキア後部分的に ナナ | 同心円文タキア、 一蓋ナナ | 1mm~2mmの砂利を含む | | 張造の一部、現在は分離して あるが、施成の跡がまだ残 る。表面のタキアの跡は今 では消え、表面のカタツムリの 跡は、土器の施成の跡が現 れ、土器の施成の跡が現 れる位置と一致する。 |
| 90 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、にぶい褐色(10YR7/4) | | 良 口縁部は軽い赤茶色ナナ | 凹輪ナナ | 1mm~2mmの砂利、赤褐色 砂利、墨を含む | 1.6cm厚 高さ11.5cm、 直径23.8cm | |
| 91 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、淡黄褐色(10YR8/4) | | 良 口縁部直近コナヂ、 包タキナナ | 口縁部から全体中央軸付 近に施成され、底部中央 から又は底付近までナナ 後部分に施成され | 0.5mmの砂利、 赤褐色の砂利を含む | 1.3cm厚 高さ11.5cm、 直径23.8cm | |
| 92 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 帶白(2.5YR6/6) | 赤灰色(2.5YR5/1) | 良 口縁部付近赤茶色、 底付近中央軸付近に施成され る。底付近、ハウクリエット形状の 施成跡あり | 1.2cm厚、底部中央周辺 に施成され | 0.5mmの砂利を含む | 1.6cm厚 高さ16.5cm、 直径38cm | |
| 93 | 複数土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共、黒褐色(7.5YR3/2) | | 普通 ナナ後赤いミガキ、直腹有 | ナナ後赤いミガキ | 0.2~0.5mmの砂利を含む | 小瓶 高さ20cm、 直径6.5cm、 底付近不規 | |
| 94 | 板状土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 赤系、明褐色(2.5YR5/6) | | 普通 ナナ後へタミガキ、直腹 | ナナ後へタミガキ、直腹 | 1mmの砂利を含む | 板状 高さ20cm、 直径3.9cm、 底付近不規 | |
| 95 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 褐色(7.5YR7/6) | 褐色 (10YR8/8,4.0/5.5) | 普通 赤 | ヨコ方向のミガキ、 火照焼成ナナ | 0.5~1mmの砂利及び 赤褐色の砂利を含む | 焼成、 底付近、 直径3.8cm | |
| 96 | 土師器 | 平底(13脚) | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、青褐色(7.5YR6/6) 赤系、明褐色(2.5YR5/6) | | 普通 凹輪ナナ、赤茶 | 凹輪ナナ、赤茶 | 0.5~1mmの砂利及び 赤褐色の砂利を含む | 小瓶、小壺 底付近2.2cm | |
| 97 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 淡黄褐色 (7.5YR4/4) | にぶい褐色 (7.5YR7/4) | 普通 火照焼成から底付近中央軸に かけて(火照ナナ、ナナ、 直腹)へタミガキナナ | 凹輪ナナ後ナナ | 0.5~2mmの砂利及び カゼン石、墨を含む | 1/4肩 高さ11.5cm、 直径3.4cm | |
| 98 | 釉陶器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、灰青色(2.5Y5/1) | | 普通 凹輪ナナ | 凹輪ナナ、 口縁部は薄く自然断続付 | 0.5~1mmの砂利を含む | 小瓶、 底付近4.5cm、 墨を含む、陶泥、クロロ化 物付不規 | |
| 99 | 土師器 | 杯 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、反青褐色(2.5YR2/2)直腹 | | ケズレ後工具による斜削付 直腹 | 工具による斜削付付 にタミガキの痕跡有 | 1mmの砂利、カゼン 石を含む | 1/3肩 高さ10cm、 直径4.5cm | |
| 100 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | にぶい黒褐色 (10YR6/4) | 淡黄褐色(10YR8/4) | 普通 口縁部コナヂ後一階ハ メ、底付近までハナヘタ ナナ、底付近 | くびれ底までヨコナヂ、 火照焼成までヘタマリ 有り、底付近、直腹有り | 1mmの砂利、 赤褐色の砂利を含む | 罐形、瓦容器4.75cm 底付近1.3cm | |
| 101 | 灰陶器 | 高台付壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、明褐色(2.5Y4/1) | 赤灰色(2.5Y5/1) | 普通 底付近で凹輪ナナ、 底付近ナナ | 凹輪ナナ後ナナ | 0.5~1mmの砂利及び 赤褐色の砂利を含む | 高台付壺底1/4肩 高さ11.5cm、 底付近1.3cm | |
| 102 | 灰陶器 | 不明(管部) | 2号溝跡 | 上埋-底 | 黄褐色(2.5Y4/1) | 黄褐色(2.5Y5/1) | 普通 火照焼成付ケズレ、 凹輪ナナ | 凹輪ナナ | 0.5~1mmの砂利を含む | 罐形、底付近3.55cm、 凹輪ナナ方向 | |
| 103 | 灰陶器 | 壺 | 2号溝跡 | 上埋-底 | 内外共灰、灰褐色(2.5Y5/1) | | 普通 凹輪ナナ、底付近ナナ | 凹輪ナナ | 0.5~1mmの砂利を含む | 罐形、瓦容器2.8cm | |
| 104 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 下埋-底 | 褐色(7.5YR4/1) | 黑褐色(7.5YR3/1) | 普通 口縁部中央コナヂ、以下 直腹部までハナヘタナナ | 口縁部ハケテモコナヂ | 0.5~4mmの砂利、 カゼン石を含む | 罐形、瓦容器6.15cm | |
| 105 | 土師器 | 平底 | 2号溝跡 | 上埋-底 | にぶい褐色 (7.5YR4/1) | 淡黄褐色(7.5YR8/4) | 普通 口縁部コナヂ、底付近部 までヨコナヂ後ナナ。 凹輪部付近有り | 口縁部ハケテモコナヂ、 底付近でヘタマリナナ 後ナナ、底付近中央軸 附近で(ラスラ)ナナ | 1mmの砂利、カゼン 石を多く含み、墨を含む | 罐形、瓦容器6.925cm | |
| 106 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 下埋-底 | 淡黄褐色 (7.5YR8/3) -壁(2.5YR7/6) | にぶい褐色 (7.5YR7/4) | 普通 口縁部から底付近まで赤 き緋、底付近でヘタマリ 有り、直腹有り | ミガキ | 1~2mmの砂利、 赤褐色の砂利を含む | 1/5肩 高さ11.5cm、 直径4.3cm、 底付近3.25cm | |
| 107 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | -底 | 内外共灰、淡黄褐色(10YR8/2) | | 普通 底付近 | 口縁部コナヂ、以降全 部ヘタマリナナ後ナナ 有り、直腹有り | 0.5~1mmの砂利、 赤褐色の砂利を含む | 罐形、瓦容器4.45cm | |
| 108 | 土師器 | 壺 | 2号溝跡 | 下埋-底 | 淡黄褐色 (10YR8/4) | 黒褐色(10YR3/2) -にぶい黒褐色 (10YR6/3) | 普通 口縁部コナヂ、以降全 部ヘタマリナナ後ナナ 有り、直腹有り | 口縁部中までヨコナヂ、 ヘタマリナナ後ナナ 有り、直腹有り | 2~3mmの砂利、 赤褐色の砂利を含む | 罐形、瓦容器4.85cm | |

第8表

VII層及びIX層面出土遺物観察一覧表(6)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|-----|----------------|---------|-------------------|-----------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-----|--|---|--|--|
| 109 | 土器 | 鉢 | 2号溝壁 | 下層 | 内外面共灰褐色(7.5YR4/2) | | 普通 | 口縁端部工具により削痕有 村石とミガクの剥離有 工具による削痕有、表面にミ ガク剥離の剥離有、部分的にミ ガク剥離有 | 工具による削痕有 表面にミガクの剥離有 工具による削痕有、表面にミ ガク剥離の剥離有 | 1-2mmの滑剤、カクゼン 石を含む。 | 1.3m程存在 最高点標高33.7m, 最低点標高3.1m |
| 110 | 土器 | 甕 | 2号溝壁 | 下層 一括 | にぶい黃褐色 (10YR7/3) | にぶい黃褐色 (10YR7/3) | 普通 | 口中央丸みまでコナチ、 ケビレ部迄コナチ有り、 頂部及底部までマツ、 ケビレ部及底部有 | 高輪部ハケメ後ナチ、 全体部ラズベリ | 1-2mmの滑剤、カクゼン 石を含む。 | 1.5m程存在 最高点標高33.2m, 最低点標高5.3m |
| 111 | 土器 | 甕 | 2号溝壁 | 一括 | にぶい黃褐色 (7.5YR7/4) | 灰褐色(10YR6/2) | 普通 | ナチ、全体に底付有 | ヘラケツリ後ナチ | 1mm程の滑剤、カクゼン 石を含む。 | 水路1.6m程存在 最高点標高33.6m, 最低点標高13.3m, 傾斜不確定 |
| 112 | 瓦他器 | 片 | 2号溝壁 | 下層 一括 | 内外面共灰褐色(7.5YR8/3) | | 普通 | 武藏村山まで削輪ナチ、 ケビレ部まで削輪ナチ、 ヘラギリ | 0.5mm程の滑剤を含む | 底面から底面2.8m、 高さ約9.0cm、 幅約2.0m | |
| 113 | 瓦他器 (瓦他器上蓋) | 不明 | 2号溝壁 | トレー ンチ 一括 | 浅褐色 (10YR6/3) 赤褐色 (7.5YR5/8) | にぶい黃褐色 (10YR6/4) | 魚 | ケビレ部から底付部中央 までコナチ、底付部中央部 から大輪部までハケメ後ナチ、 全体にマツ | ケビリ後ナチ、 一部マツ | 0.5-2mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 箱組、現在高さ6.1m |
| 114 | 米容器 | 大甕 | 2号溝壁 | 上層 一括 | 灰褐色(10YR6/1) | 灰色(7.5YR6/1) | 食 | 平行タガ内面、外面にハケ ム、一部底付部有 | 同心円分タキ | 0.5mm程の滑剤を 含む。 | 破片、一部は火災 焼成上手不明 |
| 115 | 土器 | 甕 | 包含層No389 | 埋蔵 | にぶい黃褐色(7.5YR7/4) | | 普通 | 根付部より先まで削輪ナチ、 底部までマツ、底付部ハカリ後ナ チ | 削輪ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、カクゼン 石を含む。 | 底面のみ存在 最高点標高3.0m、 最低点標高2.3m, |
| 116 | 米容器 | 甕 | 包含層No429 | 埋蔵 | 内外面共灰褐色(5/0) | | 食 | 削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ | 削輪ナチ、底付部ハカリ後ナチ ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤を含む。 | 1.9m程存在(1倍3.4m), 最高点標高6.5m、 最低点標高5.0m、 走行している |
| 117 | 土器 | 甕 | 包含層 | 一括 | 内外面共、にぶい黃褐色(7.5YR7/4) | | 普通 | 底面まで削輪ナチ後輪の内 部削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ | 底面まで削輪ナチ、 底付部削輪ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 2.0m程存在、 最高点標高5.8m、 最低点標高2.6m |
| 118 | 土器 | 甕 | 包含層 | 一括 | にぶい黃褐色 (7.5YR7/4) | 黑色(10YR1.7/1) | 普通 | 次回張りの底付部削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ、 底付部有 | 削輪ナチ後ナチ | 1-2mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 1.2m程存在、 最高点標高2.1m |
| 119 | 土器 | 甕 | 包含層No429 | 埋蔵 | 内外面共、灰色(7.5YR7/6) | | 普通 | 底面まで削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ、 底付部有 | 削輪ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 底面-底下2.5/5.6m |
| 120 | 土器 | 甕 | 包含層No104 No105 | 埋蔵 | 内外面共、灰褐色(10YR8/4) | | 普通 | 次回張り削輪部削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ、 底付部有 | 底付部削輪ナチ、 底付部削輪ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 底面1.3m程存在、底面-一 度張り元点標高10.3m、 底付部高さ2.7m |
| 121 | 米容器 | 高台付舟 | 包含層No156 | 埋蔵 | 褐色(7.5YR6/6) | 灰褐色(7.5YR7/8) | 食 | 底付部ハカリ後削輪部にナ チ、底付部削輪部削輪ナチ、 底付部ハカリ後ナチ、 ケビレ部底付部有 | 口縁部ハケメ後ナチ、 全体部ラズベリ | 1-2mmの滑剤、カクゼン 石を含む。 | 1.5m程存在、 最高点標高2.3m、 最低点標高1.6m |
| 122 | 土器 | 甕 | 包含層No489 No490 | 埋蔵 | 内外面共、褐色(7.5YR6/6) | | 普通 | 底付部ハカリ後ナチ、 底付部削輪ナチ | 削輪ナチ後ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 雪母、カクゼン石を含む。 | 底付部3.0m程、 最高点標高3.7m、 最低点標高1.5m |
| 123 | 米容器 | 甕 | 包含層 | 一括 | 内外面共、灰褐色(5/0) | | 食 | 底付部ハカリ、底付部まで削輪 ナチ、 底付部合舟部削輪ナチ | 底付部削輪部削輪ナチ、 底付部削輪ナチ後 ナチ | 0.5-2mmの滑剤を含む。 | 1.9m程存在、 最高点標高2.2m |
| 124 | 土器 | 不明(口縁部) | 包含層 | 一括 | 内外面共、褐色(7.5YR7/6) | | 普通 | 削輪のため調整不良 | 削輪のため調整不良 | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 小窓付、底付部高さ2.3m、 底付部不確定 |
| 125 | 土器 | 不明(口縁部) | 包含層No329 | 埋蔵 | 内外面共、にぶい褐色(7.5YR7/4) | | 食 | 削輪ナチ | 削輪ナチ | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 小窓付、底付部高さ1.7m、 底付部不確定 |
| 126 | 土器 | 不明(口縁部) | 包含層No292 | 埋蔵 | 褐色(7.5YR7/8) | 灰褐色(7.5YR8/8) | 普通 | 削輪のため調整不良 | 削輪ナチ | 0.2-0.5mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 小窓付、底付部高さ3.5m、 底付部不確定 |
| 127 | 土器 | 不明(口縁部) | 包含層No399 | 埋蔵 | 内外面共、にぶい褐色(7.5YR7/4) | | 普通 | 削輪のため調整不良 | 削輪のため調整不良、 小窓 | 1mmの滑剤、赤褐色の滑剤、 カクゼン石を含む。 | 高台付から底面1/4程 底付部高さ11.4m、 底付部高さ10.0m |
| 128 | 土器 | 外 | 包含層No278 | 埋蔵 | にぶい褐色 (7.5YR7/9) | にぶい褐色 (7.5YR7/4) 赤褐色(7.5YR6/8) | 普通 | 削輪のため調整不良 | 削輪のため調整不良、 小窓 | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 雪母を含む。 | 小窓付、底付部高さ2.5m、 底付部不確定 |
| 129 | 土器 | 不明(口縁部) | 包含層No513 | 埋蔵 | 内外面共、にぶい褐色(7.5YR7/4) | | 普通 | 削輪のため調整不良 | 削輪のため調整不良 | 0.5-1mmの滑剤、 赤褐色の滑剤、 雪母を含む。 | 小窓付、底付部高さ2.0m、 底付部高さ16.1m |
| 130 | 土器 | 外 | 包含層 | 一括 | 胎土、黒バーレホワイト(8.5) | | ケヅリ | | 胎土 | | |

第9表

VII層出土遺物観察一覧表(7)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|-----|--------|-------|--------------------------|----|--|--------------------|----|--|---------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 131 | 陶質土器 | 壺 | 包含層n60 | 埋削 | 灰褐色 (7.5YR5/4) | 黃褐色 (7.5YR4/3) | 普通 | 口縁部に黒子、 底付部ナラミガキ | 口縁部に黒子、 底付部ナラミガキ | 0.2-0.5mmの砂粒及び 赤褐色沙粒、 當得を含む。 | 小破片、 直存高さ3.8cm、 燒き不適度。 |
| 132 | 土師器 | 壺 | 包含層n140 | 埋削 | 内外表面にぶい粉状 (7.0YR7/4) | | 普通 | 口縁部に黒子、 底付部ナラミガキ | 口縁部に黒子、 底付部ナラミガキ | 1mmの砂粒及び赤褐色 沙粒を含み、 底付を含む。 | 小破片、 直存高さ4.3cm、 燒き不適度。 |
| 133 | 陶器 | 壺 | 包含層n220 | 埋削 | 黃褐色 (2.5Y5/1) | 灰白色 (2.5Y7/1) | 普通 | 口縁部ナラミ | 口縁部ナラミ | 1mmの砂粒を含む。 | 小破片、 直存高さ3.6cm、 燒き不適度。 ロクロ回転方向左。 |
| 134 | 陶質土器 | 壺 | 包含層n479 | 埋削 | 灰褐色 (7.5YR5/3) | 灰褐色 (7.5YR5/3) | 普通 | 口縁部から底付部中央附近まで ナラミガキ、底付部 底付部ナラミガキ | 口縁部ナラミ後部に ナラミガキ | 0.5-1mmの砂粒及び赤 褐色沙粒、カケン石、 當得を含む。 | 小破片、 直存高さ4.25cm、 燒き不適度。 |
| 135 | 土師器 | 壺 | 包含層n119 | 埋削 | 灰褐色 (10YR7/3) | 黃褐色 (10YR8/3) | 普通 | ヨコナラミ | ヨコナラミ | 1-2mmの砂粒及び赤 褐色沙粒、カケン石、 當得を含む。 | 口縫の一部を欠損。 直存高さ2.8cm、 底付3.9cm、直存高さ1.9cm |
| 136 | 土師器 | 壺 | 包含層n106 39号穴 住居跡上層 | 埋削 | 灰褐色 (10YR5/3) | 灰褐色 (7.5YR7/4) | 普通 | ヨコナラミ 底付部附近底付 | ヨコナラミ | 1-2mmの砂粒及び赤 褐色沙粒、カケン石、 當得を含む。 | 小破片、 直存高さ3.3cm、 底付3.1cm、 可視可感。 |
| 137 | 陶器(白磁) | 壺 | 包含層n64 | 埋削 | 胎土スノウホワイト(DN.5) 壁 パーツスノウホワイト(DN.5) | | 胎 | 胎 | 胎 | | 小破片、 直存高さ2.7cm、 燒き不適度。 |
| 138 | 陶器(白磁) | 壺 | 包含層n236 | 埋削 | 胎土スノウホワイト(DN.5) | | 胎 | 胎 | 胎 | | 小破片、 直存高さ2.5cm、 燒き不適度。人有 |
| 139 | 陶器(白磁) | 壺 | 包含層n208 | 埋削 | 胎土スノウホワイト(DN.5) | | 胎 | 胎 | 胎 | | 小破片、 直存高さ2.5cm、 燒き不適度。 |
| 140 | 陶器 | 壺 | 包含層n408 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (2.5Y5/2) | | 普通 | ヨコナラミ | ヨコナラミ | 0.5mmの砂粒を含む。 | 小破片、 直存高さ2.8cm、 燒き不適度。 ロクロ回転方向不規 |
| 141 | 陶器 | 不明 | 包含層n375 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (2.5Y5/1) | | 不良 | 口縁部・底付部中央下部に ナラミガキ、底付部 底付部ナラミガキにナラミ 底付部底付部ナラミガキ | 口縫部ナラミ後部ナラミ後 部にナラミ、 底付部底付部ナラミガキ | 0.5-1mmの砂粒及び赤 褐色沙粒、カケン石、 當得を含む。 | 小破片、 直存高さ4.8cm、 燒き不適度。 ロクロ回転方向不規 |
| 142 | 陶器(白磁) | 壺 | 包含層n196 | 埋削 | 胎土:オイスター-GV9.5/1.0 | | 胎 | 胎 | 胎 | | 小破片、 直存高さ2.4cm、 燒き不適度。 |
| 143 | 陶器(白磁) | 壺 | 包含層n263 | 埋削 | 胎土:オイスター-GV7.0/1.0 | | 胎 | 胎 | 胎 | | 小破片、 直存高さ3.5cm、 燒き不適度。 |
| 144 | 陶器 | 壺 | 包含層 | 埋削 | 灰褐色 (7.5Y6/1) | 灰褐色 (7.5Y4/1) | 普通 | ヨコナラミ、自然無着者 | ヨコナラミ | 1-2mmの砂粒を含む。 | 小破片、 直存高さ1.9cm、 ロクロ回転。 |
| 145 | 土師器 | 新つまみ器 | 包含層n331 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (2.5Y5/3) 赤褐色 (2.5Y6/8) | | 普通 | ヨコナラミ、赤ヨコナラミ | ナラミ、 赤ヨコナラミ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色沙粒を含む。 | つまみの工程、 直存高さ3.6cm、 直存高さ1.5cm |
| 146 | 陶器 | 壺 | 包含層n464 | 埋削 | 灰褐色 (10YR3/1) | 灰褐色 (10Y4/1) | 普通 | 口縫部ナラミ、底付部、 底付部ナラミ | 口縫部から底付部中央 ナラミ、 底付部ナラミ | 0.2-2mmの砂粒を含む。 | 小破片、 直存高さ1.5cm、 燒き不適度。 ロクロ回転不規 |
| 147 | 陶器 | 壺 | 包含層n134 | 埋削 | 灰褐色 (7Y4/1) | 灰褐色 (7Y5/1) | 普通 | 上部のみナラミ、赤ヨコナラミ、 自然無着者 | ヨコナラミ、 底付部ナラミ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 小破片、 直存高さ1.65cm、 燒き不適度。 ロクロ回転不規 |
| 148 | 土師器 | 壺 | 包含層n205、 206,209 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (10YR8/4) | | 普通 | つまみ上部ヨコナラミ、赤ヨコナラミ、 赤褐色 (2.5Y6/8) | 口縫部から底付部にかけて ナラミ、 底付部ナラミ | 0.5-2mmの砂粒、 赤褐色沙粒、 當得を含む。 | 1/3存存、 直元上層16.7cm、 直存高さ1.7cm |
| 149 | 土師器 | 壺 | 包含層n51 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (10YR8/3) | | 普通 | ヨコナラミ、一部ケツリ後ナラミ | ヨコナラミ、一部ケツリ後ナラミ | 0.2-2mmの砂粒。 | 1/4存存、 直元上層17.8cm、 直存高さ2.6cm |
| 150 | 陶器 | 壺 | 包含層n365、 366-1号 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (10YR8/1) | | 良 | ヨコナラミ、一部ケツリ後ナラミ | ヨコナラミ、一部ケツリ後ナラミ | 0.5-2mmの砂粒を含む。 | 1/6存存、 直元上層19.9cm、 直存高さ1.75cm |
| 151 | 陶器 | 壺 | 包含層 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (7.5Y5/1) | | 良 | ヨコナラミ、上部ケツリ後ナラミ、 自然無着者 | ヨコナラミ、一部ナラミ | 1-2mmの砂粒を含む。 | 1/4存存、 直元上層13.4cm、 直存高さ2.1cm |
| 152 | 土師器 | 壺 | 包含層n474、 478,480 | 埋削 | 淡褐色 (7.5Y8/4) -褐色 (7.5Y7/4) | にい褐色 (7.5YR4/4) | 良 | 口縫部強烈、口縫部の内側 底付部ナラミ、底付部 底付部ナラミ | 口縫部強烈、口縫部の内側 底付部ナラミ、底付部 底付部ナラミ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色沙粒を含む。 | 底付部強烈、 直存高さ15.4cm、 直存高さ5.8cm |
| 153 | 土師器 | 壺 | 包含層n60 | 埋削 | 淡褐色 (7.5Y8/4) -褐色 (7.5Y7/4) | にい褐色 (7.5YR4/4) | 良 | 上部強烈、全体強烈、 底付部ナラミ、底付部 底付部ナラミ | 底付部強烈、 底付部ナラミ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色沙粒を含む。 | 底付部強烈、 直存高さ15.4cm、 直存高さ5.8cm |
| 154 | 土師器 | 壺 | 包含層n214 | 埋削 | 内外表面灰褐色 (7.5Y8/4) | | 普通 | 上部強烈、全体強烈、 底付部ナラミ、底付部 底付部ナラミ | ヨコナラミ後ナラミ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色沙粒、 カケン石を含む。 | 1/4存存、 直元上層15.4cm、 直存高さ5.9cm |

第10表

Ⅶ層出土遺物観察一覧表(8)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 | |
|-----|----|------|----------------|-----------|---|--------------------------------------|----|---|---|--|---|--------------|
| 155 | 土器 | 不明 | 包含物n107 | Ⅶ層 | 内外表面にぶい橙色(7.5YR4/4) | | 普通 | 現存体部H板ナ子、 赤茶、 底座へクサ形後ナ子 | 現存体部H板ナ子、 赤茶、 底座へクサ形後ナ子 | 0.5-1mmの砂粒、赤褐色 の泥P、豆甃を含む。 5mm程度の小石を含む。 | 底面1/4底存、 裏面1/2底存、 側面器高2.35cm | |
| 156 | 土器 | 高火候鉢 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | 内外表面、灰色(GY6/1-5Y5/1) | | 良 | 現存体部ナ子、自然焼着部、 全面に灰ナ子、保存状態 は良好な底座本、自然焼着 | 現存体部ナ子、 自然焼着部、 全面に灰ナ子、保存状態 は良好な底座本、自然焼着 | 0.5mm前後の砂粒を含む | 底面1/2底存、 下底1/2底存、 側面器高8.8cm | |
| 157 | 土器 | 壺 | 包含物n339 | Ⅶ層 | 内外表面、オリーブ灰褐色(2.5GY6/1) | | 良 | 現存ナ子、底面後ナ子、 全面に灰ナ子、保存状態 は良好な底座本、自然焼着 | 現存ナ子、底面後ナ子、 全面に灰ナ子、保存状態 は良好な底座本、自然焼着 | 0.1-1mmの砂粒、赤褐色 の泥P、豆甃を含む。 ガラス質の砂を含む。 | 側面1/2底存、 底面1/4底存、 裏面1/2底存11.5cm、 側面器高3.45cm | |
| 158 | 土器 | 壺 | 包含物n148 | Ⅶ層 | 海灰色(10YR4/1) | 米黃褐色(10YR6/2) | 普通 | くびれから下部欠損部 まで白粘土子、 全面に灰ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子 | くびれから下部欠損部 まで白粘土子、 全面に灰ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子 | 0.5-1mmの砂粒を含む、 豆甃を含む。 | 底面1/2底存、 裏面1/2底存12.3cm、 側面器高4.5cm、 口部斜面下方剥落 | |
| 159 | 土器 | 壺 | 包含物n475 | Ⅶ層 | 内外表面、灰色(7.5Y5/1)-GY5/1) | | 良 | 現存ナ子、底面無釉耐熱 耐酸性材 | 現存ナ子 | 0.5-1mmの砂粒、少部分 に白色の砂を含む。 | 底面1/2底存、 裏面1/2底存11.5cm、 側面器高5.75cm | |
| 160 | 土器 | 壺 | 包含物n416 | Ⅶ層 | 内外表面、灰色(7.5YR4/1) -にぶい橙色(5YR6/4) | | 普通 | 口縁部強化、 くびれまで白粘土子、 全面に灰ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子、 以下断面修復の為剥離不規 | 口縁部ヨコナ子、 底部へクサ形後ナ子、 現存体部半壁付材 | 口縁部ヨコナ子、 事部上カニ子、 底部ヨコナ子、 全面へクサ形後ナ子、 以下断面修復の為剥離不規 | 1-3mmの砂粒、 カッセン石を含む。 | 底片、残存器89.2cm |
| 161 | 土器 | 壺 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | 正黄色(7.5YR3/1) | 米黃褐色(7.5YR8/2) 深褐色灰褐色(7.5YR5/2) | 普通 | 口縁部ヨコナ子、 底部へクサ形後ナ子、 現存体部半壁付材 | 口縁部ヨコナ子、 底部へクサ形後ナ子、 現存体部半壁付材 | 0.5-2mmの砂粒を含む、 豆甃を含む。 | 底片、残存器87.1cm | |
| 162 | 土器 | 壺 | 包含物n117 | Ⅶ層 | にぶい橙色 (7.5Y6/4) -にぶい橙色 (10YR6/3) | 米黃褐色(10YR4/2) -にぶい橙色 (10YR6/3) | 普通 | 口縁部ヨコナ子、耐焼着、 以降火照部までハナ後 ナ子 | 口縁部ハケメ後ナ子、 体部上ラミアリ後ナ子、 底部後有 | 0.2-3mmの砂粒、 カッセン石を含む。 | 底片、残存器4.95cm | |
| 163 | 土器 | 圓底壺 | 包含物n193 | Ⅶ層 | 内外表面、灰色(7.5YR6/4) | | 普通 | ナ子、 底にハケメが見られる | ハラケズリ | 1-3mmの砂粒、 赤褐色砂を含む。 | 把手のみ、 底片のみ | |
| 164 | 土器 | 圓底壺 | 包含物n164 | Ⅶ層 | 内外表面、赤褐色(2.5YR5/6) | | 普通 | ナ子、赤器 | ナ子、赤器 | 1-2mmの砂粒、 カッセン石を含む。 | 把手のみ、 底片のみ、 蓋を欠 | |
| 165 | 土器 | 圓底壺 | 包含物n615 | Ⅶ層 | 米黃褐色(5YR5/6) | 米黃褐色(5YR5/6) | 普通 | 摩訶の為調整不規 | ハラケズリ | 1-2mmの砂粒、 赤褐色砂、 黄土、 カッセン石を含む。 | 把手のみ、 丸皿底を欠 | |
| 166 | 土器 | 圓底壺 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | 淡黃褐色 (7.5YR8/6) | にぶい黃褐色 (10YR6/3) | 普通 | ナ子 | ハラケズリ | 1-3mmの砂粒、 カッセン石を含む。 | 把手のみ、 丸皿底を欠 | |
| 167 | 土器 | 圓底壺 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | にぶい黃褐色 (10YR6/4) | 明赤褐色(2.5YR5/2) | 普通 | ナ子、耐焼着、赤器 | 削り | 0.2-1mmの砂粒、 豆甃を含む、 カッセン石を含む。 | 把手部のみ残存 | |
| 168 | 土器 | 燒瓶 | 包含物 | Ⅶ層 | 内外表面、灰色(7.5YR7/6) | | 良 | 口縁部後ナ子、把手部 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 に把手を削った把手ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子 | 現存ナ子、 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 に把手を削った把手ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子 | 1-2mmの砂粒を含む、 赤褐色砂を含む。 | 口縫は一端、 底面1/4底存、 裏面1/2底存、 側面器高2.35cm | |
| 169 | 土器 | 燒瓶 | 包含物n510 -1番 | Ⅶ層 | 内外表面、米黃褐色(7.5YR8/4) | | 良 | 現存表面底部から把手部 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 に把手を削った把手ナ子、 下部底座部はカニ目後ナ子 | ハラケズリ | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂、 カッセン石を含む。 | 1/3底存、 裏面1/2底存22.8cm、 裏面底部1/2底存として は圓錐形がやや大きくな り、把手部のみあまりほ うりで手が伸びて握 りと感じられる。 | |
| 170 | 土器 | 鉢 | 包含物n43 -1番 | Ⅶ層 | にぶい黃褐色 (10YR6/3) | にぶい黃褐色 (7.5YR6/4) | 普通 | 口縫部後ナ子、把手部 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 に把手を削った把手ナ子、 全面に焼着部 | 口縫部後ナ子、把手部 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 に把手を削った把手ナ子、 全面に焼着部 | 0.2-2mmの砂粒及び 赤褐色砂、 カッセン石、 豆甃を含む。 | 1/4底存、 裏面1/2底存25.9cm、 裏面底部1/2底存 | |
| 171 | 土器 | 鉢 | 包含物n46 -1番 | Ⅶ層 | にぶい黃褐色 (10YR7/4) | 暗色(7.5YR7/1) | 普通 | 口縫部から底面下部まで 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 全面に焼着部 | 口縫部から底面下部まで 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 全面に焼着部 | 0.2-2mmの砂粒及び 赤褐色砂、 カッセン石を含む。 | 1/4底存、 裏面1/2底存10.4cm、 裏面底部1/2底存、 側面器高7.45cm | |
| 172 | 容器 | 大甕 | 包含物n9 | Ⅶ層 | 米黃褐色(7.5YR4/1) | 米黃褐色(7.5YR5/1) | 良 | 中にタタキなし、 底部ノリタタキ(赤子)1個 全面に自然焼着部 | 中にノリタタキ(赤子)1個 底部ノリタタキ(赤子)1個 全面に自然焼着部 | 0.5-2mmの砂粒を含む。 | 底片、 底片上等不確定 | |
| 173 | 土器 | 大甕 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | 米黃褐色(7.5YR6/1) | 米黃褐色(7.5YR5/1) | 良 | 平行文タタキ後ヨコカキ後 | 同ナ子、 中にノリタタキ(赤子)1個 全面に自然焼着部 | 0.5-2mmの砂粒を少額 含む。 | 底片、 底片上等不確定 | |
| 174 | 土器 | 环 | 包含物 | Ⅶ層 -1番 | 内外表面、米黃褐色(5YR8/4) | | 良 | 口縫部から底面下部まで 焼成タタキ(赤子)1個 ナ子、把手ナ子(赤子)1個 全面に焼着部 | 同ナ子、 中にノリタタキ(赤子)1個 全面に自然焼着部 | 1-2mmの砂粒及び 赤褐色砂を含む。 | 底片、 底片高8.8cm、 底片底部8.5cm、 底片側面8.45cm、 底片高8.45cm | |

第11表 壁層及び攪乱層出土遺物観察一覧表（9）

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|-----|------|--------|---------------------|----------|---|-----------------|----------------------|--|---|--|---|
| 175 | 土師器 | 外 | 包含層 | 壁層 一括 | 内外面共に、ぶい-褐色(SYR7/4) | | 普通 | 口縁部から底部下部にかけて輪郭線、 口縁部付近よく模様有り。 底部底部底部切り落しの子子調 整が部分的な底部上部出張 りが見る。底部底部 | 口縫ナナ子、 口縁部付近よく模様有り。 | 1mm程の砂粒含む。 | 1/3段有り、 底部底部底部9.9m、 底部底部底部6.4m、 底部底部底部8.2m |
| 176 | 土師器 | 裏山罐(加) | 包含層 | 壁層 一括 | 内外面共に、ぶい-褐色(10YR7/3) | | 普通 | 口縁部底部の輪郭線不明。 口縁部ヨコナナ子、底部底部の輪 郭線不明。 | 口縁部底部の輪郭線不明、 底部ヘラケナナ子 | 底部底部底部7.3m | |
| 177 | 瓦器器 | 瓦 | 包含層 | 壁層 一括 | 新原色2.5Y5/2 新原色オーバー陶 色(5Y4/1) | 底部底部2.5Y4/1 | 普通 | 口縫ナナ子、自然な | ナナ子 | 0.5mm程の砂粒を含む。 | 小片、底部底部底部3.7m、 底部底部底部6.6m、 口縫ナナ子 |
| 178 | 男生土器 | 甕 | 包含層n551 | 壁層 | 外縁から口縫内縫 新原色2.5Y5/2-4 新原色(5Y4/5) | にぶい-褐色(10YR7/4) | 良 | 口縫部から底部中央ま でヨコナナ子。 底部中央から火照部までハ 底部後ヨコナナ子 | 口縫部ヨコナナ子、 底部ナナ子 | 1-2mmの砂粒、底部、 カクセソ石を含む。 | 1/3段有り、 底部底部底部32.4m、 底部底部底部6.55m |
| 179 | 男生土器 | 身 | 包含層n150, 160,376 | 壁層 | 内外面共に、ぶい-褐色(10YR6/3) | | 普通 | 口縫部ヨコナナ子、 底部ハナナ子、 底部ナナ子、底部中央から 底部にかけて黒斑有り | 口縫部ヨコナナ子、 底部ナナ子 | 0.5-2mmの砂粒、底部、 カクセソ石を含む。 | 壁、底部底部底部1/2以上1/4 底部底部底部17.6m、底 部底部底部5.5-6.4m、底 部底部底部10.1m、底部底部底部8.1m、 底部底部底部6.55m |
| 180 | 男生土器 | 甕 | 包含層 | 壁層 一括 | 褐色(7.5YR7/6) -GYR7/8) | 褐色(SYR7/8) | 普通 | 口縫部ヨコナナ子、底部上部ハナナ 底部ヨコナナ子、底部中央から火照部 から火照部までハナナ子 | 口縫部ハナナ子、底部、 カクセソ石を含む。 | 壁、底部底部底部8.1m | |
| 181 | 土師器 | 器 | 包含層n447 | 壁層 | にぶい-褐色(10YR6/4) | にぶい-褐色(10YR6/3) | 普通 | ヨコナナ子 | ヨコナナ子 | 0.5-2mmの砂粒、底部、 カクセソ石を含む。 | 1/3段有り底部底部30.5m、 底部底部底部4.3m |
| 182 | 漆器器 | 平瓶 | 包含層n209, 351,352 | 壁層 | 灰黑色(SYR4/2) | 赤褐色(SY4/8) | 良 | 漆器器ヨコナナ子、 漆器器中央付近ハナナ子後 ナナ子、 漆器器中央付近ヨコナナ子、 漆器器底付近ヨコナナ子、 漆器器ナナ子 | 漆器器ヨコナナ子、 漆器器前ヨコナナ子、 漆器器底ヨコナナ子、 漆器器ナナ子 | 0.5-2mmの砂粒、 底部底部底部17.5cm、 底部底部底部8.1cm | 底部底部底部17.5cm、 底部底部底部8.1cmは断面が切 た部分の一部から含む せで門柱底部の漆器器と によって規定底部を行 っている。又漆器器つ いては底部底部(特に)にき きが付いているので 底部底部上部の底部に あり、上部は規定底部 をついている。 |
| 183 | 漆器器 | 壺 | 包含層 | 壁層 | 灰白色(10Y6/1) | 米白色(7.5Y7/1) | 良 | 漆器器中央付近ヨコナナ子大 きな火照部付近ヨコナナ子、 漆器器火照部付近ヨコナナ子、 漆器器火照部付近ヨコナナ子 | ヨコナナ子 | 0.5mm程の砂粒と2-3mm の大きなガラス質の砂 粒を含む。 | 手造り上2.23段有り、 底部底部底部16.5cm、 底部底部底部9.7cm |
| 236 | 漆器器 | 壺 | 壁層n508 | 壁層 | 灰白色(9R6/8) | 米白色(2.5GY8/1) | 普通 | ヨコナナ子、 厚底のため調整不良 | 漆器器ナナ子、 天井付近ヨコナナ子、 底部ナナ子 | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 口縫部ヨコナナ子、 天井付近ヨコナナ子、 底部ナナ子 |
| 184 | 土師器 | 外 | 不明上端火照 | 焼瓦 | 灰白色(10YR6/2) -灰黄色 (10YR6/2) | 米白色(10YR7/1) | 普通 | 口縫ナナ子、 底部底部底部短縮、 口縫部底部付近ヨコナナ子、 底部中央部に黒斑有り | 口縫ナナ子 | 1mm程の砂粒を含む。 | 口縫部5.5-6.4m/1段有り、 底部底部底部10.0m、 底部底部底部8.25m、 口縫ナナ子 |
| 185 | 土師器 | 外 | | 燒瓦 | 内外面共に、ぶい-褐色(7.5YR7/4) | | 普通 | ヨコナナ子、 底部底部付近ヨコナナ子 | ヨコナナ子 | 1mm程の砂粒、 底部底部底部を含む。 | 口縫部1段/1段有り |
| 186 | 漆器器 | 外 | | 燒瓦 | 内外面共、灰色(7.5YR6/1) | | 良 | ヨコナナ子、 底部中央付近ヨコナナ子 | ヨコナナ子、 底部底部ナナ子 | 底部底部を含む。 | 底部の一部、 底部底部底部4.8m以上 の一部を含む、 底部底部底部9.9m、 底部底部底部6.37m |
| 187 | 白磁 | 碗 | F-(1) | 壺瓦 | 釉上:白-ホワイト(D8.5) | | 良 | 無地、底部底部底部有り、底部 付近ヨコナナ子、底部底部底部 | 無地 | 無地 | 1/3段有り、 底部底部底部4.6m、 底部底部底部3.8m、 底部底部底部4.65m |
| 188 | 白磁 | 碗 | | 燒瓦 | 釉上クリームイエロー-(2Y9.0/6.0) 釉:オイスター-G7.5/1.0 底部底部GPF8.0/5.0 | | ケツナ子、底部底部底部有り、 底部 | 燒瓦 | 燒瓦 | 1/3段有り、 底部底部底部4.6m、 底部底部底部2.2m、 底部底部底部6.65m | |
| 189 | 染付 | 碗 | G-3 | 燒瓦 | 釉上:白-オイスター-(5Y7.5/1.0) 釉:シリーホワイト(D9.0/5.0) 底部底部GPF8.0/5.0 | | 無地染付 | 無地染付 | 無地染付 | 底部、 底部底部底部不確定 | |
| 190 | 染付 | 不規 | A-B-3-4 | 燒瓦 | 釉上:白-オイスター-(5Y7.5/1.0) 釉:シリーホワイト(D9.0/5.0) 底部底部GPF8.0/5.0 | | 無地染付 | 無地染付 | 無地染付 | 底部、 底部底部底部不確定 | |
| 191 | 土師器 | 外 | G-2 | 燒瓦 | にぶい-褐色(SYR7/4) | | 普通 | 口縫部から底部下部までヨ コナナ子、底部底部底部ヨコナナ 子ナナ子、底部底部底部ヨコナナ 子ナナ子 | ヨコナナ子、 口縫部から底部にかけて ヨコナナ子 | | |

第12表

出土遺物観察一覧表(10)

| No | 種類 | 器種 | 出土位置 | 層 | 色調(外面) | 色調(内面) | 焼成 | 調整(外) | 調整(内) | 胎土 | 備考 |
|-----|------|-----|---------|----|---|---------------------|--|---|---|--|------------------------------------|
| 192 | 土器 | 环 | F-1 | 鹿丸 | にぶい褐色 (7.5YR7/4) -にぶい褐色 (7.5YR6/3) | にぶい褐色 (7.5YR6/4) | 普通 | 口縁部付近ナデ,加熱, 模様有,赤褐色から下部 剥離ナデ有ナデ, 底部ロコロコ状剥離有 | 回転ナデ,村着物有, 底部中央剥離有ナデ 底部中央剥離ナデ後 ナデ | 1-2mmの砂粒, 赤褐色砂を含む。 | 2/3残存,1188.0cm, 現存5.8cm,高さ13cm |
| 193 | 土器 | 环 | 不明土壤束側 | 鹿丸 | 内外表面,褐色(2.5YR6/6) -にぶい褐色(GYR7/4) | 普通 | 口縁部付近ナデ,底部少 量剥離ナデ,下部ロコロコナデ, 底部端部剥離有ナデ調査 試みたところ剥離有ナデ 底部端部剥離部分にナデ, ロコロコ状剥離有ナデ | 回転ナデ, 底部中央ナデ | 1-2mmの砂粒, 赤褐色砂を含む。 | 1/4残存, 現存117.3cm, 現存4.7cm, 高さ2.1cm | |
| 194 | 粘土鋤器 | 轆外 | F-1 | 鹿丸 | 内外表面,にぶい褐色(7.5YR5/3) | 普通 | 口縁部付近ナデ,底部少 量剥離ナデ,下部ロコロコナデ, 底部端部剥離有ナデ, 底部端部でロコロコナデ | 回転ナデ後ラミガキ | 0.5-1mmの砂粒及び 赤褐色砂有, 凹凸有 | 小鉢井, 現存高さ2.0cm, 底辺不規則 | |
| 195 | 土器 | 环 | | 鹿丸 | 内外表面,浅褐色(7.5YR6/6) | 普通 | 上文部端部剥離ナデ, 底部下部ナデ, 底部へラクナ有ナデ, 工具痕有 | 回転ナデ | 0.5-1mmの砂粒及び 赤褐色砂有, 凹凸有 | 1/6残存, 現存122.9cm, 現存88.2cm | |
| 196 | 直土器 | 大鉢 | A-B-3-4 | 鹿丸 | 内外表面,にぶい褐色(GYR6/6) | 良 | 口縁部ヨコナデ, 底部端部剥離有ナデ,底部 端部までロコロコナデ,底部 端部までヨコナデ | 矢文文書端部近まで3 コナデ有ナデ, 凹凸ナデ | 0.5-1mmの砂粒及び 赤褐色砂を含む。 | 直井,現存高さ6.6cm | |
| 197 | 直土器 | 盤 | H-3 | 鹿丸 | 内外表面,黄褐色(2.5YR5/1) | 普通 | 口縁部上方剥離ナデ,以降少 量剥離ナデまでロコロコナデ | 矢文文書端部近まで3 コナデ有ナデ, 底部中央ナデ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 1/6残存, 現存113.3cm, 現存高さ4.5cm, ロコロコ方向不定 | |
| 198 | 直土器 | 粗り鉢 | A | 鹿丸 | 内外表面,白色(10YR8/2) | 普通 | ナデ, 底部端部有, 底部有 | ナデ, 底部分別的而織り 漏れ,凹凸有, 体部中央有端部有, 現存全面に粗り目 | 1-2mmの砂粒を含む。 | 1/6残存, 現存113.3cm, 現存高さ6.3cm, | |
| 199 | 直土器 | 粗り鉢 | G-2 | 鹿丸 | 内外表面,白色(2.5YR2/1) | 良 | 口縁部付近ヨコナデ, 以降剥離有ナデまでナデ | 口縁部付近ヨコナデ, 以降剥離有ナデまでナデ, 粗り目 | 2-3mmの砂粒を含む。 | 直井,現存高さ5.5cm | |
| 200 | 直土器 | 粗り鉢 | | 鹿丸 | にぶい褐色 (7.5YR6/3) | にぶい褐色 (7.5YR6/3) | 普通 | 口縁部付近ナデナデ, 以降剥離有ナデまでナデ | 口縁部付近ナデナデ, 以降剥離有ナデまでナデ 凹凸ナデ, 底部端部剥離有 | 0.5-2mmの砂粒を含む。 | 小鉢井, 現存高さ6.5cm, 底辺不規則 |
| 201 | 直土器 | 粗り鉢 | | 鹿丸 | 内外表面,にぶい褐色(10YR8/3) | 普通 | 縦引き文様, 底部ナデ | 回転ナデ後ナデ | 1mmの砂粒を含む。 | 小鉢井,現存高さ5.8cm, 内外表面凹凸有 | |
| 202 | 直土器 | 粗り鉢 | | 鹿丸 | 内外表面,灰褐色(GYR5/1) | 普通 | 口縁部付近ナデ,現存 底部中央から欠損部まで ケズリ幾ナデ | ナデ,粗り目 | 0.5-1mmの砂粒と凹凸 カクセン石を含む。 | 直井,現存高さ4.7cm | |
| 203 | 直土器 | 粗り鉢 | | 鹿丸 | 内外表面,灰色(7.5YR6/1) | 良 | ナデ, | 粗り目,縦引き | 1mmの砂粒を含む。 | 直井,底辺等不規則 | |
| 204 | 細部器 | 火壺 | | 鹿丸 | 内外表面,灰褐色(10Y4/1) | 良 | 平行文タキナデナデ, 底部剥離有 | 平行文タキナデナデ 凹凸ナデ | 0.5-1mmの砂粒を含む。 | 直井,底辺等不規則 | |
| 205 | 土器 | 环 | | 鹿丸 | 1.5Y4褐色 (7.5YR6/3-5/3) | 深褐色(7.5YR3/1) | 普通 | 底部端部上方剥離ナデ, 下工ナデナデ, 底部ロコロコ状剥離,共切り, 一部剥離有ナデ,底部有 定ひびき,底部有 | 回転ナデ, 底部中央有ナデ, 底部有 | 1mmの砂粒, 赤褐色砂を含む。 | 底部から底辺下半程 現存7.5cm, 現存高さ1.8cm |
| 206 | 細部器 | 环 | | 鹿丸 | 1.5Y5褐色 (7.5YR6/1) | 米色(10Y6/1) | 良 | 底部端部剥離有ナデまで回転ナデ, 底部ロコロコナデ, 底部へラクナ有ナデ。 -ヨコナデナデ | 欠損部端部剥離ナデ, 底部端部まで回転ナデ 後ナデ | 0.5mmの砂粒を含む。 | 1/2残存, 現存高さ2.5cm |
| 207 | 梁材 | 角 | | 鹿丸 | 粘土アイゼーハークワイト(GYR9.0/1.0) -セーリー赤ワイト(GYR9.0/1.0) 朱仕地色(GYR2.0/5.5) | | 無 | 無 | 無 | 精砂粒 | 1/8残存, 現存119.9cm, 現存高さ4.9cm |

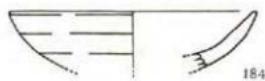
第13表 IX層面出土遺物観察一覧表（鉄器2）

| No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 | No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 |
|-----|----|-------|----------|---|----|----|-----|----|-----------------------|----------------|---|------|----|
| 231 | 馬具 | D-1・2 | Ⅳ層 一括 | 長さ 幅 厚み 3.00cm(横) 3.50cm(横) 0.40cm | | | 232 | 馬具 | 4号壁穴 住居跡 (IX層面) | Ⅳ土 下層 一括 | 長さ 幅 厚み 2.70cm 1.05cm 0.25cm | 断面角形 | 完形 |

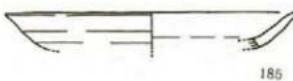
第14表 IX層面出土遺物観察一覧表（石器）

| No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 | No | 種類 | 出土位置 | 層 | 法量 | 特徴 | 備考 |
|-----|----|--------------|----------|--|--|--------------------------|----|----|------|---|----|----|----|
| 233 | 石鏃 | 包含層 No.41 | Ⅳ層 | 全長 全幅 厚み 2.50cm 1.70cm 0.30cm | 片側鋸歯先端部を 欠く、二等辺三角 形で後端が丸く なって内湾状構造 となり先端を強く尖 らす | 調査中の1点 のみ出土 石材 黒曜石 | | | | | | | |
| 234 | 石斧 | | V層 下層 | 全長 全幅 厚み 重量 7.20cm 4.05cm 1.20cm 208g | 基部欠損 鋸歯痕有 | 石材 欽文石 | | | | | | | |
| 235 | 磨石 | | V層 一括 | 全長 全幅 厚み 重量 9.80cm 7.60cm 3.30cm 208g | 両面とも磨られてい るが、表面に凹凸に 押出されるものと 凹凸が認められる。 上面面に凹がある。磨 った痕跡がある。 (使いは鑿打痕跡) | 石材 砂岩 | | | | | | | |

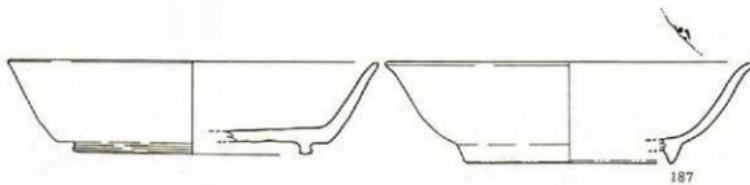
第5節 撹乱層からの遺物



184



185

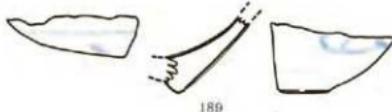


187

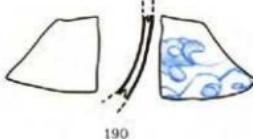
0 5 10cm



188



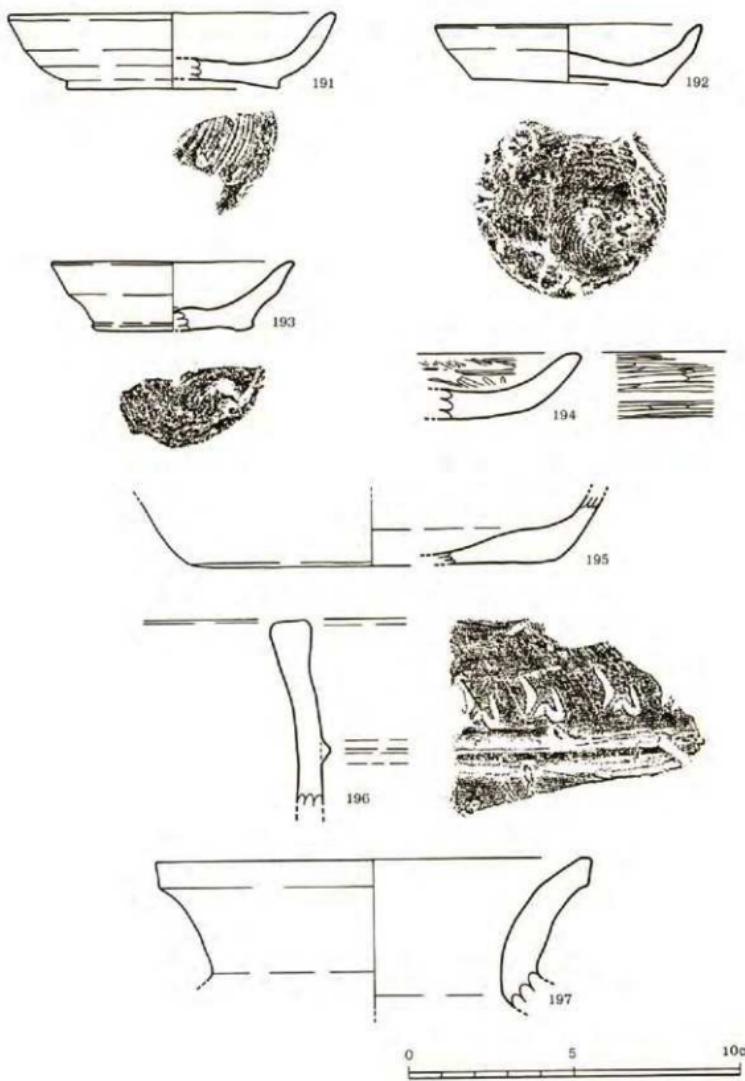
189



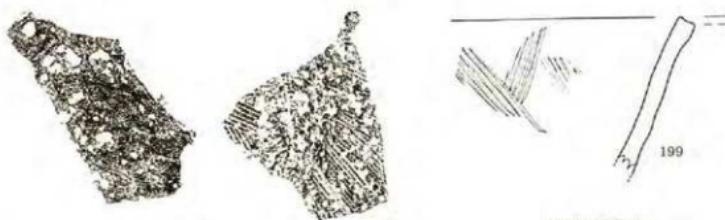
190

0 5cm

第64図 撹乱層からの遺物実測図（1）

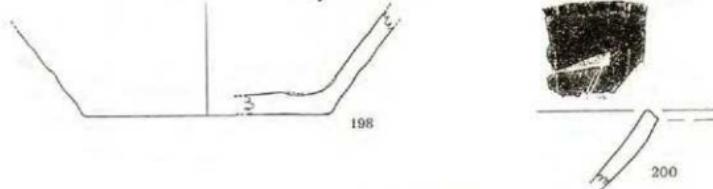


第65図 摂乱層からの遺物実測図（2）

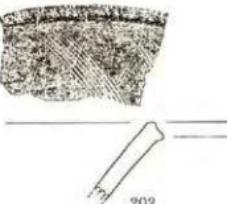


198

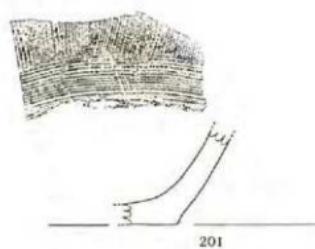
199



200



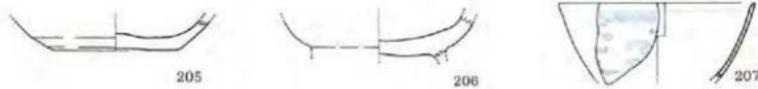
202



201



204



205

206

207

0 5 10cm

第66図 摂乱層からの遺物実測図（3）

第IV章 総括

この発掘調査は、町道内牧線改良工事に伴い、計画路線内にある内牧城及びその下層の調査を行ったものである。今回の調査で検出された遺構は次のとおりである。

基本土層IV層のIV層では整地層、V層面では、整地層に伴うと思われる戦国時代の掘立柱建物群及び土塁群、VI層面では竪穴住居並びに掘立柱建物等の平安時代の集落跡である。

1. IV層整地層について

基本土層のIV層に値する。直上まで擾乱が及んでおり、今回検出したレベルは一部削平されたものであることが窺える。平面的な範囲も擾乱をうけ、消失してしまったのか不明である。今回は調査区南側のみの検出であったが、V層面の遺構の埋土が整地層に類似していること及びV層面が砂質土のため地盤を安定させるために整地を行ったのではないかと推測できる。当初この整地跡は参勤交代道に付随する内牧御茶屋のものと考えられていた。確かに内牧御茶屋に大杉があったことは写真等の記録に残っており、調査区南端部に樹根と思われる擾乱部を確認したが、江戸期の遺物の出土が見られなかったため、V層面の遺構に伴う整地層ではないかと推定できる。

2. V層面の遺構群について

V層面に掘立柱建跡を6棟検出した。柱穴内から建設時期を窺える遺物の出土がないため、時期を明確にはできないが、柱穴の埋土は種類あり、断定はできないが建物群は2時期存在すると思われる。本書では各掘立柱建物を通常プランとして掲載したが、主軸が直交するもの等は複数する建物も存在したのではとも考察できる。6棟の建物には全て礎石及びその痕跡は見られなかった。

検出した土塁群で特に注目すべきは不明土塁である。掘り下げ時に埋土下層には木片や竹片も少量含まれており、他の土塁の埋土にも言えるが中層から下層にかけて、移植ゴテも立たない程の鉄分の沈殿がみられる。この土塁は大型であり、遺物も今回の調査中最も集中して土師器の杯及び陶磁器等が出土している。過去の調査例では墓塚、地下式土塁、地下式倉庫等が考えられるが性格は不明である。

17号土塁は井戸跡の可能性がある。井戸枠等の痕跡はみられなかったが、当時なら十分に水が湧く掘り込みのレベルだと想定できる。外部に土塁に伴うと思われる柱穴が存在しており、土塁本体に何らかの形で関係していたと思われる。この他11号・15号土塁は平行に位置し両者共掘り込みが類似しており、2段掘り内の柱穴状掘り込みの径がほぼ等しいことから、門柱とも推測できる。

不明焼土遺構は断面から溝状になっていることが窺えるが、埋土に多量の焼土、灰、炭が体積している。これはIV層整地層及びV層面の全遺構に焼土が混入しており火災があったことが窺える。遺構と遺物また火災と遺構群について今後検討の余地がある。また、遺構群の配置を見渡すと調査区の南東部に遺構の集中がみられ、本体は阿蘇町児童館跡下部と推定できる。今回検査した遺構群は戦国期の内牧城跡に付随する施設、または本体の一部である可能性が高い。現町立体育館が内牧城二の丸跡であるが、開発時に破壊されており内牧城跡の全貌は不明のままである。また、内牧御茶屋も同じく発掘調査により現在残る絵図をもとに復元を期待したが、結果は擾乱されていた様であり、推定ではあるが台風で倒木したという大杉の跡の確認が、残念ながら調査結果となる。

3. V層出土遺物について

V層面及び遺構から土師器の坏の出土が目立つが、法量等一定の規格性がみられる。まず口径に大きなバラツキはなく、①9cm未満、②10cm未満、③10cm弱のもの、器高も①2cm未満、②2cm以上のものというグループに分けることができる。また形態的にみても底部が、①上げ底、②平底、③平底で断面が厚いものという特徴があり、土壤内からの一括資料としても貴重な遺物を得ることが出来た（第15表）。

陶磁器については、不明土壤から出土した美濃焼の灰釉皿は15~16世紀代のものと推定される。またその他V層面及び遺構から出土している染付の碗は明代の輸入陶器であり、白磁も16世紀代のもので、県内では熊本市二本木遺跡（第6次）、人吉城跡等からも出土している。この様なことから、陶磁器で大まかな年代を探ると戦国期に値し、遺物の混入もみられるがその他の遺物に關しても、ほぼ同時期と思われる。

時間的都合もあり深く煮詰めることができなかつたが、他に出土した瓦質土器と併せて今後遺物の検討を進めたい。

4. IX層面の遺構について

堅穴住居跡は計8棟確認したが、いずれも住居跡どうしの切り合いまたは、擾乱をうけ完全なプランで検出することはできなかつた。また硬化面も確認できずX層並びにXI層をそのまま床面としている。

掘立柱建物跡は、4棟確認したが、特記すべきは6・7号堅穴住居跡及び7号掘立柱建物跡である。6・7号堅穴住居跡の新旧関係は定かではないが、検出した6号堅穴住居跡の一辺が他の堅穴住居跡の約2倍の規模を持ち、7号掘立柱建物跡に切られている。7号掘立柱建物跡も検出した掘立柱建物群の中で柱穴もしっかりとおり、集落跡の中心にあったことが窺える。残念なことに6・7号堅穴住居跡及び7号掘立柱建物跡の南東側を擾乱されており詳細を明らかにすることはできない。しかし、調査区南側の東寄りに柱穴群が集中しており、V層面と同じく調査区外に遺構の展開がみられることであろう。

土壤群の中では4・6号土壤が焼土を伴っている。包含層振り下げの時点で焼土が見えはじめ下部に遺構があることを確信したが、土壤を取り巻く形で焼土が分布しており、土壤下部まで至らず中層から下層の間で無くなつておらず、性格が不明である。

また、4号堅穴住居跡内に弥生式土器を伴う土壤がある。これは包含層中に弥生及び古墳時代の土器が混入していることから遺構の存在もあり得ることであるが、4号堅穴住居跡を調査中、土壤上面の遺物を取り上げた時点では気が付いた。しかし、遺構の埋土に主として弥生時代の遺物が出土したのはこの土壤の一例のみである。

調査区北側に本書では2号溝として扱っている遺構が存在するが、拡張前の調査区では段落ちとなり、北側を擾乱されていたので遺構を把握することができなかつたので、当初は区画溝であると推定した。しかし調査区の拡張に伴い西側を調査したが、振り下げを進めて高さが近接の古川のレベルに近づき、水が湧き底面を検出することができず、北側縁部を確認することもできなかつた。これは旧河川とも考えられるが詳細は不明である。

5. VII層（包含層）出土の遺物について

VII層遺物出土状況は、非常に明確であり下部（IX層面）に遺構が存在する場合にのみ密集して出土する。IX層に遺構が存在しないグリッドには、全くと言っていい程遺物は出土しない。調査区内では堅穴住居跡上

第15表

V層出土土師器(坏)計測表

| No | 掲載番号 | 出土位置 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 特徴 |
|----|------|--------|-------------|------------|--------|------------|
| 1 | 10 | 1号溝跡 | 10.30(復元) | 6.30(復元) | 1.95 | 平底(推) |
| 2 | 13 | 不明焼土遺構 | 8.30(復元) | 4.90 | 2.45 | 平底, 断面厚 |
| 3 | 16 | 不明焼土遺構 | 8.20(復元) | 5.80(復元) | 1.70 | 不明 |
| 4 | 17 | 不明焼土遺構 | 8.30(復元) | 4.90 | 2.45 | 平底, 断面厚 |
| 5 | 18 | 不明焼土遺構 | 8.50 | 4.45 | 1.90 | 平底, 断面厚 |
| 6 | 19 | 不明焼土遺構 | 10.20~10.60 | 6.10~10.60 | 2.50 | 平底 |
| 7 | 20 | 不明焼土遺構 | 10.35 | 3.80 | 2.25 | やや上げ底 |
| 8 | 27 | 不明土壤 | 8.20(復元) | 5.80(復元) | 1.60 | 不明 |
| 9 | 28 | 不明土壤 | 7.70(復元) | 5.20(復元) | 1.70 | 平底(推定) |
| 10 | 29 | 不明土壤 | 10.40(復元) | 7.60(復元) | 2.20 | 不明 |
| 11 | 30 | 不明土壤 | 8.20(復元) | 6.90 | 1.85 | 平底 |
| 12 | 31 | 不明土壤 | 10.30(復元) | 6.45(復元) | 2.50 | 平底 |
| 13 | 32 | 不明土壤 | 8.90(復元) | 5.30(復元) | 2.20 | 不明 |
| 14 | 33 | 不明土壤 | 10.30(復元) | 7.00 | 2.30 | 平底, 断面厚 |
| 15 | 34 | 不明土壤 | 10.00 | 6.15 | 2.30 | 平底, 断面厚 |
| 16 | 35 | 不明土壤 | 11.60 | 7.35 | 2.35 | 平底, 断面厚 |
| 17 | 36 | 不明土壤 | 9.90 | 6.10 | 2.25 | 平底 |
| 18 | 37 | 不明土壤 | 10.10 | 6.20 | 2.15 | 平底 |
| 19 | 38 | 不明土壤 | 8.20(復元) | 5.90(復元) | 1.90 | 平底, 断面厚 |
| 20 | 39 | 不明土壤 | 10.80(復元) | 7.20(復元) | 1.90 | 平底 |
| 21 | 40 | 不明土壤 | 10.20(復元) | 7.80(復元) | 2.20 | 平底(推定) |
| 22 | 41 | 不明土壤 | 9.90(復元) | 5.70(復元) | 2.05 | 上げ底 |
| 23 | 52 | 1号土壤 | 10.40 | 6.80 | 2.10 | 平底 |
| 24 | 53 | 1号土壤 | 9.90(復元) | 7.80(復元) | 1.90 | 平底 |
| 25 | 59 | 17号土壤 | 9.30 | 6.70 | 2.90 | 平底 |
| 26 | 63 | 21号土壤 | 9.30(復元) | 6.00(復元) | 2.40 | 上げ底 |
| 27 | 65 | V層一括 | 8.70(復元) | 6.40(復元) | 1.45 | やや上げ底, 断面厚 |
| 28 | 66 | V層一括 | 9.70(復元) | 6.80(復元) | 2.20 | 不明 |
| 29 | 192 | 攪乱 | 8.00 | 5.80 | 1.90 | やや上げ底, 断面 |
| 30 | 191 | 攪乱 | 9.90(復元) | 6.40(復元) | 2.30 | やや上げ底 |
| 31 | 193 | 攪乱 | 7.30 | 4.90 | 2.10 | 平底, 断面厚 |

面及び調査区南側の柱穴群上面に特に集中していた。全体的に破片及び小破片が多く実測可能なものの本書に掲載した。

出土遺物は6世紀代からはじまり、7世紀前半、7世紀後半から8世紀後半のもの、9世紀代と時期に幅があり、土師器、須恵器、白磁が出土している。鉄器も馬具が1点出土している。

また包含層の中に縄文時代の石鏃、弥生時代と思われる石斧、磨石の石器3点、及び弥生後期と思われる鉢・甕、古墳時代5世紀代の須恵器の壺、横瓶等が混入して出土した。

今回出土した遺構・遺物については今後更に検討を加えて機会をみて考察を行いたい。

主要参考文献一覧

- (1) 江本 直 「熊本県旧石器時代調査報告書」 熊本県教育委員会
- (2) 島津義昭他 「えとのす 22 特集・阿蘇／海と山と里の文化」 新日本教育図書株式会社
- (3) 島津義昭他 「新・阿蘇学」 熊本日日新聞社
- (4) 荒木精之 「阿蘇」 第4回県民文化祭阿蘇実行委員会
- (5) 島津義昭他 「角川日本地名大辞典 43 熊本県」 角川書店
- (6) 清田純一 「陣内遺跡」 阿蘇町教育委員会
- (7) 緒方 勉 「宮山遺跡」 阿蘇町教育委員会
- (8) 熊本大学 「阿蘇町塔ノ木古墳群ドンペ塚／阿蘇町御塚横穴群A・B穴」 熊大考古学研究室
- (9) 島津義昭・高谷和生 「下山西遺跡」 熊本県教育委員会
- (10) 島津義昭 「古坊中」 熊本県教育委員会
- (11) 木崎康弘他 「狩尾遺跡群」 熊本県教育委員会
- (12) 吉田正一 「池田遺跡」 熊本県教育委員会
- (13) 大田幸博他 「熊本県の中世城跡」 熊本県教育委員会
- (14) 岡本貞次他 「熊本県歴史の道調査－豊後街道－」 熊本県教育委員会
- (15) 島津義昭 「史料 阿蘇 第1・2集」 阿蘇町教育委員会
- (16) 今村歳親他 「夜豆志呂～八代の郷土史 72号（冬の号）」
- (17) 西ヶ谷恭弘他 「日本城郭大辞典」 秋田書店
- (18) 北條理幸 「中近世切創ある二頭骨（阿蘇内牧城跡出土）」
- (19) 篠柄慶夫他 「中近世土器の基礎研究VI」 日本中世土器研究会
- (20) 尾上 実他 「中近世土器の基礎研究Ⅶ」 日本中世土器研究会
- (21) 橋本久和他 「中近世土器の基礎研究X」 日本中世土器研究会
- (22) 高木正文 「平原野中遺跡」 熊本県教育委員会
- (23) 田口昭二 「考古学ライブラリー 17 美濃焼」 ニューサイエンス社
- (24) 井上喜久男他 「貿易陶磁研究 No.7」 日本貿易陶磁研究会
- (25) 愛知県陶磁資料館 「企画展 城下町のやきもの－清州・名古屋の出土品」
- (26) 九州陶磁資料館 「国内出土の肥前陶磁」
- (27) 松本健郎 「生産遺跡基本調査報告書Ⅱ」 熊本県教育委員会
- (28) 鶴島俊彦 「人吉城跡」 人吉市教育委員会
- (29) 綱田龍生 「大江遺跡Ⅱ」 熊本市教育委員会

図 版

図版1



旧調査区
V層面全景

南から



整地履断面
及びV層遺構検出状況

北西から



1号溝跡
5, 10号堀立柱建物跡

北から

図版2



東から



東から



西から

図版3

1号土壤

西から



17号土壤

北から



17号土壤

西から



図版4



不明土壤
土層断面

東から



不明土壤

西から



不明土壤

北から

図版5

不明焼土遺構内

24号土壤

土層断面

北東から



不明焼土遺構内

24号土壤

石臼出土状況

東から



不明焼土遺構内

土壤群

北から



図版6



不明焼土遺構
及び24号土壤
土層断面

南東から



不明焼土遺構
全体

東から



作業風景

南から

図版7

旧調査区
VII層（包含層）遺
物出土状況

北から



VII層（包含層）
須恵器出土状況



旧調査区IX面全景

北から



図版8



旧調査区IX
層面全景

南から



仮設道路部
(調査区拡張部)
IX層面全景

北東から



仮設道路部
(調査区拡張部)
IX層面全景

南西から

図版9

1. 4号竪穴住居跡

東から



1号竪穴住居跡内
カマド土壙断面

南西から



4号竪穴住居跡内
土壤上面遺物出土状況

北から



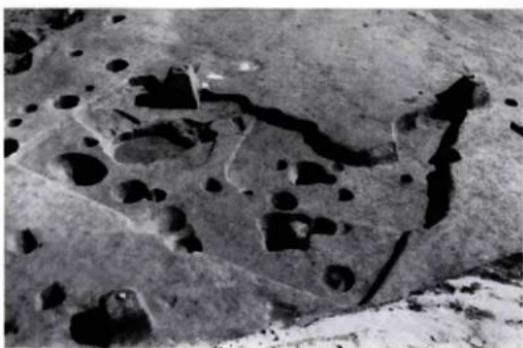
図版10



図版11

6・7号竪穴住居跡

西から



6・7号竪穴住居跡
及び7号壇立柱建物跡

北東から



8号竪穴住居跡

西から



図版12



4号土壤上面

須恵器

出土状況

西から



4号土壤上面

須恵器

出土状況

南から



4号土壤棲出状況

南東から

図版13

4号土壤

南から



6号土壤露出状況

南から



6号土壤

南から



図版14



IB調査区
2号溝跡

東から



作業風景



仮設道路部
(調査区拡張部)
2号溝跡土層断面

北東から

図版15

仮設道路部
(調査区拡張部)
2号溝跡近景
南東から



仮設道路部
(調査区拡張部)
2号溝跡近景
東から



作業風景



図版16 V層面瓦質土器（擦り鉢他）



図版17 V層面土師器（坏類）下段 開磁器



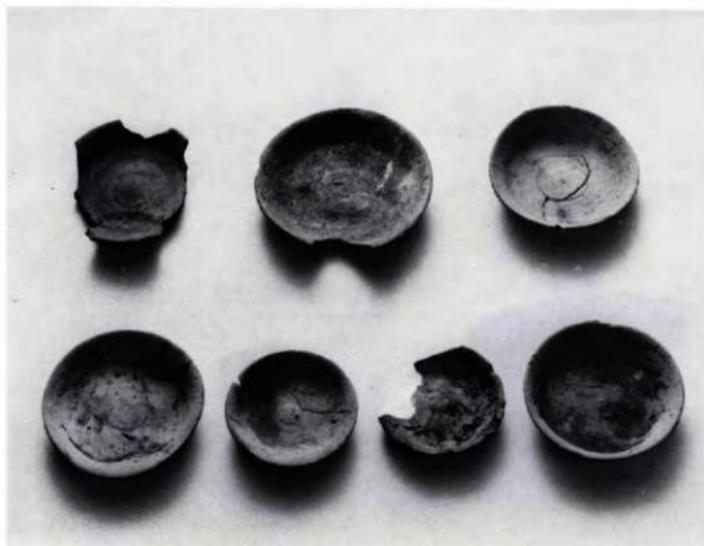
図版18 V層面土器（坏類）



図版19 V層面瓦質土器（捺り鉢他）



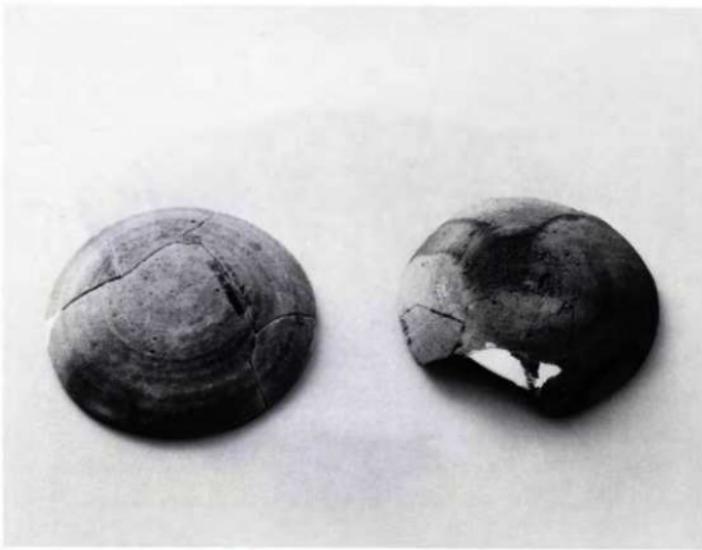
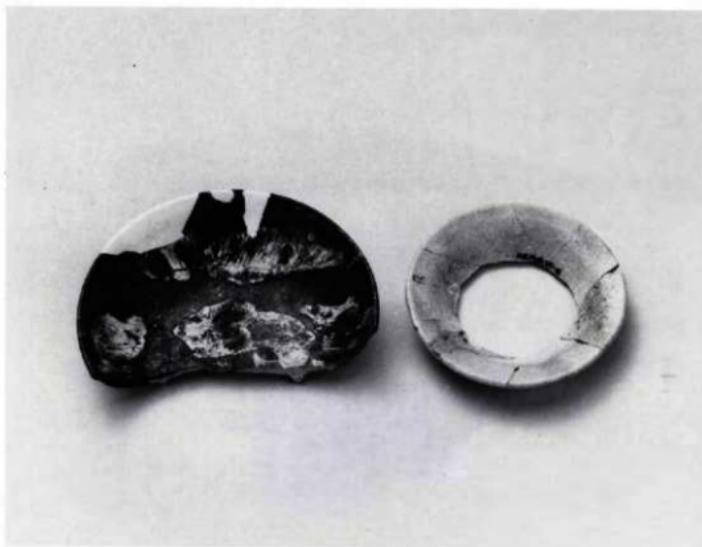
図版20 V層面土器（坏類）



圖版21 整地層下層出土瓦質土器



圖版22 不明土壤出土陶磁器、下段 須恵器（蓋）



図版23 Ⅳ層(包含層)出土須恵器、下段 土師器



圖版24 銀層（包含層）出土土師器



図版25 Ⅳ層(包含層)出土須恵器、下段 土師器



圖版26 陶器（包含層）出土土師器、下段 須惠器



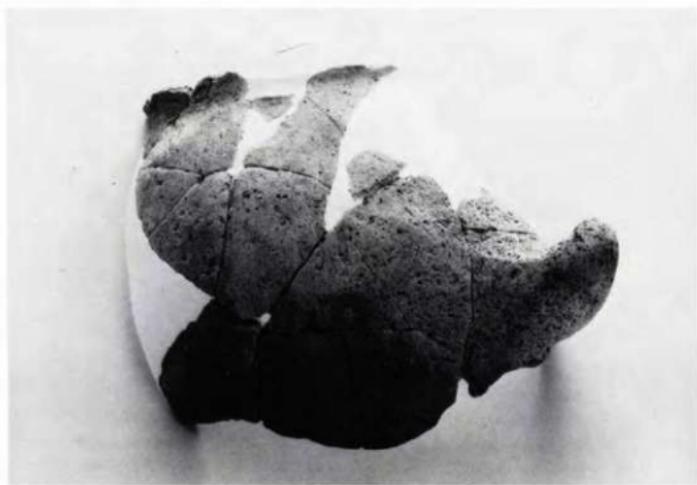
図版27 4号整穴住居跡内土壤上面出土遺物



図版28 4号土壤上面出土須恵器

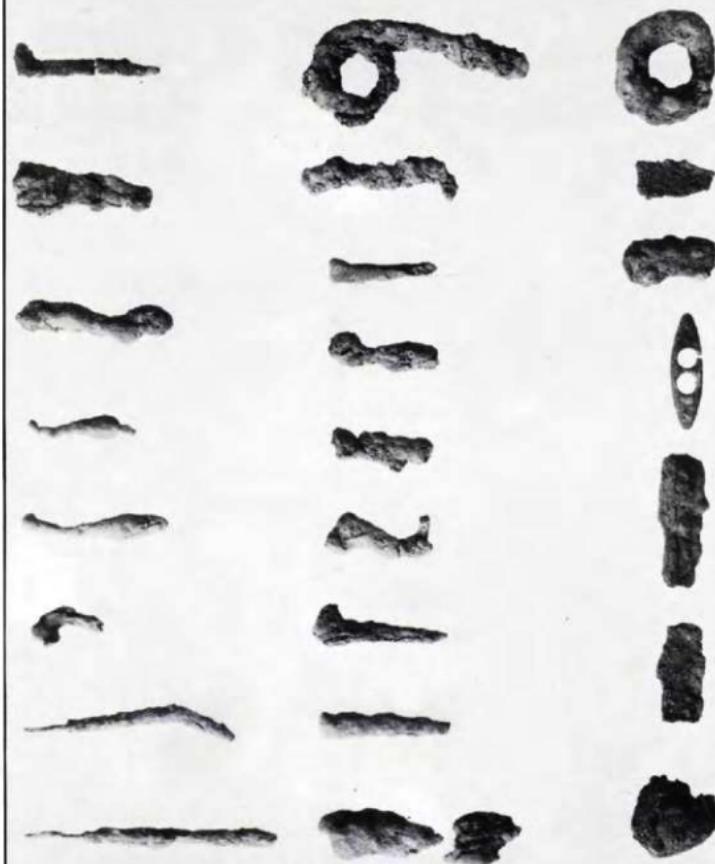


図版29 陶器（包含層）出土土師器・須恵器



図版30 VI層（包含層）出土須恵器及び石器・不明土遣構内24号土壙出土石臼





第31図 内牧城跡出土鉄器

図版32 掘乱層からの遺物



報告書抄録

| | |
|--------|--------------------------|
| ふりがな | うちのまきじょうあと |
| 書名 | 内牧城跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 阿蘇町文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第4集 |
| 編著者 | 緒方 徹 |
| 編集機関 | 阿蘇町教育委員会 |
| 所在地 | 〒869-23 熊本県阿蘇郡阿蘇町大字内牧148 |
| 発行年 | 平成8年3月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------------------|--|-------|------|-------------------|--------------------|-------------------------------|------|------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| うちのまきじょうあと 内牧城跡 | くまもとけん あそぐん 熊本県阿蘇郡 あそまち おおあざ 阿蘇町大字 うちのまき なかまち 内牧中町 267-3~267-7 | 43422 | | 32° 58' 23" | 131° 02' 36" | 1994.11.02 ~ 1995.02.03 | 690m | 道路改良 工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特注事項 |
|-------|----|--------|---------------------------|------------------------------|--|
| 内牧城跡 | 城郭 | 戦国時代中期 | 整地面 | 土師器 陶器 瓦質土器 鉄・銅製品 | 遺物の出土が少なく、不明な点が多い。 |
| | | | 掘立柱建物 土壙 溝 | 土師器・陶器 瓦質土器 鉄製品 石製品 | 美濃焼及び土師器窯は特に注目される。 |
| | 集落 | 平安時代前期 | 掘立柱建物 竪穴式住居 土壙 溝 | 土師器 須恵器 陶器 | 8c~9cの集落跡は阿蘇町では初例。特に遺物は空白だった阿蘇地方の在地生産体制を検討する上で、貴重な資料である。 |

あとがき

このたび、「内牧城跡」の発掘調査報告書を発行することができました。厳しい寒さの中での発掘から次年度の報告書完成に至るまで期限に追われ、右も左もわからない状態でしたが、やっとの思いで終了しました。これも一重に多くの方々のご指導・ご協力があったからこそ成しえたことだと思います。本当に世話になりました。

最後に、殆どの方が初めて発掘に携わったにもかかわらず、降雪の中、休みもなく作業して頂いた作業員の皆さんに、心から感謝の意を表します。

阿蘇町文化財調査報告書 第4集

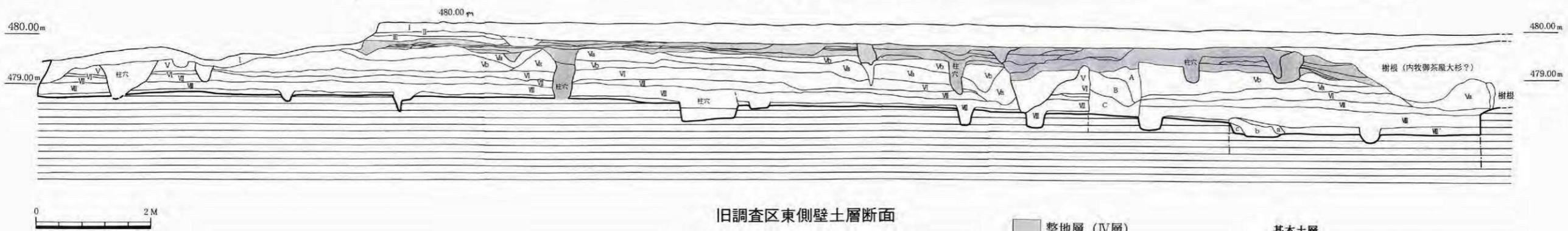
内牧城跡

平成8年3月31日

編集発行 阿蘇町教育委員会
〒869-23 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧148

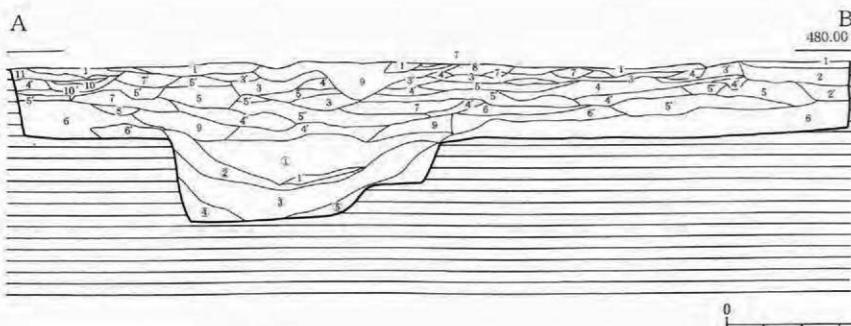
印刷 佐伯綜合印刷有限会社
〒869-22 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地1862

整地面残存部

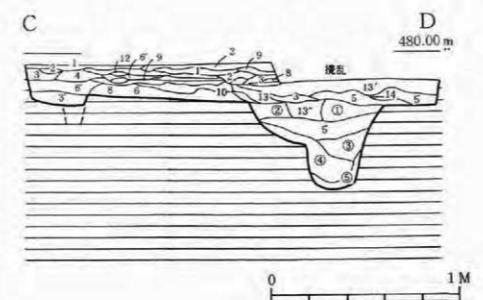


旧調査区東側壁土層断面

■ 整地層 (IV層)



整地面横断面図



整地層

- 1 層 黒褐色土 (2.5Y3/2) 黄砂の粒子をまだらに含む微粘性、硬質
- 2 層 黒褐色土 (2.5Y3/2) *
- 2' 層 黑褐色土 (2.5Y3/2) *
- 3 層 喀褐色砂質土 (10YR3/3) 砂をまだらに含み、黄砂の粒子を少量混入
- 3' 層 喀褐色砂質土 (10YR3/3) *
- 4 層 喀褐色砂質土 (10YR3/3) 上記に砂の割合が強くなる
- 4' 層 黄色砂 (10YR4/4)
- 4'' 層 黄色砂 (10YR4/4) 黑色土のブロック混入
- 5 层 灰色砂 (5Y6/1) 小石混入
- 5' 层 灰色砂 (5Y6/1) 小石多量混入
- 6 层 喀褐色砂粘質土 (7.5Y3/3)
- 6' 层 喀褐色砂粘質土 (7.5Y3/3) 黄砂の粒子が多量混入
- 7 层 喀褐色砂 (10YR3/3)
- 7' 层 喀褐色砂 (10YR3/3) 黑色土のブロック混入
- 8 层 喀褐色砂質土 (10YR2/2)
- 9 层 喀褐色砂粘質土 (7.5YR3/4) 砂・カーボン・黄砂混入
- 10 层 喀褐色砂質土 (5YR4/2)
- 10' 层 喀褐色砂粘質土 (5YR4/2) 黑色土のブロック混入
- 11 层 黑褐色砂質土 (10YR3/1)
- 12 层 黄砂ブロック (2.5Y7/8)
- 13 层 喀褐色砂質土 (7.5Y4/2) カーボンを多量に含んで、施土の粒子を少量混入
- 13' 层 喀褐色砂質土 (7.5Y4/2) 上記の割合が少くなり硬くしまる。ブロック状
- 13'' 层 喀褐色砂質土 (7.5Y4/2) 上記がブロック状ではなくなりかなりしまる
- 14 层 黑褐色土ブロック (7.5Y2/2)

1号溝跡土層注記

- ①層 黃褐色砂質土 (10YR4/4) 灰砂のブロックをまだらに含み、少し硬い
- ②層 黄褐色砂質土 (10YR4/4) より灰砂の割合が多くなる
- ③層 黄褐色砂粘質土 (7.5YR3/4) 結まりがなく柔らかい。施土・カーボンの粒子を少量含む
- ④層 黄褐色砂粘質土 (7.5YR3/4) より結まりがなくなり、施土・カーボンが混じらない
- ⑤層 黄褐色土 (7.5YR3/3) 砂質のブロックをまだらに含む。結まりがなく柔らかい
- ⑥層 黑褐色土ブロック (7.5Y2/2)

基本土層

- | | |
|---|-------|
| I 層 表土 (クラッシャーラン) | } 混乱層 |
| II 層 砂層 1 | |
| III 層 砂層 2 (小石混じり) | } 混乱層 |
| IV 層 混乱層 (細かく分層できるが、一括して下層とする) 不明整理跡。 | |
| Va層 灰オリーブ色砂質土 1 (Y5/2) 転運期遺構物出面。遺物少量含む。 | } 混乱層 |
| Vb層 灰オリーブ色砂質土 2 (Y4/2) Va層よりも色調が暗くなる。 | |
| VI層 灰褐色土 (10YR6/1) 無遺物層。移動ゴミが散在する程度。 | } 混乱層 |
| VII層 灰褐色土 (10YR4/2) 遺構物遺物含む層。(少量の遺物が入る) | |
| VIII層 黑褐色土 (10YR3/1) 平安期遺物検出面。 | } 混乱層 |
| IX層 黑褐色土 (10YR4/6) 平安期遺物検出面。 | |
| X層 黃褐色砂質土 (10YR6/5) 白色砂粒状の火山灰が混じるローム層である。 | } 混乱層 |
| XI層 黃褐色砂質土 (10YR7/8) X層よりも粘性が強くなる。 | |

A 地土地
B 黑褐色土 (燒土混入)
C 燃分ブロック

この電子書籍は、合併前の旧阿蘇町教育委員会が刊行した阿蘇町文化財調査報告書第4集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので画像図版などは低解像化しています。

底本は、阿蘇市立図書館、熊本県内の市町村教育委員会、熊本県立図書館、国立博物館、国立国会図書館などに配布しています。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：内牧城跡

発行：阿蘇市教育委員会

〒869-2695 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 504 番地 1

電話：0967-22-3229

URL : <http://www.city.aso.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2022年1月12日